

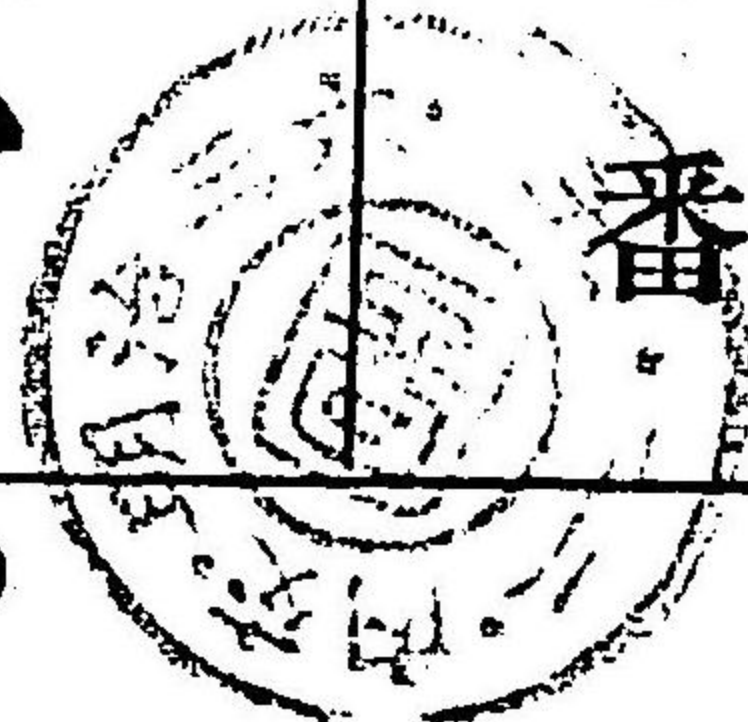
特62 70

NEW TESTAMENT

大
日
本
聖
書
館

新
約
全
書

橫濱山下町六十番



PUBLISHED
BY THE

BIBLE SOCIETIES' COMMITTEE FOR JAPAN.

No. 6 Type.

1903.

New Ed.

新約全書目錄

馬太傳福音書	計二十八章	達提摩太前書	計六章
馬可傳福音書	計十六章	達提摩太後書	計四章
路加傳福音書	計二十四章	達提摩多書	計三章
約翰傳福音書	計二十一章	達腓利門書	計一章
使徒行傳	計二十八章	達希伯來人書	計十三章
達羅馬人書	計十六章	雅各書	計五章
達哥林多人前書	計十六章	彼得前書	計五章
達哥林多人後書	計十三章	彼得後書	計三章
達加拉太人書	計六章	約翰第一書	計五章
達以弗所人書	計六章	約翰第二書	計一章
達腓立比人書	計四章	約翰第三書	計一章
達哥羅西人書	計四章	猶太書	計一章
達帖撒羅尼迦人前書	計五章	約翰默示錄	計二十二章
達帖撒羅尼迦人後書	計三章		

目錄終

れば十九夫ヨセフ義人なる故に之を辱しむることを願はず密に離縁せんと思へり二十斯て此事を思念せる時に主の使者かれが夢に現れて曰けるはダビデの裔ヨセフよ爾妻マリヤを娶ふことを懼るる勿その孕る所の者は聖靈に由なり三かれ子を生ん其名をイエスと名くべし蓋その民を罪より救はんといふ也三凡て此事は預言者に託て主の曰たまひし言に二三處女はらみて子を生ん其名をインマヌエルと稱べしと有に應せん爲なり其名を譯は神われらと偕に在との義なり二四ヨセフ寢より起て主の使者の命ぜし言に遵ひ其妻を娶たれど二五冢子の生るるまで牀を共にせざりき其生れし子をイエスと名けたり

夫イエスはヘロデ王の時エダヤのベテレヘムに生れ給しが其とき博士たち東の方よりエルサレムに來り二曰けるはエダヤ人の王きて生れ給る者は何處に在す乎われら東の方にて其星を見れば彼を拜せん爲に來れり三ヘロデ王これを聞て痛む又エルサレムの民もみな然り四凡の祭司の長と民の學者とを集てヘロデ問けるはキリストの生るべき處は何處なる乎五答けるはエダヤのベテレヘムなり蓋預言者の録されたる言に六エダヤの地ベテレヘムよ爾はエダヤの郡中にて至小きものに非ず我イスラエルの民を牧ふべき君その中より出んご云ばなり七是に於てヘロデ密に博士等を召星の現れし時を詳に問て八彼等をベテレヘムに遣さんとして曰けるは往て嬰兒の事を細に尋これに遇ば我に告ふ我も亦ゆきて拜すべし九かれら王の命を聞て往り前に東の方にて見たりし星かれらに先ちて嬰兒の居所にいたり其上に止りぬ十彼等この星を見て甚く喜び十一既に室に入れれば嬰兒の其母マリ

アと偕に居を見ひれふして嬰兒を拜し寶の盒を開て黄金、乳香、沒藥など禮物を獻たり十二博士夢にヘロテへ返る勿この默示を蒙りて他の途より其國に歸れり十三彼等が去るのち主の使者ヨセフの夢に現れて曰けるはヘロデ嬰兒を索て殺さんとする故に起て嬰兒と其母とを挈へエジプトに逃て復わ爾に示さん時まで彼處に止れ十四ヨセフ起て夜嬰兒と其母とを挈へエジプトに往十五ヘロテの死るまで其所に止れり是主預言者に託て我わが子をエジプトより召出せりご云給ひしに應せん爲なり十六是に於てヘロテ博士に欺かれたるを去り大にかり人を遣して博士に詳く問たる時を度りベテレヘムと其境の内なる二歳以下の嬰兒を盡く殺せり十七即ち預言者エレミヤの言に十八歎き悲み甚く憂る聲ラマに聞ゆラケル其兒子を歎き其兒子の無によりて慰を得ずご云しに應へり十九斯てヘロテ死しかば主の使者ヨセフの夢にエジプトにて現れ曰けるは二十起て嬰兒とその母とを挈へイスラエルの地にゆけ嬰兒の生命を索る者ハ已に死り二彼おきて嬰兒と其母とを挈へてこゝを懼る又夢に告を蒙りてガリラヤの内ニ遊ニ三ナザレと云る邑に至りて居り彼はナザレ人と稱れんと預言者に託て云れたる言に應せん爲なり

當時バプテスマのヨハ子來りてエダヤの野に宣傳へて二曰けるは天國は近けり悔改めよ三是は主の道を備その路線を直せよと野に呼る人の聲ありと預言者イザヤが言し人なり四此ヨハ子は身に駱駝の毛衣をき腰に皮の帯をつかれ蝗蟲と野蜜を食物とせり五此

時エルサレム及びユダヤを擧またヨルダンの四方より人々出てヨハ子に就六己が罪を悔あらはしヨルダンにて彼よりバプテスマを授られたりセバプテスマを受んてパリサイ及サドカイの人々の多く來れるを見て彼等に曰けるは蠅の齧る誰なんぢらに來んとする怒を避べきことを告しや然る悔改に符ふ果を結べよ九爾曹われらが先祖にアブラハム有こ云こを意ふ勿れ我爾曹に告ん神の能この石をもアブラハムの子を爲しめ給ふなり今や斧を樹の根に置る故に凡て善果を結ざる樹は斫れて火に投入らるべし十一我は爾曹を悔改させんて水を以て爾曹にバプテスマを授く我より後に來者は我に勝て能力あり我は其履を提にも足す彼は聖靈と火をもて爾曹にバプテスマを授ん十二手には箕を持って其禾場を淨め麥は歛て其倉にいれ糠は熄ざる火にて燬べし十三斯時イエスヨハ子にバプテスマを受んてガリラヤよりヨルダンに來り給ふ十四ヨハ子辭て曰けるは我は爾よりバプテスマを受べき者なるに爾 反て我に來る乎 十五イエス答けるは暫く許せ如此すべての義き事は我儕盡す可なり是に於てヨハ子彼に許せり十六イエスバプテスマを受て水より上れるとき天忽ち之が爲にひらけ神の靈の鴿の如く降て其上に來るを見る 十七又天より聲ありて此の我心に適わが愛子なりと云り

第四章 倍イエス聖靈に導かれ惡魔に試られん爲に野に往り二十四日四十夜食ふ事なせず後うゑたり三試むる者かれに來りて曰けるは爾もし神の子ならば命じて此石をパンと爲よ四イエス答けるは人のパンのみにて生るものに非ず唯神の口より出る凡の言に因

し録されたり五是に於て惡魔かれを聖京に携へゆき殿の頂上に立てて曰けるは六爾もし神の子ならば己が身を投下蓋なんぢが爲に神の使等に命ぜん彼等手にて支へ爾が足の石に觸ざるやうすべし七録されたり七イエス彼に曰けるは主たる爾の神を試むべからず亦録せり八惡魔また彼を最高き山に携へゆき世界の諸國とその榮華を見せて九爾もし俯伏て我を拜せば此等を悉なんぢに與ふべしと曰 十イエス彼に曰けるはサタンよ退け主たる爾の神を拜し惟之にのみ事ふべしと録されたり十一終に惡魔かれを離れ天使たち來り事ふ 十二イエスヨハ子の囚れし事を聞てガリラヤに往 十三ナザレを去せゾルンとナフタリとの界なる海邊のカペナウンに至て此に居り十四これ預言者イザヤの言に十五ゼブルンの地ナフタリの地海に沿たる地ヨルダンの外の地異邦人のガリラヤ十六此等の幽暗に在る民の大なる光をみ死地と死陰に坐する者の上に光りてたりと云しに應せん爲なり 十七斯時よりイエス始て道を宣傳へ天國の近けり悔改めよと曰たまへり十八イエスガリラヤの海邊を歩てペテロと云シモンその兄弟アンデレと二人にて海に網うてるを見たり彼等ハ漁者なり十九之に曰けるは我に從へ我なんぢら人を漁る者と爲ん二十彼等やがて網を棄てイエスに從ふ 二一此より進けるに又ほかの兄弟二人即ちセベダイの子ヤコブと其兄弟ヨハ子父セベダイと偕に舟にて網を補へるを見て之を召しに 二三彼等も頓て舟と父とを置いてイエスに從へり 二四イエスガリラヤを偏く巡り其會堂にて教をなし夫國の福音を宣傳かつ民の中なる諸々の病もろくの疾を醫しぬ 二五その聲名あまれくス

リヤに播りしかば人々すべての患ふる者萬殊の病また痛惱る者あるひん鬼に憑たるもの
瘰癧、癩瘋の病に罹れる者を彼に携來ければ之を醫せり二五ガリヤヤセデカボリスエ
サレムエタヤヨルダンの外より多の人々きたり從ふ

第五言 イエス許多の人を見て山に登り坐し給ければ弟子等も其下に來れりニイエス口を
啓て侍等に教へ曰けるハ 三心の貧き者ハ 福なり天國ハ即ち其人の者なれば也 四哀む者の
福なり其人ハ安慰を得べければ也 五柔和なる者の福なり其人ハ地を嗣こさを得べけれ
ば也 六饑渴ここく義を慕者の福なり其人ハ飽こさを得べければ也 七矜恤ある者の福
なり其人ハ矜恤を得べければ也 八心の清き者の福なり其人ハ神を見こさを得べければ也
九和平を求る者の福なり其人ハ神の子と稱らる可ければなり 十義ここの爲に賣らるる者
ハ 福なり天國ハ即ち其人の者なれば也 十一我ために人なんぢらを訴譯また迫害いつはり
て各様の惡言をいはん其時ハ 爾曹 福なり 十二喜び樂め天に於て爾曹の報償をほけれ
ば也 十三爾曹は地の鹽なり鹽もし其味を失
はば何を以て故の味に復さん後ハ用なし外に棄られて人に踐るゝ而已 十四爾曹ハ世の光な
り山の上に建られたる城ハ隠るゝことを得ず 十五燈を燃して斗の下に置く者なし 燭臺に
置き 家に在すすべての物を照さん 十六此の如く人々の前に爾曹の光を耀かせ然れば人々なん
ぢらの善行を見て天に在す爾曹の父を榮むべし 十七われ律法と預言者を廢る爲に來
れりさ意ふ勿われ來て之を廢るに非ず 成就せん爲なり 十八われ誠に爾曹に告ん天地の靈

ざる中に律法の一 點一 畫も途つくさずして廢ることなし 十九是故に人もし誠の至微
き一を壞り又その如く人に教なば天國に於て至微き者と謂れん凡そ之を行ひ且人に教る
者の天國に於て大なる者と謂るべし 二十我なんぢらに告ん學者とパリサイの人の義より
も爾曹の義ここの勝すば必ず天國に入こさ能じ 〇二一 古の人に告て殺こす勿れ殺す者の
審判に干らんと言ること有ハ 爾曹が聞し所なり 二三然ぞ我なんぢらに告ん凡て故なくして
其兄弟を怒る者は審判に干らん又その兄弟を愚者よこいふ者の集議に干らん又狂妄
よこいふ者の地獄の火に干るべし 二三是の故に爾もし禮物を携へて壇に往たる時ハしこ
にて兄弟に恨るゝこあるを憶起さば 二四その禮物を壇の前に留まづ往て爾の兄
弟と和せ後きたりて爾の禮物を獻よ 二五爾を訴ふる者と偕に途間にある時はやく和げ
よ 恐くハ訴ふる者なんぢを 審官に付し 審官また爾を下吏に付し遂に爾ハ獄に入れん
二六 我まこに爾に告ん分幣までも償はざれば必ず其所を出ること能ざる也 〇二七 古の
人に告て姦淫すること勿言ることあるハ 爾曹が聞し所なり 二八然ぞ我なんぢらに告ん凡
そ婦を見て色情を起す者ハ 中心すでに姦淫したる也 二九もし右の眼なんぢを罪に陥さ
ば抉出して之を棄蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝよりハ勝れり 三十もし右
の手なんぢを罪に陥さば之を斷て棄蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝよりハ
勝れり 〇三一 また曰るゝこあり凡そ人その妻を出さんとせば之に離縁狀を與ふべし 三二
然ぞ我爾曹に告ん姦淫の故ならで其妻を出す者ハ之に姦淫なさしむるなり又出されたる婦

を娶る者も姦淫を行ふなり ○三三また古の人に告て偽の誓を立てることを勿れんち誓ふ所は必ず主に遂べしと言ふこと有る爾曹が聞し所なり三四然と我なんぢらに告ん更に誓ふこと勿れ天を指て誓ふ勿れ是神の座位なれば也三五地を指て誓ふこと勿れ神の足凳なれば也エルサレムを指て誓ふこと勿れ大王の京城なれば也三六爾の首を指て誓ふ勿れ一すぢの髪だに白し黒すること能されば也三七爾曹たゞ是や否やといへ此より過る悪より出るなり ○三八目にて目を償ひ齒にて齒を償へと言ふこと有る爾曹が聞し所なり 三九然と我なんぢらに告ん惡に敵すること勿れ人なんぢの右の頬を批ば亦ほかの頬をも轉して之に向ふ四十爾を訟て裏衣を取んとする者に外服をも亦さらせよ 四一人なんぢに里の公役を強なげ之と偕に二里ゆけ 四二爾に求る者に手へ借んとする者を卻くる勿れ ○四三爾の隣を愛みて其敵を憾べしと言ふこと有る爾曹が聞し所なり 四四然と我なんぢらに告ん爾曹の敵を愛み爾曹を誚ふ者を祝し爾曹を憎む者を善視し慮遇迫害もの爲に祈禱せよ 四五如此する天に在す爾曹の父の子ならん爲なり夫天の父其日を善者にも惡者にも照し雨を義き者にも義からざる者にも降せ給へり 四六爾曹おのれを愛する者を愛する何の報賞あらん 稅吏も然せざらん乎 四七安否を兄弟にのみ問へ人より何の過たる事かあらん 稅吏も然せざらん乎 四八是故に天に在す爾曹の父の完全が如く爾曹も完全すべし

第六章

なんぢら人に見せん爲に其義を人の前に行ことを慎もし然すば天に在す爾曹

の父より報賞を得じ 二是故に施濟を行き人々の榮を得ん爲に會堂や街衢にて偽善者の如く 箠を己が前に吹しむる勿れ我まこと爾曹に告ん彼等ハ既にその報賞を得たり 三なんぢ施濟をするとき右の手の爲に左の手に知る勿れ 四如此するハ其施濟の隠れんが爲なり 然ハ隠たるに鑿たまふ爾の父ハ明顯に報たまふべし ○五なんぢ祈る時に偽善者の如する勿れ彼等ハ人に見られんが爲に會堂や街衢の隅に立て祈ことを好われ誠に爾曹に告ん彼等ハ既にその報賞を得たり 六なんぢ祈る時ハ嚴密なる室にいり戸を閉て隠微たるに在す爾の父に祈れ然ハ隠微たるに鑿たまふ爾の父ハ明顯に報たまふべし 七爾曹祈る時ハ異邦人の如く重複語を言なけれ彼等ハ言もほきを以て聽れんと思へり 八是故に彼等に效ふこと勿れ爾曹の父ハ求る先に其需用物を知たまへば也 九然ば爾曹が祈るべし天に在す我儕の父ハ願くば爾名を尊崇させ給へ 十爾國を臨らせ給へ爾旨の天に成ること地にも成せ給へ 十一我儕の日用の糧を今日も與たまへ 十二我儕に負債ある者を我儕がゆるす如く我儕の負債をも免し給へ 十三我儕を試探に過せず惡より拯出し給へ國と權と榮の窮りなく爾の有なればなりアメン 十四爾曹もし人の罪を免さば天に在す爾曹の父も亦なんぢらに免し給はん 十五然ともし人の罪を免さずば爾曹の父も爾曹の罪を免し給はざるべし ○十六なんぢら斷食するとき偽善者の如き愛容をする勿れ彼等は斷食を人に見ん爲に顔色を損ふ我まことに爾曹に告ん彼等ハ既に其報賞を得たり 十七なんぢ斷食する時ハ首に膏をぬり面を洗へ 十八如此するハ爾の斷食人に見ずして隠微たるに在す爾の父に現れんが爲なり 然ハ隠

徴たるに鑿たまふ爾の父の明顯に報たまふべし○十九 蠶くひ鑿くさり盗うがちて竊む所の地に財を蓄ふることを勿れ二十 蠶くひ鑿くさり盗穿て竊ざる所の天に財を蓄ふべし
 二一 蓋なんぢらの財の在る所に心も亦ある可れ也○二三 身の光の目なり若なんぢの目瞭かならば全身も亦明なるべし二三 若なんぢの目眩らば全身暗かるべし是故に爾中の光もし暗かりば其暗き如何に大ならず乎 二四 人の主に事ることを能はず蓋これに我なんぢらに告ん生命の爲に何を食ひ何を飲また身體の爲に何を衣んか憂慮すること勿れ生命の糧より優り身體の衣より優れる者ならず乎 二六 なんぢら天空の鳥を見よ稼ごことなく種ごきを爲す倉に蓄ふることをなし然るに爾曹の天の父の之を養ひ給へり爾曹之よりも大に勝る者ならず乎 二七 爾曹のうち誰か能おもひ煩ひて其生命を寸陰も延得んや 二八 また何故に衣のこきを思わづらふや野の百合花の如何して長かと思へ勢す紡がざる也 二九 われ爾曹に告んソロモンの榮華の極の時だにも其装束の花の一に及ざりき 三十 神の今日野に在て明日燼に投入らるる草をも如此よそはせ給へば況て爾曹をや嗚呼信仰うすき者よ 三一 然ば何を食ひ何を飲なにを衣んさて思わづらふ勿れ 三二 此みな異邦人の求る者なり爾曹の天の父の凡て此等のもの必 需ごきを知らたまへり 三三 爾曹まづ神の國ご其義ごきを求めよ然ば此等のもの皆なんぢらに加らるべし 三四 此故に明日の事を憂慮なけれ明日の事を思わづらへ一日の苦勞の一日にて足り

第三言

人を議するごこと勿れ恐くハ爾曹もまた議せられん 二 爾曹が人を議する如く己も議せらるべし 爾曹が人を量るごこと己も量らるべし 三 なんぢ兄弟の目にある物屑を視て己の目にある物屑を我に取せよと曰ごことを得んや 五 偽善者よ先あのれより梁木をさされ然ば兄弟の目より物屑を取れるや 明かに見べし 六 大に聖物を與ふる勿また家の前に爾曹の眞珠を投與る勿れ恐くハ足にて之を踐ふりか へりて爾曹を噬やぶらん 七 求よ然ば與らる者ハ開かる可ればなり 九 爾曹のうち誰か其子パンを求めんに石を予んや 十 また魚を求めんや 十一 然ば爾曹 惡き者ながら善賜を其子に與ふるを知らして天に在す爾曹の父の求る者に善物を予さらん乎 十二 是故に凡て人に爲られんご欲ごことハ爾曹また人にも其ごこと爲よ是律法ご預言者なる也 十三 窄き門より入りよ沈淪に至る路ハ濁その門ハ大なり此より入りもの多し 十四 命に至る路ハ窄その門ハ小し其路を得もの少なり 十五 偽の預言者を謹めよ彼等ハ綿羊の姿にて爾曹に來れども内ハ殘狼なり 十六 是の果に由て知べし誰か荆棘より葡萄をとり蒺藜より無花果を採ごことをせん 十七 凡て善樹ハ善果を結び惡樹ハ惡果を結び 十八 善樹ハ惡果を結ばず惡樹ハ善果を結ぶごこと能ざる也 十九 凡そ善果を結ざる樹ハ斫れて火に投入らる 二十 是故に其果に由て之を知べし 二一 我を召て主よ主よと曰もの 盡く天國に入に非ず唯これに入者ハ我天に在す父の旨に遵ふ者のみなり 二二

其日われに語て主よ主の名に託てをしへ主の名に託て鬼をひ主の名に託て多く異能を行しに非ずやと云もの多からん三三其時われらに告われ嘗て爾曹を知らず惡をなす者よ我を離去と曰ん二四是故に凡て我の言を聽て行ふ者を磐の上に家を建たる智人に譬ん二五雨ふり大水いで風ふきて其家を撞ごも倒るることなし是磐を基礎と爲たれば也二六凡て我の言を聽て行ふ者を沙の上に家を建たる愚なる人に譬ん二七雨ふり大水いで風ふきて其家を撞ご終に倒れてその傾覆おほいなり二八イエス此等の言を語竟たまへるとき集りたる人々その教を駭きあへり二九そは學者の如ならず權威を有る者の如く教たまへば也

第八章

イエス山を下しき多の人々これに従へり二癩病の者きたり拜して曰ける主もし旨に適さき我を潔なし得べし三イエス手を伸かれに按て我旨に適へり潔なれと曰ければ癩病たごちに潔れり四イエス彼に曰ける慎て人に告る勿れ唯ゆきて己を祭司に見せ且モーセの命せし禮物を獻て彼等に證據をせよ五イエスカペナウンに入しき百夫の長きたり願て曰ける六主よ我僕癩瘋をやみ家に臥めて甚だ惱めり七イエス曰ける我ゆきて之を醫すべし八百夫の長きたへける主よ我なんぢを我が屋下に入奉るの恐れ多し唯一言を出し給へと我僕愈ん九蓋われ人の權威の下にある者なるに我下に亦兵卒ありて此に往と曰べゆき彼に來れと曰べ來る我僕に此を行と曰べ即ち行が故なり十イエスこれを聞て奇み從へる人々に曰ける我まことに爾曹に告んイスラエルの中

にだに未だ斯る篤信に遇ざる也十一われ爾曹に告ん多の人々東より西より來てアブラハムイサクヤコブと偕に天國に坐し十二國の諸子の外の幽暗に逐出され其處にて哀哭切齒すること有ん十三イエス百夫の長に往なんぢが信仰の如く爾に成べしと曰たまへる其時に僕愈たり十四イエスペテロの家に入その岳母の熱を煩ひ臥ぬたるを見て十五その手に捫ければ即ち熱されり婦おきて彼等に事ふ十六日暮たるとき人々鬼に憑れたる者を多く携來ければイエス言にて鬼を逐出し病ある者を悉く醫せり十七預言者イザヤに托て自ら我儕の恙を受われらの病を負と曰たまひしに應せんが爲なり十八偕イエス多の人々の己を環るを見て弟子に命じ向の岸に往んせし給しに十九ある學者きたりて曰ける師よ何處へ行給ふとも我從はん二十イエス之に曰ける狐の穴あり天空の鳥の巢あり然る人の子に枕する所なし三二また弟子の一人いひける主よ先ゆきて父を葬ることを我に容せ三三イエス曰けるは我に従へ死たる者に其死し者を葬らせよ〇三三イエス舟に登ければ弟子等も之に従ふ三四此とき大なる颶風おこりて舟を蔽ばかりなる浪たちしにイエス舟の寝たり三五弟子等これに近きて醒し曰ける主よ救たまへ我儕亡んぞと三六イエス彼等に曰ける信仰うすき者よ何ぞ懼るや遂に起て風と海とを斥ければ大に平息になりぬ三七人々奇みて曰ける此の如何なる人ぞ風も海も之に従ひたり〇三八イエス向の岸なるガダラ人の地に至れるとき鬼に憑れたる二人のもの墓より出て彼を迎ふ猛きと甚しくして其途を人の過ること能はざりしほご也二九かれら呼叫て曰ける神の子イエスよ我儕

なんぢさ何の興あらん乎いまだ時いたらざるに我儕を責んきて此處に来る、三十逾はな
 れて家の多のむれ食し居ければ三三鬼イエスに求めて曰ける、若われらを逐出さんとならば
 家の群に入らざるを容せ三三彼等に往き曰ければ鬼いでて家の群に入しに惣のむれ山坂より
 逸て海にいり水に死たり三三牧者も邑に逃走て此事を鬼に憑れたりし者の事を告げれば
 三三 イエスに逢んきて邑の者舉て出きたり彼を見て此境を出んことを願へり

第九節 イエス舟に登りたりて故邑に至ければ二癡癡にて床に臥たる者人々昇來れり
 イエス彼等が信するを見て癡癡の者に曰ける、子よ、心安かれ爾の罪赦れたり三ある學
 者たち心の中に謂ける、此人の變遷を言り、四イエスその意を知て曰ける、爾曹いかなれ
 ば心に惡を懷ふや、五爾の罪赦されたりと言て起て歩めと言て執り易き六それ人の子地にて
 罪を赦すの權あることを爾曹に知せんきて遂に癡癡の者に起て床をさり家に歸れ、曰けれ
 ば七起て其家に歸りぬ八人々これを見て奇み此の如き權を人に賜し神を崇たり、九イエス
 此より進往マタイと名くる人の税關に坐し居けるを見て我に従へ、曰ければ起て從へり
 十イエス彼が家に食するとき税吏罪ある人をもほく來りてイエス及その弟子と偕に坐しけ
 れば十一パリサイの人これを見て其弟子に曰ける、爾曹の師何故税吏や罪ある人
 偕に食する乎、十二イエス聞て彼等に曰ける、康強なる者の醫者の助を需す、唯病ある者
 これを需す、十三われが憐れを欲て祭祀を欲すといふ此の如何なる意か、往て學ぶべし、夫わが來る
 義人を招ために非ず罪ある人を招きて悔改せんが爲なり、十四其時ヨハ子の弟

子イエスに來て曰ける、我儕とパリサイの人とをば、斷食するに師の弟子の斷食せざる
 の何故ぞ、十五イエス彼等に曰ける、新耶の友、その新耶と偕に居うち、哀むことを得んや
 將來新耶をひきさらるる日きたらん其時に、斷食すべし也、十六新き布を以て舊き衣を補
 ふ者、あらじ蓋つくるふ所のもの、反て之を壞その縫ひ尤も甚だしからん、十七また新き酒を
 舊き革嚢に盛る者、あらじ若し、せば嚢はりさけ酒もれいで、其嚢も亦壞らん、新
 酒を盛る者、あらじ若し、せば嚢はりさけ酒もれいで、其嚢も亦壞らん、新
 拜して曰ける、我女いま既に死り來て、彼に手を按たまへ、生べし、十九イエス起て彼に従ひ
 其弟子と偕に往、二十二年血漏を患へる婦、うしろに來て、其衣の裾に捫れり、二蓋もし衣
 にだにも捫らば愈んぞ意へばなり、三三イエスふりかへり婦を見て曰ける、女よ、心安かれ
 爾の信仰なんぢを愈せり、即ち婦この時より愈、三三イエス卒の家に入しに、留ふ者あよび
 多の人の泣眺を見て、三四之に曰ける、退け女、死るに非ずたり、寢たるのみ人、イエスを
 啜笑ふ、三五彼等を出し、後、りて其手を執し、女起たり、三六此聲名あまなく、其地に播り
 ぬ、三七イエス此を去き、二人の醫者またがひて呼ひひける、ハダビテの裔、我儕を濟み給へ
 三八 イエス家に入しに、醫者きたりければ、彼等に曰たまひける、我此事を行得るを信する
 や、答ける、主、然り、三九イエス彼等の目に手を按て、爾曹の信する如く、爾曹に成べし、曰
 ければ、三十其目ひらけたり、イエス嚴く戒て之に曰ける、慎て人に知する勿れ、三一然
 ども彼等いで、遍く其地に、イエスの名を播めたり、〇三三醫者の出るとき、人々鬼に憑れた

暗啞をイエスに携來りしに三三鬼おひいだされて暗啞ものいへり衆人あやしみ曰けるハ
 イスラエルの中にも未だ斯る事の見ざりき三四パリサイの人いひけるハ彼鬼の王に藉て鬼
 を逐出せる也○三五イエス遍く都邑を廻その會堂にて教をなし天國の福音を宣傳へ民の
 中なる諸の病すべての疾を愈せり三六牧者なき羊の如く衆人なやみ又流離になりし故に
 之を見て憫みたまふ三七其とき弟子等に曰給けるは收稼の多く工人は少し三八
 故に其稼主に工人を收稼場に送んことを願ふべし

借イエスその十二弟子をよび彼等に汚たる鬼を逐いだし又すべての病すべての疾
 ひを醫す權を賜へり二その十二使徒の名ハ左の如し首にハペテロ名け給ひしシモンそ
 の兄弟アンデレゼベダイの子ヤコブその兄弟ヨハ子三ピリポバルトロマイトマス税
 吏マタイアルバイの子なるヤコブタツダイ名くるレツバイ四カナンのシモンイスカリオ
 テのユダ是すなりチイエスを賣し者なり○五一イエスの十二を遣さんとして命じ曰ける
 ハ異邦の途に往なかれ又サマリヤ人の邑にも入なかれ六惟イスラエルの家の迷へる羊に往
 七往て天國近に在る宣傳よ八病の者を醫し癩病を潔し死たる者を甦らせ鬼を逐
 出すことなせよ爾曹價なしに受たれば亦價なしに施すべし九爾曹金またハ銀またハ錢
 を貯へ帶る勿れ十行囊二の裏衣履杖も亦然そは工人の其食物を得は宜なり
 十一凡そ郷邑に至らば其中の好人を訪て出るまでハ其處に留れ十二人の家にいらば其平
 安を問十三その家もし平安を得べき者ならば爾曹の願ふ平安は其家に至らん若し平安を受

べからざる者ならば爾曹の願ふ平安ハ爾曹に歸るべし十四もし爾曹を接す爾曹の言を聽さ
 る者あらば其家またハ其邑を去るとき足の塵を拂へ十五われ誠に爾曹に告ん審判の日到リ
 ドムゴモラの地の此邑よりも却て易からん○十六われ爾曹を遣すハ羊を狼の中に入る
 が如し故に蛇の如く智く鶴の如く馴良かれ十七慎て人に戒心せよ蓋人なんぢらを集議所
 に解し又その會堂にて鞭つべければ也十八又わが緣故に因て侯伯よむび王の前に曳るべし
 是かれらと異邦人に證をなさんか爲なり十九人なんぢらを解さば如何にを言んと思ひ
 煩らふ勿れ其とき言へき事ハ爾曹に賜るべし二十是なんぢら自ら言に非ず爾曹の父の靈そ
 の裏に在て言なり二一兄弟ハ兄弟を死に付し父は子を付し子ハ兩親を訴へ且これを殺
 さしむべし二三又なんぢら我名の爲に凡の人に憚れん然終まで忍ぶ者ハ救はるべし二三
 この邑にて人なんぢらを責むば他の邑に逃れよ我まここに爾曹に告ん爾曹イスラエルの諸
 邑を廻盡さる間に人の子ハ來るべし二四弟子ハ師より優らず僕は主より優らざる也二五
 弟子ハ其師の如く僕ハ其主の如ならん足らば若し人主を呼てベルセブル云々況て其
 家の者をや二六是故に彼等を懼るること勿そは掩れて露れざる者なく隠て知れざる者なけ
 れば也二七われ幽暗に於て爾曹に告しことを光明に述べ耳をつけて聽しことを屋上に宣播
 めよ二八身を殺して魂を殺すこと能はざる者を懼るること勿れ唯なんぢら魂と身を地獄
 に滅し得る者を懼れよ二九二羽の雀ハ一錢にて售に非ずや然るに爾曹の父の計なくば其
 一羽も地に隕ること有じ三十爾曹の頭の髮また皆かぞへらる三二故に懼るること勿れ爾曹ハ多

の雀よりも優れり三三然れ凡そ人の前に我を識言人者我も亦天に在す我父の前に之を識言人三三人の前に我を識言人者我も亦天に在す我父の前に之を識言人三三
 三三 地に泰平を出ん爲に我來れり意なけれ泰平を出さんに非す刃を出さん爲に來れり
 三五 夫わが來る人其父に背かせ女を其母に背かせ其姑に背かせんが爲なり三六
 人の敵其家の者なるべし三七 我よりも父母を愛む者我に協ざる者なり我よりも子
 女を愛む者我に協ざる者なり三八 その十字架を任て我に従はざる者も我に協ざる者な
 り三九 その生命を得る者之を失ひ我ために生命を失ふ者之を得べし四十 爾曹を接る者
 我を接る也また我を接る者我を遣しと者を接るなり四一 預言者なるを以その預言者な
 接る者預言者の報賞をうけ義人なるを以その義人を接る者義人の報賞を受四二
 わが弟子なるをもて小き一人の者に冷なる水一杯にても飲する者誠に爾曹に告ん必ず
 其報賞を失はじ

【第二十二節】 イエスその十二弟子に示 畢しき此處をさり道を教へ廣んが爲に彼等の諸邑
 に往り○ 二偕ヨハ子賦にてキリストの行し業を聞その弟子二人を彼に遣して三曰せける
 來へき者爾なるか又われら他に待べき乎四 イエス彼等に答て曰けるハ爾曹を聞こころ見
 こころの事をヨハ子に往て告よ五 賢者み跛者みあゆみ癩病人の潔まり跛者みきく死た
 る者の復活され貧者ハ福音を聞せらる凡そ我ために蹶かざる者ハ福なり○ 七 彼等
 の歸れる後イエスヨハ子の事を人々に曰けるハ爾曹何を見んさて野に出しや風に動さるる

華なる乎八 然れ爾曹何を見んさて出しや美 服を着たる人なるか美 服を着たる
 者ハ王宮に在 九 然れ何を見んさて出しや預言者なるか 然れ爾曹に告ん彼ハ預言者より
 も卓越たる者なり 十 夫なんぢに先ちて道を備る我が使者を我なんぢの前に遣んさ録された
 るハ即ち是なり 十一 誠に爾曹に告ん婦の生たる者の中いまだバプテスマのヨハ子より大な
 る者ハ起らざり然れ天國の最小き者も彼より大なる也 十二 バプテスマのヨハ子の時
 より今に至るまで人々勵て天國を取んごす勵たる者之を取り 十三 それ凡の預言者法律
 法の預言したるハヨハ子の時までなれば也 十四 若なんぢら我言を承ることを好まば來べ
 きエリヤハ是なり 十五 耳ありて聽ゆる者ハ聽べし 十六 我この世を何に譬んや童子街に坐
 し其侶を呼て 十七 われら笛ふけども爾曹を知らず哀をすれども爾曹胸うたす云に似た
 り 十八 蓋ヨハ子來て食ふこと飲ふことを爲されば鬼に憑れたる者なりと人々言り 十九 人の子
 きたりて食ふことなし飲ふことを爲れれば又食を嗜み酒を好む人 稅吏罪ある者の友也と
 いふ然れども智慧は智慧の子に義を爲らるる也 二十 厥時イエス多の異 能を行たまひた
 る諸邑の悔 改めざるに由て責いひけるハ 二一 あら禍なる哉 コラシムンと噫禍なる哉
 ベテサイダと爾曹の中に行し 異 能を若ソロモシドンに行しならん彼等ハ早く麻を灰
 を蒙りて悔 改しなるべし 二二 われ爾曹に告ん審判の日にハツロモシドンハ刑罰ハ爾曹よ
 りも却て易からん 二三 既に天にまで擧られしかバナウンよ又陰府に落さるべし 蓋なんぢに
 行し 異 能を若ソドムに行しならん今日までも尙保存しならん 二四 我なんぢらに告ん審判

の日にソドムの地の爾よりも却て易かるべし○二五 其さきイエス答て曰けるハ天地の主なる父よ此事を 智者達 者に隠して赤子に顯したまふを謝す 二六 父よ然それ此の如く聖旨に適るなり 二七 父ハ我に萬物を予たまへり父の外に子を識もの無また子よび子の顯す所の者の外に父を識者なし○二八 凡て勞たる者また重を負る者ハ我に來れ我なんぢらな息ません 二九 我ハ心 柔和にして謙遜者なれば我 軛を負て我に學なんぢら心に平安を獲べし 三十 蓋わが 軛ハ易わが荷ハ輕ければ也

當時イエス安息日に麥の畑を過しが其弟子たち飢て穂を摘食はじめたり 二一 パリサイの人これを見てイエスに曰けるハ爾の弟子ハ安息日に爲まじき事を行リ三之に答けるハダビデあよび從に在し者の饑しき行し事を未だ讀ざる乎 四 即ち神の殿に入て祭司の他ハ已あよび從に在る者も食ふまじき供のパンを食へり 五 また安息日に祭司は殿の内にて安息日を犯せども罪なき事を律法に於て讀ざる乎 六 われ爾曹に告ん殿より大なるもの茲に在せわれ 軛を欲て祭祀を欲すさハ如何なることか之を知罪なき者を罪せざるべし 八 それ人の子ハ安息日の主たるなり○九 此を去て彼等の會堂に入しに十一 手なへたる人ありければ彼等イエスを訴へんさて之に問けるハ安息日にハ醫すことを行へき乎 十一 彼等に曰けるハ爾曹の中に一の 羊を有る者あらんに若その羊 安息日に坑に陥らば之を擧上ざる乎 十二 人ハ羊より優ること幾何ぞや然ハ安息日に善を行ハ宜 十三 遂にその人に爾が手を伸よと曰ければ伸せり即ち他の手の如く愈 十四 パリサイの人いでよイエスを殺さん謀

れり 十五 イエス之を知て此を去しに多の人々これに従ふ凡て疾病ある者みな愈し 十六 我を人に露すこと勿れと戒たり 十七 此れ預言者イザヤの云し言に 十八 視よ我が選し我僕すなハ我 心に適たる我が愛む者われ之に我 靈を 賦ん彼異邦人に審判を示すべし 十九 彼ハ觀こさなく喧こさなし 人街に於て其聲を聞こさなし 二十 審判をして勝さげしむるまでハ傷る葦を折こさなく煙れる麻を熄こさなし 二一 異邦人も亦その名に頼べしと有に應せん爲なり○ 二二 爰に鬼に憑たる醫の瘡なる者ハイエスの所に携來りければ此醫の瘡を醫して言ひ見るやうに爲り 二三 衆人みな奇みて曰けるハ此ハダビデの裔には非ざる乎 二四 パリサイの人ききて曰けるハ此人ハ鬼の 王 ヘルセブルを役ふに非ざれば鬼を逐出こさなし 二五 イエスその心を知て彼等に曰けるハ凡て相争ふ國ハ亡び凡て相争ふ邑や家ハ立べからず 二六 サタン若サタンを逐出さば自ら相争ふなり然ハ其國 いかで立んや 二七 若われ ヘルセブルに由て惡鬼を逐出さば爾曹の子弟ハ誰に由て之を逐出すや夫かれらハ爾曹の裁判人さなるべし 二八 若われ 神の靈に由て鬼を逐出しくならば神の國ハもハや爾曹に至れり 二九 また勇士をまづ縛らざれば如何で其家に入その家具を奪ふことを得んや縛て後に其家を奪ふべし 三十 我と憐ならざる者ハ我に背き我と憐に飲ざる者ハ散すなり 三一 是故に爾曹に告ん人々の凡て犯す所の罪と神を潰こさハ赦れん然人々の聖靈を潰こさは赦るべからず 三二 言を以て人の子に背く者ハ赦るべし然言をもて聖靈に背く者ハ今世に於ても亦來世に於ても赦るべからず 三三 或は樹をも善とし其果をも善とせよ或は樹を

も悪し其果をも悪させよ夫樹は其果に由て知るなり三四 ありて其の裔よ爾曹惡にして
 何で善を言ふを得んや夫心に充るより口に言ふ者なれば也三五 善人は心の善庫より
 善ものを出し惡人のその惡庫より惡ものを出せり三六 われ爾曹に告ん凡て人のいふ所
 の虚言は審判の日に之を訴へざるを得じ三七 それ爾曹の言に由て義とせら
 れ又其いふ言に由て罪ありとせらるる也〇三八 此時ある學者とパリサイの人答て曰ける
 は師よ休徴をなして我儕に見せんことを爾に請ふ三九 答て彼等に曰けるは奸惡なる世の休
 徴を求されば預言者ヨナの休徴の外に之に休徴を與られじ四十 夫ヨナが三日三夜魚の腹の
 中に在し如く人の子も三日三夜地の中に在べし四一 二子ベの人審判の日に共に起て今の世
 の罪を定めん波等ヨナの誨に由て悔改たり夫ヨナより大なる者こそ在 四二 南の女王
 さびきの日に共に起て今の世の罪を定めん彼地の極よりソロモンの智慧を聽んきて來れ
 り夫ソロモンより大なるもの此にあり 四三 惡鬼人より出て早なる地を巡り安息を求めども
 得ずして曰けるは四四 我が出し家に歸らん既に來しに空虚にして掃淨り飾れるを見 四五
 遂に往て己よりも惡き七の惡鬼を携へ偕に入て此に居べその人の後の患狀の前よりも更に
 惡かるべし此あしき世もまた此の知ならん 四六 イエス人々に語なる時その母と兄弟が
 れに言はん外に立ければ四七 或人イエスに曰けるは爾の母と兄弟なんちに言はんことし
 て外に立り四八 イエス告し者に答て曰けるは我母の誰ぞ我兄弟の誰ぞや 四九 手を伸その
 弟子を指て曰けるは是わが母わが兄弟なり 五十 蓋すべて我が天に在す父の旨を行ふ者の

是わが兄弟わが姉妹わが母なれば也

第十節 當日イエス家を出て海邊に坐せしに 二多の人々彼に集り來ればイエスの
 舟に登て坐し凡の人々の岸に立り三 イエス 譬を以て多端の言を人々に語り種まく者播に
 出しが 四 播るべき路の旁に遺し種あり空中の鳥きたりて啄み盡せり五 また土うすき磯地に
 遺し種あり直に萌出たれ六 日の出しとき灼れしかば根なきが故に槁たり七 また棘の中に
 遺し種あり棘そだちて之を蔽けり八 また沃壤に遺し種あり實を結べるこそ或は百倍ある
 ひは六十倍あるひは三十倍せり九 耳ありて聽ゆる者の聽べし十 弟子等きたりて彼に曰ける
 は何故に譬をもて彼等に語り給ふや 十一 答て曰けるは爾曹に天國の奧義を知んことを予た
 まへば彼等に予へ給されば也 十二 それ有る者予られてなほ餘あり無有者その有る者
 をも奪るる也 十三 彼等ハ視ても見ず聽ても聽かず悟るるが故に我譬を以て彼等に語れり 十四
 イザヤの預言に爾曹ハ聽ども悟らず視ども見ず 十五 蓋この民目にて見耳にてき心にて悟
 り改めて我に聽されんことを恐その心を頑し耳を蔽ひ目を閉たり云しに應へり十六 然し
 爾曹の目ハ見爾曹の耳ハ聞が故に福なり 十七 われ誠に爾曹に告ん多の預言者義人の
 爾曹が見んころを見んさしたりしが見んことを得ず爾曹が聞んころを聞んさしたりしが聞ん
 ことを得ざりき 十八 故に爾曹播種の譬を聽 十九 天國の教を聞て悟らざれば惡鬼きたりて其
 心に播れたる種を奪ふ是路の旁に播たる種なり 二十 磯地に播れたる種は是教を聽て速
 かに喜び受れども 二二 己に根なれば暫時のみ教の爲に患難あるひは迫らるる事の起る時

ハ忽ち道に礙く者なり二三また棘の中に播れたる種ハ是教を聽ごも此世の思慮と貨財の惑に教を蔽れて實らざる者なり二三沃壤に播れたる種ハ是教を聽て悟り實を結ぶ或ハ百倍あるひハ六十倍あるひハ三十倍する者なり○二四また譬を彼等に示して曰けるハ天國ハ人畑に美種を撒に似たり二五人々の寢たる間に其敵きたり夢の中に稗子を播て去り二六苗はえ出て實たるこそ稗子も現れたり二七主人の僕きたりて曰けるハ主よ畑にハ美種を播ざりしか如何して稗子ある乎二八僕に曰けるハ敵人これを行り僕主人に曰けるハ然らば我儕ゆきて之を抜あつむるハ宜か二九否おそらくハ爾曹稗子を抜あつめんとて麥をも共に拔べし三十收穫まで二ながら長あけ我かりいれの時まづ稗子を抜あつめて焚ん爲に之を束れ麥をば我が倉に收よと刈者に言ん○三一また譬を彼等に示し曰けるハ天國ハ芥種の如し人これを取て畑に播る三二萬の種よりハ小けれども長てハ他の草より大にして天空の鳥きたり其枝に宿はざるの樹なる也○三三また譬を彼等に語けるハ天國ハ麴酵の如し婦これを取り三斗の粉の中に藏せば悉く脹發すなり三四イエス譬をもて凡て此等の事を衆人に語たまへり譬にあらざれば語り給はず三五これ預言者に託て我譬を設て口を啓きて世の始より隠たる事を言出さん云れたるに應せん爲なり○三六遂にイエス衆人を歸して家に入り其弟子きたりて曰けるハ畑の稗子の譬を我儕に解たまへ三七之に答て曰けるハ美種を播者ハ人の子なり三八畑ハこの世界なり美種ハ是天國の諸子なり稗子ハ惡魔の子類なり三九之をまく敵ハ惡魔なり收穫ハ世の末なり刈者ハ天の使等なり四〇稗子の敷

て火に焚る如く此世の末に於ても此の如くなるべし四一人の子その使者たちを遣して其國の中より凡て踏躓なる者また惡をなす人を敷て四二之を爐の火に投入べし其處にて哀哭切齒すること有ん四三此こそ義人ハ其父の國に於て日の如く輝かん耳ありて聽ゆる者ハ聽べし○四四また天國ハ畑に藏たる寶の如し人みいださば之を秘し喜び歸り其所有を盡く賣てその畑を買なり○四五また天國ハ好眞珠を求んとする商人の如し四六一の値たき眞珠を見出さばその所有を盡く賣て之を買なり○四七また天國ハ海に投て各様の魚をさる網の如し四八既に盈れば岸に曳あげ坐てその嘉ものを器にいれ惡ものを棄るなり四九世の末に於ても此の如ならん天の使等いで義者の中より惡者を取わけ五十之を爐の火に投入べし其處にて哀哭切齒すること有ん○五一イエス彼等に曰けるハ此事をみな悟しや彼に曰けるハ主よ然五二イエス彼等に曰けるハ然らば天國について教られたる學者ハ新しき物と舊き物とを其庫より出す家の主の如し○五三イエスの譬を言畢て此を去ぬ五四その故土にいたり會堂にて教しに人々奇み曰けるハ此人の智慧と異なる能ハ何處より來るや五五これ木匠の子にあらずや其母ハマリアその兄弟ハヤコブヨセシモンユダに非ずや五六その妹等ハみな我儕と偕に在に非ずや然るに此人の凡て此等の事ハ何處より來しや五七遂に厭て之を棄イエス彼等に曰けるハ預言者ハ其故土その家の外に於て尊まれざるこそなし五八彼等が信することなきに由て多の異なる能を此に行給はざりき

其ころ分封の君ヘロダイエスの聲名を聞て二その僕に曰けるハ是バプテスマの

ヨハ子なり彼死より甦りたり故に異なる能を行ふなり三前にヘロテその兄弟ピリポの妻ヘロテヤの事に由てヨハ子を捕へ縛て獄に入たり此のヨハ子ヘロテに此婦を娶るハ宜しからずと云しに因五彼ヨハ子を殺さん欲し民これを預言者とするにより彼等を懼たりしが六ヘロテ誕生の日を祝へる時ヘロテヤの女その座の上にて舞をなしヘロテを悦ばせければ七何なる物にても求に任て予んこヘロテ之に響たり八女その母の勸ありしに因バプテスマのヨハ子の首を盆に載て此に賜れと曰九王愛けれども既に響たると席に列れる者の爲に予ることを命じ十即ち人を遣し獄に於てヨハ子の首を斬せ十一その首を盆に載て女に予ければ女ハ之をその母に捧たり十二ヨハ子の弟子等きたりて屍を取これを葬り往てイエスに告十三イエスこれを聞て人をさけ舟に登て其處を去さびしき處に往給ひしが衆人ききて歩行にて彼に従へり十四イエス出て多の人を見て之を憫み其病る者を醫せり十五日くる時その弟子きたりて曰けるハ此ハ寂寞さるにして時もハ遅し諸邑に往て自ら食を求させん爲に人々を去しめよ十六イエス彼等に曰けるハ人々往すとも可ならんぢら之に食を予よ十七答けるハ我儕此にたと五のパンと二の魚あるのみ十八イエス曰けるハ其を此に携來れ十九遂に衆人に命じて草の上に坐しめ五のパンと二の魚をさり天を仰て謝しパンを擘て弟子にあたふ弟子これを衆人に予ぬ二十みな食て飽その餘たる屑を拾しに十二の筐に盈たり二一食し者ハ婦と幼童の外おほよそ五千人なりき〇二三頓てイエス衆人を歸さんとして其弟子を強て舟にのせ向の岸へ先に渡しむ二三斯て衆人を歸しければ祈

禱せんさて密に山に上り日くれて獨そこに在せり二四舟は海中に在て逆風の爲に浪に漂はさる二五夜の四時ころイエス海の上を歩て之に至しに二六弟子その海の上を歩るを見て驚き此ハ變化の物ならんと曰て懼れ叫たり二七イエス頓て彼等に曰けるハ心安かれ我なり懼る勿れ二八ペテロ答て曰けるハ主よ若し爾らば我に命じ水を履て爾の所に至しめよ二九來と曰給ひければペテロ舟より下てイエスの所に至んさて浪の上を歩たれと三十かぜはげしみて懼れ沈みけりければ主よ我を救たまへと曰三一イエス頓て手を伸これ執て曰けるハ信仰すき者よ何ぞ疑ふや三二偕に舟に登ければ風しづまりぬ三三舟に居し者ちかよりて彼を拜し曰けるハ誠に爾の子なり〇三四遂に渡てゲネサレの地に到しかば三五其處の人々イエスを識て遍く四方に人を遣し凡て病の者を携へ來らしむ三六只その衣の裾に捫らんことをイエスに願へり捫し者ハ則ちみな愈されたり

第十四章 時にエルサレムの學者とパリサイの人イエスに來て曰けるハ二爾の弟子古の人の遺傳を犯ハ何故ぞ蓋食する時に其手を洗ざれば也三答て彼等に曰けるハ爾曹ハ亦なんぢらの遺傳によりて神の誠を犯ハ何故ぞ四それ神いまして爾の父母を敬へ又父母を罵る者ハ殺さるべしと宣給へり五然るに爾曹曰て凡て人父母に對なんぢを養ふ可ものハ禮物なりと云ば六その父母を敬ハすとも可とす斯て爾曹遺傳により神の誠を廢くせり七偽善者よイザヤハ能なんぢらに就て預言し八此民ハ口にて我に返き唇にて我を敬へども其心の我に遠かり九人の誠を教となして徒らに我を拜すと云り十イエス人

人を召て彼等に曰けるハ聽て悟れ十一口に入もの人汚さす口より出るものハ是人を汚すなり十二弟子きたりてイエスに曰けるハパリサイの人この言を聞て厭棄るを爾知か十三答て曰けるハ我が天の父の植ざる者ハみな拔るべし十四彼等を棄ちけ賢者の相する賢者なり若めしひのもの賢者の相せば二人とも溝に落べし十五ペテロイエスに答て曰けるハ此譬を我儕に解たまへ十六イエス曰けるハ爾曹も未だ悟ざる乎十七凡て口に入ものハ腹を運て厠に落るを未だ知ざるハ十八口より出るものハ心より出これ人を汚すもの也十九蓋心より出る所の惡念凶殺姦淫苟合盜竊妄證謗讟二十此等ハ人を汚ものなり然も手を洗すして食ふハ人を汚さず二イエス此を去てツロサシドンの地に往けるに二三其地に往るカナンの婦いで呼はり曰けるハ主よダビデの裔よ我を憫み給へ我むすめ鬼に憑れて甚く苦めり二三イエス一言も彼に答ざりしかば其弟子きたり請て曰けるハ我儕の後より呼はるが故に彼を去せ給へ二四答て曰けるハイスラエルの家の迷へる羊の外に我ハ遺されず二五婦きたり拜して曰けるハ主よ我を助たまへ二六答けるハ兒女のパンを取て犬に投與ふるハ宜からず二七婦いひけるハ主よ然されど犬もその主人の膳より落る屑を食なり二八遂にイエス答て曰けるハ婦爾の信仰ハ大なり願の如く爾に成べし此時より其女いえたり〇二九イエス此を去ガリラヤの海邊にゆき山に登りて坐せり三十多の人人跛者瘖者癩者及び各様の疾病ある者を伴ひきたりイエスの足下に置ければ即ち之を醫しぬ三一是に於て瘡者ハものいひ殘疾ハいえ跛者ハあゆみ賢者ハ見たるを人々

見て奇みイスラエルの神を榮たり〇三二イエスその弟子を呼て曰けるハ我この衆人を憫む彼等われさ儲に居こと三日にして食ふものなし飢させて去しむること欲す恐くハ途間にて憫ん三三其弟子かれに曰けるハ野にて此多の人に飽するほどのパンを何處より得んや三四イエス彼等に曰けるハパン幾何あるや答けるハ七些少の魚あり三五イエス人々に命じて地に坐しめ三六七のパンを魚を取て謝し之を擘て其弟子に予しかば弟子これを人々に予ふ三七食てみな飽たり餘の屑を拾し七の籃に盈り三八之を食るもの婦さ孩子の外に四千人ありき三九イエス人々を去しめ舟に登りてマゲダラの境に至れり

四〇五その弟子むかふの岸に到しにパンを携ふることを忘たり六イエス彼等に曰けるハ戒心してパリサイとサドカイの人の麪酵を慎めよ七弟子たがひに論じて曰けるハ是パンを携へざりし故ならん八イエスこれを知て曰けるハ信仰うすき者よ何ぞ互にパンを携へざりしことを論ずる乎十未だ悟らざるか五千人に五のパンを予しき幾籃ひるひし乎十また四千人に七のパンを予しき幾籃ひるひしや爾曹これを記さるか十一パリサイとサドカイの人の麪酵を慎めよハパンにつきて言るに非るを何ぞ悟らざる十二是に於て弟子その麪酵に

ハあらでパリサイとサドカイの人の教を謹めざるを悟れり○十三 イエスカイザリヤ
 ビリビの方に到しとき其弟子に問て曰けるハ人々ハ人の子を誰と言や 十四 彼等いひけるハ
 或人ハバプテスマのヨハ子或人ハエリヤ或人ハエレミヤまた預言者の一人なりと言り 十五
 彼等に曰けるハ爾曹ハ我を言て誰とする乎 十六 シモンペテロ答けるハ爾ハキリスト活
 神の子なり 十七 イエス答て彼に曰けるハヨナの子シモン 爾ハ福なり蓋血肉なんぢに
 示せるに非ず天に在す吾父なり 十八 我また爾に告ん爾ハペテロなり我が教會をこの磐の上
 に建べし陰府の門ハ之に勝べからず 十九 又われ天國の鑰を爾に予ん爾ハ地に於て繫こざら
 天に於ても繫なんぢが地に於て釋こざら天に於ても釋べし 二十 遂に其弟子を戒めけるハ我
 をキリストと人に告ること勿れ 〇二二 此時よりイエスその弟子に己のエルサラムに往て長
 老祭司の長學者等より多の苦みを受かつ殺され 第三日に 甦る等なすべき事を示し始む
 二三 ペテロイエスを援さめて主と宜らざる事なんぢに來るまじと曰ければ 二三 イエス反
 願てペテロに曰たまひけるハサタンよ我後に退け爾ハ我に礙く者なり夫なんぢハ神の事
 を思はず人の事を思へり 二四 此時 イエスその弟子に曰けるハ若われに従へん欲ふ者ハ
 己を棄その十字架を背て我に従へ 二五 その生命を保全せんとする者ハ之を失ひ我ために其
 生命を失ふ者ハ之を得べければ也 二六 もし人全世界を得ても其生命を失ハ何の益あら
 ん乎また人なを以て其生命に易んや 二七 それ人の子ハ父の榮光を以てその使等と偕
 に來らん其時ものくの行に由て報ゆべし 二八 誠に爾曹に告ん人の子その國を以て來る

を見まてハ此に立ものの中に死ざる者あるべし

六日の後イエスペテロヤコブその兄弟ヨハ子を伴ひ人を避て高山に登り給し

現れてイエスと偕に語ぬ 四 ペテロ答てイエスに曰けるハ主よ我儕ここに居ハ善もし尊旨に
 適ハ我儕に三の廬を建てたまへ 一 ハ主のため一ハモーセのため一ハエリヤの爲にせん
 五 如此いへる時かゞやける雲かれらを蔽ふ聲雲より出て言けるハ此ハ我旨に適ふわが愛子
 ナリ爾曹これに聽べじ 六 弟子これを聞て大におそれ倒れ伏たり 七 イエス來りて彼等に手を
 按おき懼るる勿れと曰ければ 八 其目を舉しに惟イエスのほか一人をも見ざりき 〇九 山を
 下る時にイエス彼等に命じて人の子の死より甦るまでの爾曹の見し事を人に告べからず
 十 言り其弟子さふて曰けるハ然バエリヤハ先に來べしと學者の云るハ何ぞや 十一 イエス
 答て曰けるハ實にエリヤハ來て萬事を改むべし 十二 然と我なんぢらに告んエリヤハ既に來
 しに人これを知すた意の任に彼を待へり此の如く人の子もまた彼等より苦難を受べし
 十三 是に於て弟子バプテスマのヨハ子を指て曰たまへるを悟れり 〇十四 彼等もほくの人の
 居る所に來しに或人イエスの所にきたり跪き 十五 曰けるハ主よ我子を憫みたまへ癩癩に
 て屢々火に倒れ水に倒れ甚だ苦めり 十六 之を爾の弟子に携往たれと醫すことを得ざりき
 十七 イエス答て曰けるハ噫信なき曲れる世ある哉われ何時まで爾曹と偕に居んや我いつま
 で爾曹を忍んや彼を我もこに携來れ 十八 遂にイエス鬼を斥め給へば鬼いで、其子この時よ

り愈たり十九其さき弟子ひそかにイエスに來り曰けるハ我儕これを逐出すこと能はざりし
 ハ何故ぞ二十イエス彼等に曰けるハ爾曹信なきが故なり我まここに爾曹に告んもし芥種の
 如き信あらば此山に此處より彼處に移れと命さも必ず移らん又あんぢらに能ざることを無
 るべし二一然此類ハ祈禱を斷食に非ざれば出ることなし○二三カリヤを周流さきイエ
 ス彼等に曰けるハ人の子人の手に解され二三ハつ殺されて第三日に甦るべし弟子これを聞
 て甚だ哀めり○二四 彼等カペナウンに來れるとき納金を集る者どもペテロに來て曰ける
 ハ爾曹の師ハ納金を出さざる乎二五然す曰てペテロ家に入しときイエスマづ彼に曰け
 るハシモン爾ハ如何おもふや世界の王たちハ税をよび貢を誰より徴す己の子よりハ他の
 者よりハ二六ペテロ彼に曰けるハ他の人より徴ありイエス彼に曰けるハ然らば子ハ與ること
 なし二七然と彼等を礙せざる爲に爾曹に往て釣を垂よ初につる魚を取てその口を啓か
 ば金一を得べし其を取て我と爾の爲め彼等に納よ

第十九節

其とき弟子イエスに來て曰けるハ天國に於て大なる者ハ誰ぞや二イエス嬰兒を
 召かれらの中に立て三曰けるハ我まここに爾曹に告んもし改まりて嬰兒の若くならずば天
 國に入ることを得じ四然らば凡そこの嬰兒の若く自ら謙る者ハこれ天國に於て大なる者なり
 五又わが名の爲に此の如き一人の嬰兒を接る者ハ我を接る者なり六然と我を信する此小
 子の一人を礙する者ハ磨石をその頸に懸られて海の深に沈らん方ハ益あるべし七此
 世ハ禍ある哉その礙かする事をすればなり礙く事ハ必ず來らん然と礙を來らす者ハ

禍ある哉八若し爾の手あんぢの足のれを礙さば斷て之を棄よ兩手兩足ありて盡さ
 る火に投入られんよりハ跛またハ殘缺にて生に入ハ善あり九もし爾の眼のれを礙さば
 拔出して之を棄よ兩眼ありて地獄の火に投入られんよりハ一眼にて生に入ハ善あり○十爾
 曹この小子の一人をも憚みて輕視さかれ我あんぢらに告ん彼等が天の使者ハ天にありて
 天に在す吾父の面を常に觀ぶあり十一それ人の子ハ亡たる者を救はん爲に來れり十二爾曹
 にいかに意ふや人もし百匹の羊あらんに其一匹まよはせ九十九を山に置ゆきて迷し一を
 尋ざる乎十三若たづれて之に遇ハ我まここに爾曹に告ん迷ざる九十九の者よりも尙その一
 を喜ん十四是の如くこの小子の一人の亡るハ天に在す爾曹が父の尊旨に非す十五もし
 兄弟あんぢに罪を犯ハその獨ある時に往て諫よもし爾の言を聽ハその兄弟を復べし十六
 もし聽ずハ兩三人の口に由て證をなし凡の言を定んが爲に一人二人を伴ひ往十七もし
 彼等にも聽ずハ教會に告よもし教會に聽ずハ之を異邦人かつ稅吏のここにき者さすべし
 十八 我まここに爾曹に告ん凡そ爾曹が地に於て繫ことハ天に於てもつさき爾曹が地に於て釋
 ことハ天に於ても釋べし十九 我また爾曹に告んもし爾曹のうち二人のもの地の於て心を合せ
 何事にても求ハ天に在す吾父ハ彼等の爲に之を成たまふべし二十 蓋わが名の爲に二三人の
 集れる處にハ我も其中に在らざり○二一 厥時ペテロイエスに來りて曰けるハ主よ幾次まで
 我兄弟の我に罪を赦すべきか七次まで乎二二 イエス彼に曰けるハ爾に七次さハ言じ七
 次を七十倍せよ二三 是故に天國ハ王その臣と會計を調んとするが如し二四 調へ始しとき

千萬金の負債したる者を王に曳來りしに 二五 償ひ方ありければ之に命じて其身その妻
 撃さめらゆる所有をみ奪て償へと曰り 二六 その臣俯伏て拜し曰けるハ請われを寛し給
 へと皆償ふべし 二七 是に於てその臣の主隣みて之を釋その負債を免したり 二八 其臣
 いで己より銀 一百の負債したる友に遇ければ之を執へ喉をさり負債を返せと曰 二九
 その友足下に俯伏て求ひけるハ我を寛し給へと皆償ふべし 三十 然るに之を肯はずして往
 その負債を償ふまで彼を獄に入ぬ 三一 外の友その爲る事を見て甚だ哀み往て此事を皆
 その主に告しかば 三二 主かれを召て曰けるハ惡き臣 爾われに求しに因て我その負債を
 悉く免したり 三三 我あんぢを憐みし如く爾も亦友を憐むべきに非ずや 三四 その主いかり
 て負債をみ償ふまで彼を獄 吏に付せり 三五 若ものく其心より兄弟を赦すバ我が
 天の父も亦あんぢらに此の如く行給ふべし

イエス此等の事を言畢りしときガリラヤを去てヨルダンの外エダヤの境に至り
 けるに 二多の人々 從ひしかば 此處にて彼等を醫し給へり 三 パリサイの人きたりて イエス
 を試み曰けるハ人をこの故に係らず其妻を出すハ宜か 四 答て彼等に曰けるハ元始に人を造
 り給ひし者ハ之を男女に造れり 五 是故に人父母を離れて其妻に合二人のもの一體を爲さる
 と云るを未だ讀ざるか 六 然ればや 二に非ず一體なり 神の合せ給へる者ハ人これを離すべ
 からず 七 イエスに曰けるハ然る離縁 狀を予て妻を出せと モーセが命ぜしハ何ぞや 八 彼等
 に曰けるハモーセハ爾曹の心の不情に因て妻を出すを容したる也されど元始ハ如此あら

ざりき 九 我あんぢらに告んもし姦淫の故ならで其妻を出し他の婦を娶る者ハ姦淫を行ふ
 り又いだされたる婦を娶る者も姦淫を行ふなり 十 弟子等 イエスに曰けるハ若し人妻に於て
 此の如くば娶らざるに若す 十一 彼等に曰けるハ此言ハ人みを受納るこ能はず 唯賦られ
 たる者のみ之を爲うべし 十二 それ母の腹より生來たる寺人あり又人にせられたる寺人あり
 又天國の爲に自らされる寺人あり之を受納ることを得ものハ受納べし 十三 其とき人々
 イエスの手を按て祈らんことを求ひ 嬰兒を彼に携來りければ 弟子是を阻たり 十四 イエス曰
 けるハ嬰兒を容せ我に來ること禁むる勿れ 天國に在る者ハ此の如き者あり 十五 即ち彼
 等に手を按て此を去ぬ 十六 或人きたりて彼に曰けるハ善師よ我がざりき生を得んが爲
 にハ何の善事を行へきか 十七 彼に曰けるハ何故われを善き稱や一人の外に善者ハなし 即ち
 神あり若し生命に入ん欲ハと 誠を守るべし 十八 彼こたへけるハ何カ イエス曰けるハ殺
 す勿れ 姦淫する勿れ 盜む勿れ 妄りの證を立る勿れ 十九 爾の父と母を敬へ 又己の如く爾の
 隣を愛すべし 二十 少者かれに曰けるハ是み我いさげきより守れるものなり 何の腐たる
 さころ我にある乎 二一 イエス彼に曰けるハ全からん事を欲ハと 往て爾が所有を售て 貧者
 に施せ 然れば天に於て財あらん而して來り我に従へ 二三 少者 この言を聞て憂へ去ぬ 彼の
 産業おほいありければ也 二四 二三 イエスその弟子に曰けるハ誠に爾曹に告ん富者ハ天國に入
 ること難し 二五 また爾曹に告ん富者の神の國に入よりハ駱駝の針の孔を穿ハ却て易し 二五
 弟子之を聞て甚く驚き曰けるハ然る誰が救を受へき乎 二六 イエス彼等を見て曰けるハ是人

に能はざる所あり然ぞ神に能はざる所あり○二七此ときテロ答てイエスに曰けるハ我儕一切を棄て爾に從へり然ば何をすべき乎二八イエス彼等に曰けるハ我まここに爾曹に告ん我に從へる爾曹ハ世あらたまり人の子榮光の位に坐する時をんちらも十二の位に坐してイスラエルの十二の支派を鞠べし二九凡て我名の爲に家宅あるハ兄弟あるハ姉妹あるハ父あるハ母あるハ妻あるハ子あるハ田疇を棄る者ハ百倍を受かつ窮なき生を編ん三十多の先ある者は後にあり後ある者は先にあるべし

二七 彼等エリヲを出し時をほくの人ヤイエスに從へり三十二人の警者路の旁に坐なり

往われ亦この後至者にも爾の如く手ふべし十五我物を以て我ももふ如く行ハ宜らす乎わが善に因て爾の目あしき乎十六此の如く後の者ハ先に先の者ハ後にあるべし夫よばるる者は多しと雖も選るる者ハ少なし○十七イエスエルサレムに上るるとき途間にて人を離れ十二弟子を伴ひて彼等に曰けるハ十八我等エルサレムに上り人の子ハ祭司の長と學者等に賣されん彼等これを死罪に定め十九また凌辱鞭ち十字架に釘ん爲に異邦人に解すべし又第三日に甦へるべし○二十其時セバダイの子等の母その子と偕にイエスに來り拜して彼に求ることを有ければ二一之に曰けるは何を欲ふかイエスに曰けるハ此二人の我子を爾の國に於て一人ハ爾の右一人ハ爾の左に坐ることを命ぜよ三三イエス答て曰けるハ爾曹は求ることを知る爾曹ハ我が飲んさする杯をのみ又わが受んさするパプテスマを受得るや彼等いひけるハ能すべし三三イエス彼等に曰けるハ誠に爾曹ハ我が杯を飲また我うくるパプテスマを受べし然ぞ我左右に坐ることを我賜べきに非ず只わが父に備られたる者ハ賜らるべし二四十人の弟子これを聞て二人の兄弟を憤れり二五イエス彼等を召て曰けるハ異邦の領主ハその民を主どり大人どもハ彼等の上に權を操これ爾曹が知ること也二六然ぞ爾曹の中にてハ然すべからず爾曹のうち大ならん欲ふ者ハ爾曹に役るる者さあるべし二七また爾曹のうち首たらん欲ふ者ハ爾曹の僕さあるべし二八此の如く人の子の來るも人を役ふ爲には非ず反て人に役ハれ又もほくの人に代て生命を予その贖さあらん爲あり

しがイエスの過るを聞て呼叫いひけるハダビデの裔主よ我儕を憫み給へ 三一衆人これに黙れど戒むれども愈々けび曰けるハダビデの裔主よ我儕を憫みたまへ 三二イエス立止て之を呼びひけるハ爾曹われに何を爲らんか願ふや 三三イエスに曰けるハ主よ我儕目の啓んことを願ふ 三四イエス憫みて其目に手を按ければ直に見んことを得イエスに従へり

三三 彼等曰けるハ爾曹むかふの村に往やがて繫たる驢馬の其子と偕に在るに遇さんとして二彼等に曰けるハ爾曹むかふの村に往やがて繫たる驢馬の其子と偕に在るに遇ん夫を解て我に牽きたれ 三若あんぢらに何さか言ものあらば主の用ありき 曰さらば直に之を遣すべし 四預言者の言に視よ爾の王は柔和にして驢馬するハち驢馬の子に乗あんぢに來るハシオンに告よと 五云るに應せん爲に如此をせる也 六弟子ゆきてイエスの命ぞし如くもし七驢馬其子を牽きたり己の衣をその上に置ければイエスこれに乗り入衆人もほくハ其衣を途に布あるハハ樹枝を伐て途に布ぬ九かつ前にゆき後に従ふ人々呼いひけるハダビデの裔ホザナよ主の名に託て來る者ハ福あり至 上 處にホザナよ 〇 十一イエスエ

ルサレムに至れるとき都城こぞりて疎動いひけるハ是誰ぞや 十一衆人いひけるハ此ハガリヲヤのナザレより出たる預言者イエスあり 〇 十二イエス神の殿に入て其中なる凡の賣買する者逐出し 兎銀者の案鶴をうる者の椅子を倒し 十三彼等に曰けるハ我家ハ祈禱の家と稱らるべしと録さる然るに爾曹これを盜賊の巢とせり 十四 醫者跛者の人々殿に入てイエスに來りければ之を醫しぬ 十五 祭司の長と學者たち其行たまへる 奇事を見また

兒童輩の殿にて呼はりダビデの裔ホザナよと云を聞て怒を合 十六イエスに曰けるハ彼等ハ言こを聞やイエス答て曰けるハ然り嬰兒乳哺者の口に讚美を備たりと録されしを未だ讀ざる乎 十七 途に彼等を離れ都城を出てベタニヤに往そこに宿れり 〇 十八翌あさ都城へ返るるとき飢ければ 十九路の旁にある一の無花果の樹を見て其處に來りしに葉の他に何も見ざりしが 廿今日よりのち永久も果を結ぶことを得ざれと之に曰たまひければ 無花果立刻に枯れ 廿一弟子これを見て奇み曰けるハ無花果の枯ること何に速や 二二イエス答て彼等に曰けるハ我まことに爾曹に告んもし信仰ありて疑はずば此無花果に於るが如耳あらず此山に命じ此より移されて海に入よと云とも亦成人 二三且あんぢら信じて祈らば求ふ所こごごく得べし 三三イエス殿に入て教たるとき祭司の長および民の長老たち來り曰けるハ何の權威を以て此事をなすや 誰この權威を爾に予しや 二四イエス答て彼等に曰けるハ我も一言あんぢらに問ん我にその事を告るば我も何の權威をもて之を行さむといふことをあんぢらに曰べし 二五ヨハ子のバプテスマハ何處よりぞ天よりか人よりか 彼等たがひに論じ曰けるハ若し天よりぞ云ば然ら何ゆゑ信ぜざるか 二六もし人よりぞ云ば我儕民を畏る蓋しなヨハ子を預言者と爲りたり 二七遂に答て知すき 曰イエス彼等に曰けるハ我も何の權威を以て之を行や 爾曹に語らじ 二八爾曹いかに意ふや 或人二人の子ありしが長子に來りて曰けるハ子よ今日わが葡萄園に往て働け 二九答て否き 曰しがのち悔て往たり 三十また次子にも前の如く曰けるに答て君よ我往べしと 曰しが遂に往ざりき 三一 此二人のもの孰か父の旨

に違ひし彼等いひけるハ長子なりイエス彼等に曰けるハ誠ニ爾曹に告ん稅吏および娼妓ハ爾曹より先に神の國に入へし三三 夫ヨハ子義道をもて來りしに爾曹これ信ぜず稅吏娼妓ハ之を信じたり爾曹これを見てなほ悔改めず彼を信ぜざりき〇三三 また一の譬を聞ある家の主人葡萄園を樹り籬を環らし其中に酒樽をほり塔をたて農夫に貸て他の國へ往しが三四 果期ちつづきければ其果を收ん爲に僕を農夫のもこに遣せり三五 農夫ども其僕等を執へ一人を鞭ち一人を殺し一人を石にて撃り三六 また他の僕を前よりも多く遣しけるに之にも前の如くあせり三七 我子の敬ふならんと謂て終に其子を遣ししに三八 農夫等その子を見て互に曰けるハ此ハ嗣子あり率これを殺して其産業をも奪へしと三九 即ち之を執へ葡萄園より逐出して殺せり四〇 然ハ葡萄園の主人きたらん時にこの農夫に何を爲べき乎四一 彼等イエスに曰けるハ此等の惡人を甚く討滅し期に及てその果を納る他の農夫に葡萄園を貸予ふべし四二 イエス彼等に曰けるハ聖書に工匠の棄たる石は家の隅の首石となり是主の行給るべきにして我儕の目に奇とする所なりと録されしを未だ讀ざる乎四三 是故に我なんぢらに告ん神の國を爾曹より奪その果を結ぶ民に予らるべし四四 この石の上に墜るものハ壞この石の上に墜れば其もの碎かるべし四五 祭司の長等およびパリサイの人ハ其の譬を聞きしを指て言るを識四六 イエスを執へんと欲謀しかば唯民を畏たり蓋人々ハこれを預言者とすれば也

第廿二章

イエス彼等に答てまた譬を語りけるハ 二天國ハ或王その子の爲に婚筵を設

るが如し三婚筵に請むける者を迎ん爲に僕たちを遣ししと彼等きたること好まず四又ほかの僕を遣さんとして曰けるハ我が筵すてに備れり我が牛また肥畜をも宰りて盡く備りたれば婚筵に來れと請たる者に言五 然ども彼等ハへりみずして去ぬ其一人ハ己の田にゆき一人ハ己の貿易に往り六 他の物等ハその僕を執へ辱しめて殺せり七 王これを聞て怒り軍勢を遣して其殺せる者を亡し又その邑を燒たり八 是に於てその僕等に曰けるハ婚筵すてに備れども請たる者は客となるに堪ざる者なれば九 爾に往て遇はざる者を婚筵に請け十 その僕途に出て善者をも惡者をも遇はざる者悉く集ければ婚筵の客充滿す十一 王客を見んさて來りけるに茲に一人の禮服を着ざる者あるを見て十二 之に曰けるハ友よ如何なれば禮服を着ずして此處に來る乎かれ默然たり十三 遂に王僕に曰けるハ彼の手足を縛りて外の幽暗に投いだせ其處にて哀哭また切齒すること有ん十四 され召る者多しと雖も選る者少なし〇十五 此時パリサイの人いでし如何してハ彼を言誤らせんと相謀り十六 その弟子ハヘロデの黨を遣して云せけるハ師ハ爾ハ眞なる者なり眞をもて神の道を教また誰にも偏らざることを我儕ハ知その貌に由て人を取ざれば也十七 然ハ眞をカイザルに納るハ善や惡や爾いかに意ふハ我儕に告ハ十八 イエスその惡を知て曰けるハ偽善者よ何ぞ我を試むるや十九 眞の銀錢を我に見せよ彼等デナリ一をイエスに携來りしに二十 之に曰けるハ此像と號は誰ハ二一 答てカイザル也といふ是に於てイエス彼等に曰けるハ然ハカイザルの物ハカイザルに歸しまた神の物ハ神に歸べし二三 彼等之をきき奇としてイエスを

去ゆけり○二三復生なしと言なせるサドカイの人この日イエスにきたり問て二四曰けるハ
 師よモーセの云るに人もし子なくして死べ兄弟その妻を娶りて子をうみ兄弟の後を嗣
 すべしと三五茲に我儕の中に兄弟七人ありしが兄めとりて死子なきが故に其妻を次子
 に遺れり二六その二その三その七まで皆然す二七後つひに婦もまた死たり二八 甦るさま
 ハ此婦七人のうち誰の妻と爲べきか是みな彼を娶し者なれば也 二九イエス 答て彼等に
 曰けるハ爾曹聖書をも神の能力をも知ざるに由て謬れり三十それ 甦るさまの娶らす嫁
 す天にある神の使等の如し三一死し者の甦ることに就てハ爾曹に神の告たまひし言に
 三二 我ハアブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりとあるを未だ讀ざる乎そもく神ハ死
 し者の神に非ず生る者の神なり三三人々これを聞て其訓を驚けり○三四イエスサドカイ
 の人をして口を塞がしめたりき聞てパリサイの人一處に 集りけるハ三五その中なる
 一人の教師イエスを試みん爲に問て曰けるハ 三六師よ律法のうち何の誠ハ大なる 三七
 イエス 答けるハ爾 心を盡し精神を盡し 意を盡し主なる爾の神を愛すべし三八これ
 第一にして大なる誠なり三九第二も亦これに同じ己の如く爾の隣を愛すべし四〇凡の
 律法と預言者ハ此二の誠に因り○四一パリサイの人の集れる時イエス彼等に問て曰け
 るハ 三三爾曹キリストについて如何おもふ乎これ誰の子なるか彼等イエスに曰けるハダビ
 デの裔なり四二彼等に曰けるハ然ばダビデ 靈に感じて何故これを主と稱へし乎ダビデ言
 四三 主わが主に曰けるハ我まんちの敵を爾の足凳とすすまで我みぎに坐すべしと 四五然ば

ダビデ既に之を主と稱たれば如何その子あらん乎 四六誰一言これに答ること能はず此日よ
 り敢て又さふ者ありき

爾時イエス人々を弟子とに告て曰けるハ 二學者とパリサイの人ハモーセの
 位に坐す三故に凡て彼等が爾曹に言をころを守て行ふべし然と彼等が行ふ所を爲と勿れ蓋
 かれらハ言のみにして行はざれば也四また彼等ハ重いつ負がたき荷を括て人の肩に負せ己
 ハ一の指をもて之を動すことすら好す五彼等の 行ハ凡て人に見れんが爲にする也その佩
 經を幅潤し其衣の裾を大にし六また筵席の上座會堂の高座七市上の間安人々より
 ラビ、ラビと稱られんとを好む八爾曹ハラビの稱を受ること勿れ蓋なんぢらの師ハ一人す
 なハちキリストあり爾曹ハみを兄弟あり九また地にある者を父と稱ること勿れ爾曹の父
 ハ一人すあばち天に在す者あり十また導師の稱を受ること勿れ蓋なんぢらの導師ハ一人
 すなばちキリストあり十一爾曹のうち大なる者ハ爾曹の僕と爲べし十二凡そ自己を高する
 者ハ卑せられ自己を卑する者ハ高せられん○十三噫なんぢら 禍あるか偽善ある學者と
 パリサイの人よ蓋なんぢら天國を人の前に閉て自ら入らず且いらんとする者の入をも許さ
 ざれば也十四噫なんぢら 禍あるか偽善ある學者とパリサイの人よ蓋なんぢら 娼婦の家
 を呑いつはりて長き祈をす之に由て爾曹最も 重審判を受べければ也十五あふ 禍あ
 るか偽善ある學者とパリサイの人よ蓋なんぢら 徧く水陸を歴巡り一人をも己が宗旨に
 引入んごす既に引入れば之を爾曹よりも倍したる地獄の子と爲り十六噫なんぢら 禍ある

かき警者ある相し爾曹にいふ人もし殿を指て誓ひし事をし殿の金を指て誓ひし事へから
 ずと十七愚にして警者あるものよ金を聖からしむる殿の執事 尊き十八又いふ人もし
 祭の壇を指て誓ひし事をし其上の禮物を指て誓ひし事を背へからずと十九愚にして警者ある者よ
 禮物を聖からしむる祭の壇の執事 尊き二十それ祭の壇を指て誓ひし事を背へからずと
 および其上の凡の物を指て誓ひし事を背へからずと二十一また殿を指て誓ひし事を背へからずと
 て誓ひし事を背へからずと二十二また天を指て誓ひし事を背へからずと二十三また殿を指て誓ひし事を背へからずと
 三 噫あんぢら 禍あるかき偽善ある學者とパリサイの人よ蓋あんぢら薄荷、茴香、馬芹
 の十分の一を取納て律法の最も重き義と仁と信とを爾曹の塵これ行ふ可もの也かれも亦
 塵へからざる者あり 四 警者ある相者よ爾曹の蠅を漉出して駱駝を呑むの也 二五あ
 福ある哉偽善ある學者とパリサイの人よ爾曹の杯と盤の外を潔して内に食欲と淫欲
 とを充せり 二六 警者あるパリサイの人よ爾曹まづ杯と盤の内を潔せよ然ばその外も亦き
 よまるべし 二七 噫あんぢら 禍ある哉偽善ある學者とパリサイの人よ爾曹の白く塗たる
 墓に似たり外の美しく見れども内の骸骨と諸の汚穢にて充て入此の如く爾曹もまた外の
 義く人に見れども内の偽善と不法にて充て入 二九 噫あんぢら 禍あるかき偽善なる學者とパリ
 サイの人よ爾曹預言者の墓をたて義人の碑を飾り 三十 又いふ我儕もし先祖の時にあら
 ば預言者の血を流すことと與せざりしを 三十一 然ば爾曹の預言者を殺し者の裔なることを
 自ら證す 三二 なんぢら先祖の量を充せ 三三 蛇蝎の類よ爾曹いかで地獄の刑罰を免れんや

三 是故に我 爾曹に預言者と智者と學者を遣さんに或之を殺し又十字架に釘或は其
 會堂にて之を鞭ち或は邑より邑へ逐苦めん 三五 是は義なるアベルの血より殿の壇の
 間にて爾曹が殺しバラキアの子ザカリアの血に至るまで地に流したる義人の血凡て爾曹
 に報來らんが爲なり 三六 われ誠に爾曹に告ん此事みな此代に報來るべし 三七 噫エルサ
 レムよエルサレムよ預言者を殺し爾に遣さるる者を石にて撃ものよ母雞の雛を翼の下に集
 る如く我なんぢの赤子を集んさせしこと幾次ぞや然と爾曹の好ざりき 三八 視よ爾曹の家
 荒地となりて遠れん 三九 われ爾曹に告ん主の名に託て來る者ハ 福なりと爾曹の云んとき
 至るまでハ今より我を見ざるべし

イエス殿より出ければ其弟子すくみて殿の構造を彼に觀せんとしたりしに 二
 イエス彼等に曰けるハ爾曹すべて此等を見ざるか我まことに爾曹に告ん此處に一の石も
 石の上に 埒れずしての遺らじ 三 イエス橄欖山に坐し給へるとき弟子ひそかに來りて曰
 けるハ何の時このこと有や又爾の來る兆と世の末の兆ハ如何なるぞや我儕に告たまへ 四
 イエス答て彼等に曰けるハ爾曹人に欺われざるや 慎よ 五 蓋あはくの人わが名を冒き
 たり我ハキリストなりと云て多の人を欺くべし 六 又なんぢら戰と戰の風聲をきかん然と
 慎て懼るる勿れ此等の事の皆ある可なり然ども末期ハ未だ至らず 七 民おこりて民をせめ
 國の國をせめ饑饉、疫、病、地震とくるくりに有ならん 八 是みな 禍の始なり 九 其とき人な
 んぢらを患難に付し爾曹を殺すべし 又なんぢら我名の爲に萬民に憎まれん 十 此とき許多の

もの礎つまつきつ互たがひに付し互たがひに憐むべし十一また偽預言者にせよげんしやおほく起て多の人おほくを欺たぶらかさん 十二また不法はふ法はふみつるに因て多の人おほくの愛情あひやうじやうひやうかに爲べし十三然しか終はつまで忍しのぶ者ものの救すくはるゝことを得えん 十四また天國てんこくの此この福音えふんを萬民まんみんに證あかしせん爲ために普あまねく天下てんかに宣のたまへられん然しかるのち末期まはりいたるべし十五是故このゆゑに預言者よげんしやダニエルだにえに託たくて言ことれたる所の殘暴ざんぼうにくむべきもの聖せい處じよに立たつて見みるべしよ讀者よめよく思おもふべし 十六厥時そのときニダヤになる者ものの山やまに遁かへれよ十七屋上やからへに在あるもの其家そのいへの物ものを取とりて下くだる勿なかれ 十八田はたになる者ものの其衣そのころもを取とりて歸かへる勿なかれ 十九其日そのひに孕はらめる者ものを乳ちのまを飲のみする婦をんなハ 禍わざはひなる哉かな 二十爾曹なんぢらよまたハ安息日あんそくじちに逃にげることを免まぬかへん爲ために祈いのれ 二一其そのさき大なる患難なやみあり此このの如ごとき患難なやみハ世よの始はじめより今いまに至いたるまで有ありき又また後のちにも有ありき 二三若もしその日ひを少すくくせられずハ一人ひとりだに救すくはるゝ者ものナからん然しか選えらべし者ものの爲ために其日そのひハ少すくくせらるべし 二三其時そのときもしキリストこゝろ此處こゝにあり彼處かゝにありキリストこゝろにいふ者ものあるとも信しんずる勿なかれ 二四そハ偽にせキリストにせ預言者よげんしやたち起おこりて大なる休徵しよしきニ異ふ能よを行なひ選えられたる者ものを欺たぶらくことを得えべ之これを欺たぶらく可べけれ也なり 二五われ預あらかじめ爾曹なんぢらに之これを告つぐ 二六若もしキリストこゝろ野のに在あるいふ者ものあるとも出いる勿なかれ室むろに在ある云いふもの有あるとも信しんずる勿なかれ 二七そハ電いなづまの東ひがしより出いで西にしにまで閃ひらくが如ごとく人の子ひとこも來きたるべけれ也なり 二八それ屍しかばねのある處ところにハ露あつたらん 二九此等これらの日ひの患難なやみの後のちたゞちに日ひハ晦くろき月つきハ光ひかりを失うはし星ほしハ空そらよりおち天てんの勢いきほふべし 三十其そのさき人ひとの子この兆しるし天てんに現あらはるまた地上ちじやうにある諸族しよぞくハ哭なげき且かつ人の子ひとこの權威けんゐ大なる榮光えいこくをもて天てんの雲くもに乗のり來きたるを見みん 三一又またその使つかひ等たちを遣つかはし籤くじの大なる聲こゑを出いだして天てんの此極こゝより彼

極はたまで四方しはうより其その選えられし者ものを集あつむべし 〇 三二夫これなんぢら無花果樹むゐがくじゆに由より警たごを學まなべ其枝そのえだすでに柔なかにして葉は萌もめハ夏なつの近ちかきを知しる 三三此このの如ごとく爾曹なんぢらも凡すべて此等これらの事ことを見みば時ときちかく門かど口くちに至いたるぞ知しる 三四われ誠まことに爾曹なんぢらに告つぐ此等これらの事ことは成なるまで此民このたみハ廢うせらるべし 三五天てん地ちハ廢うせん然しか我われ言ことハ廢うじ 三六その日ひその時ときを知しるものハ唯ただわが父ちちのみ天てんの使つかひ者ものも誰たれもしる者ものなし 三七ノアの時ときの如ごとく人の子ひとこの來きたるも亦また然しからん 三八それ洪水こゝろの前まへノア方舟ふねに在ある日ひまでハ人ひと々ごとく飲食おんじ嫁よめ娶めとむとして 三九洪水こゝろの來きたり悉ことごとく之これを滅ほろすまで知しりき此このの如ごとく人ひとの子こも亦またきたらん 四十其そのさき二人ふたり田はたに在ある一人ひとりハ取とり一人ひとりハ遺のこさるべし 四一人ひとりの婦をんな磨こひき居ゐる一人ひとりハ遺のこさるべし 四二是故このゆゑに爾曹なんぢらの主しゆいづれの時とききたるかを知しざれば怠おこらずして守まもれ 四三爾曹なんぢらこれを知しるし家の主人いへの主人しゆじんぬすびと何いづれの時とききたるかを知しる其家そのいへを守まもりて破やぶらすまじ 四四然しか爾曹なんぢらもまた預備よびせよ意いざる時に人の子ひとこきたらんぞ爲なるなり 四五時ときに及および糧かゝを彼等かれらに予あたへ 四六主人しゆじんがその僕等しもべの上に立たたる忠義ちゆうぎにして 智さと 僕しもべハ誰たれなる乎か 四七その主人しゆじんの來きたらん時ときかくの如ごとく勤こつとむを見るみる僕しもべハ 福ふくなり 四七我われまことまことに爾曹なんぢらに告つぐ其所有そのもつものをみな彼かれに督つかさたすべし 四八苦くるその惡あしき 僕しもべの心こゝろに我われが主人しゆじんの來きたるハ遅おそらんと意いひ 四九その朋輩ともだちを打うち擽つかきて酒さけに醉よめたる者ものも共ともに飲食おんじし始はじめなば 五十その僕しもべの主人しゆじんおもひざるの日ひしらざるの時ときに來きたりて 五一之これを斬殺ころし其報そのむくひを偽善者ぎぜんしやと同おなじすべし其處そのところに哀あはれ切齒きしすること有あらん

其そのさき天國てんこくハ燈あかりを執とりて新郎しよがとを迎むかへ 四七 十人じふにんの童女むすめに比ひふべし 二その中うちの

五人ハ智ク五人ハ愚カリ 三愚ある者ハ其燈をざるに油を携へざりしが 四智き者ハ其燈をざるに油を器に携へたり 五新郎もそのりければ皆假寝して眠れり 六夜半ハに叫びて新郎きたりぬ出て迎ふと呼聲ありければセシの童女ども皆おきて其燈を整へたるに 八愚あるもの智き者に曰けるハ我儕の燈 熄んとす願クハ爾曹の油を我儕に分 予よ九智きもの答て曰けるハ我儕を爾曹に恐クハ足まじ爾曹賢者に往て己が爲に買十かれら買んきて往しき新耶きたりければ既に備たる者ハ之に偕に婚筵に入しかば門ハ閉られたり十一斯て後その餘の童女きたりて曰けるハ主よ主よ我儕の爲に開たまへ 十二答て我まことに爾曹に告ん我ハ爾曹を知ずと曰り 十三然バ忘らすして守れ爾曹その日その時を知らざれば也 十四また天國ハ或人の旅行せんとして其僕をよび所有を彼等に預るが如し 十五各人の智慧に従ひて或者ハ銀五千 或者ハ二千 或者ハ一千を予おき直に旅行せり 十六五千の銀を受し者ハ往て之を貿易し他に五千を得たり 十七二千を受し者もまた他に二千を得たり 十八然るに一千を受し者ハ往て地を掘その主の金を藏せり 十九歴久て後その僕等の主カヘりて彼等と會計せしに 二十五千の銀を受し者その他に五千の銀を携來りて主よ我に五千の銀を預しが他に五千の銀を儲たりと曰ければ 二十一主かれに曰けるハあふ善かつ忠ある僕ぞ爾實ある事に忠あり我あんちに多ものを督らせん爾の主人の歡樂に入よ 三二千の銀を受し者きたりて主よ我に二千の銀を儲たりと曰ければ 三三主かれに曰けるハあふ善かつ忠ある僕ぞあんち實ある事に忠あり我あんちに多ものを督らせん爾の

主人の歡樂に入よ 二四また一千の銀を受し者きたりて曰けるハ主よ爾ハ殿人にて播ざる處より獲ちらざる處より斂る事を我ハ知 二五故に我懼てゆき主の一千の銀を地に藏し置り今あんち爾の物を得たり 二六その主たへて曰けるハ惡かつ惰れる僕ぞ爾わ播ざる處よりかり散ざる處より斂ることを知 二七然らば我ハ金を兌換舖に預置べきなり 然バ我が歸たるとき本と利とを受へし 二八是故に彼の一千の銀を取て十千の銀ある者に予よ 二九それ有る者ハ予られて尙あまりあり無有者ハその有る物をも奪る也 三十無益なる僕を外の幽暗に逐われ其處にて哀哭切齒するこ有ん 〇三一人の子おのれの榮光をもて諸の聖使を率來る時ハその榮光の位に坐し 三三萬國の民をその前に集め羊を牧者たる綿羊と山羊とを別 三六蓋なんぢら我が飢し時われに食せ渴しとき我に飲せ旅せし時われを宿らせ 三六 裸なりし時われに衣せ病しとき我をみまひ獄に在しとき我に就ればなり 三七 是に於て義者われに答て云ん主よ何時なんぢの飢たるを見て食せまた渴たるに飲し乎 三八 何時主の旅したるを見て宿らせ又裸なるに衣しや 三九 何時主の病また獄に在るを見て爾に至りし乎 四十 王たへて彼等に曰ん我まことに爾曹に告ん既に爾曹わが此兄弟の最 微者の一人に行へるは即ち我に行しなり 四一 遂にまた左に在る者に曰ん罰せらるべき者よ我を離れて惡魔さ其使者の爲に備たる熄ざる火に入よ 四二 蓋なんぢら我が飢し時われに食せず

渴しき我に飲せず 四三 旅せし時われを宿らせず裸なりし時われに衣す病また獄に在し時われを顧されば也 四四 是に於て彼等また答て曰ん主よ何時なんちの飢また渴また旅し又裸また病また獄に在を見て主に事ざりし乎 四五 其とき王こたへて彼等にいん我まここに爾曹に告ん此最微者の一に行へざる即ち我に行へざりし也 四六 此等の者窮なき刑罰にいり義者窮なき生命に入べし

借イエスのこの諸の言を言竟りて其弟子に曰けるハ 二三日のち逾越節なるハ爾曹が知るところ也それ人の子ハ十字架に釘られん爲に付ざるべし 三 此とき祭司の長老よび民の長老等カヤパ云る祭司の長の邸の庭に集り 四 詭計をもてイエスを執へ殺さん共々に謀いひけるハ 五 祭の日にへ行へからす恐くハ民の中に亂ふこらん 〇 六 イエスマタニヤの癩病人シモン之家に居たまへる時セある婦蠟石の器物に似たき膏膏を盛てイエスの食する所に携來り其首に樹しかば入弟子等之を見て怒を合曰けるハ 此糜費のこを爲何故ぞや 九 若之を賣ば多の金を得て貧者に施すことを得ん 十 イエス知て彼等に曰けるは何ぞ此婦を惱すや 彼は我に善事を行へる也 十一 貧者ハ常に爾曹と偕にあれど我は常に爾曹と偕に在す 十二 彼がこの膏膏を我體に樹しは我の葬の爲に行る也 十三 われ誠に爾曹に告ん天の下いづくにても此福音の宣傳らるる處には此婦の行し事もその記念の爲に言傳らるべし 〇 十四 其とき十二弟子の一人あるイスカリオテのユダ云るも祭司の長等の所に往て曰けるハ 十五 我あんちらに彼を賣さば幾何を與るか 遂に銀三十

にて約したり 十六 此時よりイエスを賣さん機を窺ひぬ 〇 十七 除酵節の首の日弟子イエスに來り曰けるハ 我儕すぎこの食を爾の爲に何處に備ふべき乎 十八 イエス曰けるハ 京城にいり某に至ていへ師いふ我が時近きければ我弟子と偕に逾越の節筵を爾が家に行べし 十九 弟子イエスに命ぜられし如して逾越の食を備ふ 二十 日くる時イエス十二弟子と偕に席に就き二食する時いひけるハ 我まここに爾曹に告ん爾曹のうち一人われを賣なり 二二 彼等いたく憂て各イエスに曰出けるハ 主よ我なる乎 二三 答て曰けるハ 我と偕に手を盥に著る者は即ち我を賣す者なり 二四 人の子は己について録されたる如く逝ん然し人の子を賣す者は禍ある哉その人生れざりしならん 二五 彼を賣すユダ答て曰けるハ ラビ我なるや之に曰けるハ 爾の言る如し 二六 かれら食する時イエスマンを取て祝し之をさき弟子に與て曰けるハ 取て食これば我身なり 二七 また杯を取て謝し彼等に與て曰けるハ 爾曹みよ此杯より飲みなこれ新約の我血にして罪を赦さんさて衆の人の爲に流所のもの也 二九 われ爾曹に告ん今より後あんちらと偕に新しき物を吾父の國に飲ん日までは再びこの葡萄酒にて造れる物を飲じ 〇 三十 かれら歌を謳てのち橄欖山に往り 三十一 其時イエス彼等に曰けるハ 今夜なんちら皆われに就て寝かん蓋われ牧者を撃ば群の綿羊ちらんさ録されたれば也 三二 然し我甦りて後なんちらに先ちかりヤヤに往べし 三三 ハテロ答てイエスに曰けるハ 皆なんちに就て寝くとも我ハ終に寝かじ 三四 イエス彼に曰けるハ 我まここに爾につげん今夜鶏なかなる前に爾三次われを知らずと言ん 三五 ハテロ彼に曰け

るハ我ハ主と偕に死るも爾を知らずと言じ弟子みな如此いへり○三六 厥時イエス彼等と偕にゲッセマ子といふ處に至て弟子等に曰けるハ爾曹こゝに坐われ彼處に往て祈らん 三七 テロ及ゼベダイの二人の子を携へ憂へ哀みを催し三八 彼等に曰けるハ我心いたく憂て死るばかり也こゝに待て我と偕に目を醒しをれ 三九 少し進往てひれふし祈いひけるハ吾父若かならば此杯を我より離ち給へ然と我心の従を成んとするに非ず聖旨に任せ給へ 四十 而して弟子に來り其寢たるを見てテロに曰けるハ此如一時も我と偕に目を醒るこゝ能ハざる乎 四一 惑に入ぬやう目を醒かつ祈その靈に願ふなれど肉體よわきなり 四二 二度ゆきて復いのり曰けるハ吾父若われに此杯を飲さて離つこゝ能ずば聖旨に任せ給へ 四三 來りて又われらの寢たるを見これ彼等の目疲たる也 四四 彼等を離れて又ゆき第三次も同言をもて祈れり 四五 遂に其弟子に來りて曰けるハ今ハ寢て休め時ハ近し人の子罪人の手に付されん 四六 起よ我儕往べし我を賣す者近きたり 四七 此如いへるさき十二の一人なるユダ劔と棒とを持たる多の人々と偕に祭司の長と民の長老の所より來る 四八 イエスを賣す者われらに號をなして曰けるハ我が接吻する者ハ夫なり之を執へよ 四九 直にイエスに來りラビ安かき曰て彼に接吻す 五十 イエス彼に曰けるハ友よ何の爲に來るや遂に彼等すゝみ來り手をイエスに措て執へぬ 五一 イエスと偕に在し者の一人手をのべ劔を拔て祭司の長の僕を撃その耳を削もさせり 五二 イエス彼に曰けるハ爾の劔を故處に収よ凡て劔をさる者は劔にて亡ぶべし 五三 我いま十二軍餘の天使を吾父に請て受ること能はずと爾曹も

ふ乎 五四 然せば如此あるべき事を録し聖書に如何で應ばん乎 五五 此時イエス人々に曰けるハ劔と棒とを持て盜賊を執ふる如して我を執にきたる乎われ日々爾曹と偕に殿に坐して誨しに爾曹われを執ざりし 五六 然と此の如なるは皆預言者の録たる所に應成せん爲なり 遂に弟子等みなイエスを離れて逃去ぬ 五七 イエスを執たる者これを曳て學者と長老の集れる所の祭司の長カヤパに携ゆく 五八 ペテロ遠く離れてイエスに従ひ祭司の長の庭にまで至その結局を見んさて内にいり僕と偕に坐せり 五九 祭司の長等あまび長老すべての議員ももにイエスを殺さんとして妄證を求めども得ず 六十 多の妄りの證者きたれども亦えず後また妄りの證者二人きたりて曰けるハ六一 この人靈に言ることあり我よく神の殿を毀ちて三日の内に之を建うべしと 六二 祭司の長たちてイエスに曰けるハ爾こたふる言なき乎この人々の爾に立る證據は如何 六三 イエス黙然たり祭司の長こたへて彼に曰けるは爾キリスト神の子なるか我なんぢを活神に誓せて之を告しめん 六四 イエス彼に曰けるは爾が言る如し且われ爾曹に告ん此のち人の子大権の右に坐し天の雲に乗て來るを爾曹みるべし 六五 是に於て祭司の長その衣を裂て曰けるは此人は褻瀆こゝを言り何ぞ外に證據を求めんや爾曹も今その褻瀆たるを聞 六七 なんぢら如何にもふ乎かれら答て曰けるは彼は死に當れり 六八 是に於て彼等その面に唾し且拳にて撃りまた或人かれを批いひけるは 六八 キリストよ爾を撃者は誰か我儕に預言せよ 六九 ペテロ庭に坐おけるに或婢きたりて爾もガリラヤのイエスと偕なりと曰げれば七十 ペテロ凡の人の前に此言を肯はずし

て我なんぢが言を聞きしを知らずと曰り七一出て門口に至れる時また他の婦これを見て其處に
 なる者に曰けるは此人もナザレのイエスと僭に在し七二ペテロまた肯はずして警ふ我この
 人を知らず七三暫くありて旁らに立たる者すすみ近てペテロに曰けるは誠に爾もその
 黨の一人なり蓋なんぢの方言なんぢを顯せり七四此に於てペテロ言り且警て我その
 人を知らずと曰しが頓て鶏鳴ぬ七五ペテロイエスの鶏なからざる前なんぢ三次われを知
 らざるはんぞ云たまへる言を憶起し外に出て悲み哭けり

平且になりて凡の祭司の長と民の長老とに謀てイエスを殺さんとし二既
 に彼を縛ひきよきて方伯のポンテオピラトに解せり〇三是に於てイエスを賣しユダ彼の
 死に定られしを見て悔その銀三十を祭司の長老等に返して四曰けるは無辜の血を付
 し我は罪を犯しぬ彼等いひけるは我儕に於て何ぞ與らんや爾みづから當べしユダその銀
 を殿に投棄て其處を去ゆきて自ら縊たり六祭司の長等この銀を取て曰けるは此は血の價な
 れば賽銭の箱に入へからずとて七共に謀この銀をもて旅客を葬る爲に陶工の田を買入
 故に其田は今に至るまで血田と稱らる九是に於て預言者エレミヤに託いはれたる言
 にイスラエルの民に估られ估られし者の價の銀三十を取十主の我に命ぜし如く陶工の
 田を買のさ有に應へり〇十一儲イエス方伯の前にたつ方伯イエスに問て曰けるは爾はユダ
 ヤ人の王なるかイエス之に曰けるは爾が言る如し十二祭司の長老等た彼を訴ふれども何
 の答もせず十三是に於てピラト彼に曰けるは此人々なんぢに立る證のかく大なるを爾き

かざる乎十四方伯の甚奇とするまでイエス一言も答せざりき十五この祭の日には方伯
 より民の願に任せて一人の囚人を釋の例あり十六時にバラバと云る一人の名高き囚人あり
 けれバ十七ピラト民の集りしとき彼等に曰けるはバラバか又はキリストと稱ふるイエスな
 る乎なんぢら誰を釋さんと欲ふや十八これ娼妓に由てイエスを解したりと知べなり〇十九
 方伯審判の座に坐りたる時その妻いひ遣しけるは此義人に爾干ること勿れ蓋われ今
 日夢の中に彼につきて多く憂たり二十祭司の長老等バラバを釋しイエスを殺さんこと
 を求む民に嘔むニ方伯たへて彼等に曰けるは二人のうち孰を我なんぢらに釋さんこと
 を望むや彼等バラバと答ふニピラト曰けるは然バキリストと稱ふるイエスに我なにを處
 べきか衆いふ十字架に釘よとニ三方伯いひけるは彼なにの悪事を行しや彼等ますく喊叫
 て十字架に釘よと曰二四ピラトその言の益なくして唯亂の起んとするをしり水を取て人
 人の前に手をあらひ曰けるは此義者の血に我は罪なし爾曹みづから之に當れ二五民み
 な答て曰けるは其血は我儕と我儕の子孫に係るべし二六是に於てバラバを彼等に釋しイエ
 スを鞭ちて之を十字架に釘ん爲に付したり二七方伯の兵卒イエスを携へ公廳に至り全營を
 そのもとに集め二八彼の衣を褫て絳色の袍を着せ二九棘にて冕を編その首に冠しめ又葦を
 右手に持せ且その前に跪つき嘲弄して曰けるはユダヤ人の王安かれ三十また彼に唾し其葦
 を取て其首を撃り三一嘲弄し畢りて其袍をはぎ故衣をきせ十字架に釘んとて彼を曳ゆ
 く三三その出し時クレチ人のシモンといふ者に遇ければ強て之に其十字架を背せたり〇

三 彼等エルゴダ譯す即ち觸體と云る處に來り三四醋に膽を和せてイエスに飲せん爲たりしに嘗て飲ことをせざりき三五斯てイエスを十字架に釘しのち闇を拵て其衣を分つれ預言者の言に彼等互に我が衣を分つが裏衣を闇にすき云しに應へり三六兵卒二に坐してイエスを守れり三七また罪標に此はユダヤ人の王イエスなりと書して其首の上に置り三八其とき二人の盜賊イエスと偕に一人は其右一人は其左に十字架に釘らる〇三九往來の者イエスを罵り首を搖て曰けるは四十殿を毀ちて三日に之を建る者よ自己を救へ爾もし神の子ならば十字架より下り四一祭司の長學者長老等も亦おなじく嘲弄して曰けるは四二人を救て己が身を救あたはず若イスラエルの王ならば今十字架より下るべし然ば我儕かれを信ぜん四三彼は神に依頼めり神もし彼を愛しまば今救ふべし蓋かれ我は神の子なりと云し也四四同じ十字架に釘られたる盜賊も同くイエスを罵れり〇四五晝の十二時より三時に至るまで其地あまれく黑暗となる四六三時ごろイエス大聲にエリ、エリ、ラマサバクタニと叫りぬ之を譯す吾神わが神なんぞ我を遺たまふ乎と云る也四七旁らに立たる者のうち或人これを聞て彼はエリヤを呼る也と曰四八その中の一人直に走り行て海絨をこり醋を合せ之を葦につけてイエスに飲しむ四九餘人曰けるは俟エリヤ來りて彼を救ふや否試べし〇五〇イエスまた大聲に呼りて氣絶たり五一殿の幔上より下り下り裂て二こなり又地ふるひ磐さけ五二墓ひらけて既に寢たる聖徒の身おほく甦へりイエスの甦れる後五三墓を出て聖城に入らば多くの人に現れたり〇五四百夫の長さ偕にイエスを守たるもの地

震おほび其有し事を見て甚く懼れ此は誠に神の子なりと曰り〇五五此處に遙に望むたる多の婦ありし彼等はガリラヤよりイエスに従ひ事し者等なり五六其中に居し者ばマгдаラのマリアマヤコブヨセの母なるマリアマとセベダイの子等の母と也〇五七日くれてイエスの弟子なるヨセフと云るアリマタヤの富人きたりてピラトに往イエスの屍を請しかば五八ピラトその屍を付せし命す五九ヨセフ屍を取て潔き桌布に裏み六十之を磐に鑿たる己が新しき墓におき大なる石を墓の門に轉して去六一マгдаラのマリアマと他のマリアマと墓に對て坐し其處に居り〇六二預備日の翌日祭司の長とパリサイの人等ピラトの所に集來り曰けるは六三主よ我儕憶起せり彼の僞者いきて在しとき三日のうちに甦らんと言し六四是故に命じて三日に至るまで墓を固守しめよ恐くは其弟子夜きたりて之を竊み死より甦りたりと民に言ん然らば後の惑は先よりも愈勝るべし六五ピラト彼等に曰けるは守兵は爾曹にあり往て意のまゝに固守しめよ六六是に於て彼等ゆきて石に封印し守兵をして墓を固守しめたり

安息日終てのち七日の首の日黎明にマгдаラのマリアマ及び他のマリアマその墓を觀んきて來りしに二大なる地震ありて主の使者天より降り墓の門より石を轉し其上に坐す三その容貌ハ閃電のごとく其衣服は雪のごとく白し四守兵かれを懼戰き死たる者の如くなりぬ五天使こたへて婦に曰けるは爾曹おそる勿れ我なんぢらが十字架に釘られしイエスを探ることを知六彼は此に在す其言る如く甦りたり爾曹きたりて主の

置れし處を見よ七且ゆきて其弟子に告よ彼は死より甦り爾曹に先ちてガリラヤに往り彼處に於て爾曹かれを見よし我これを爾曹に告入婦懼ながらも甚く喜びて急墓をさり其弟子に告んよ走り往り九弟子に告んよ往きよイエス彼等に遇て安かれよ曰給ひければ婦すも其足を拘て拜しぬ十イエス彼等に曰けるハ懼るる勿れ去て我が兄弟にガリラヤに往き告よ彼處にて我を見よし十一婦の去しの際守兵のうち或者ども城に至り凡て有し事を祭司の長等に告しよ十二彼等と長老あつまりて共に議あはくの銀子を兵卒に給て曰けるハ十三爾曹いへ我儕が寢たる時その弟子夜きたりて彼を竊りよ十四此事もし方伯に聞るも我儕かれに勸て爾曹に憂慮なからしめん十五かれら銀子を取て囁められたる如したり是に於て此の如き話今日に至るまでエダヤ人の中に傳播られたり十六十一の弟子ガリラヤに往てイエスの彼等に命じ給ふ所の山に至り十七イエスを見て拜せり然と疑へる者もありき十八イエス進て彼等に語いひけるハ天のうち地の上の凡の權を我に賜れり十九是故に爾曹ゆきて萬國の民にバプテスマを施し之を父と子と聖靈の名に入て弟子とし二十且わが凡て爾曹に命ぜし言を守れよ彼等に教よ夫われハ世の末まで常に爾曹と偕に在なりアメン

新約全書馬太傳福音書終

新約全書馬可傳福音書

神の子イエスキリストの福音の始なり三預言者の録して觀よ我なんぢの面前に我使遣さん彼なんぢの前に其道を設くべし三野に呼る人の聲あり云く主の道を備へ其徑すぢを直せよと有が如く四ヨハ子野に於てバプテスマを施し罪の赦を得させんが爲に悔改のバプテスマを宣傳たり五エダヤの全國およびエルサレムの人々かれに來りて各々その罪を認りしヨルダンといふ河にてバプテスマを受六ヨハ子ハ駱駝の毛衣を着腰に皮帶をつかれ蝗蟲と野蜜を食へり七かれ宣傳けるハ我より勝れる者わが後に來らん我ハ屨て其履の紐を解にも足す入我ハ水をもて爾曹にバプテスマを施しよが彼の聖靈をもて爾曹にバプテスマを施すべし九當時イエスがガリラヤのナザレより來りヨルダンにてヨハ子よりバプテスマを受十頓て水より上れるとき天開れ靈鶴の如く其上に降るを見たり十一又天より聲ありて云なんぢハ我が愛子わが悦ぶ所の者なりと十二斯て靈たぢらにイエスを野に往しむ十三かれ四十日野に在てサタンに試られ獸と共に在り天の使等これに事ぬ○十四ヨハ子の囚れし後イエスがガリラヤに至り神の國の福音を傳いひけるハ十五期ハ滿り神の國ハ近けり爾曹悔改めて福音を信ぜよ○十六イエスがガリラヤの湖の邊を歩る時シモンと其兄弟アンデレの湖に網うてるを見る彼等ハ漁者なり十七イエス彼等に曰けるハ我に従へ我爾曹を人を漁る者とせん十八彼等たぢらに其網を棄て之に従へり十九此より少し進行せバタイの子ヤコブとその兄弟ヨハ子の舟に在て網つくるふを

見て二十直に彼等を召給ひし。其父セバダイを傭人と共に舟に遺て彼に從へり。二三彼等カペナウムに至るイエス即ち安息日に會堂に入て教を爲しに。三人々その教を駭き合り蓋學者の如ならず權威を有る者の如く教たまへば也。二三其會堂に汚たる鬼に憑たる人ありて。二四喊叫いひける。喉ナザンのイエスよ我儕ハ爾と何の與り有んや爾きたりて我儕を滅す。我なんち誰なる乎を知らず。神の聖なる者なり。二五イエス之を責て曰ける。聲を發すこと勿れ其處を出よ。二六汚たる鬼その人を拘擥させ大聲に叫びて彼を出たり。二七衆人みな驚き相問て曰ける。は何事ぞや。是はいかなる新しき教ぞや。汚たる鬼さへ權威をもて命じければ從へり。二八是に於てイエスの聲名徧くガリラヤの四方に播りぬ。二九彼等やがて會堂を出ヤコブ及ヨハ子と共にシモンアンデレの家に至しに。三十シモンの岳母熱を病て臥ぬければ。或人たごちに之をイエスに告。三一イエス往て其手をさり彼を起しければ。熱たちまち去ぬ。斯て其婦かれらに供事たり。三二夕かた日の落さき人々すべての病を患へるもの鬼に憑たる者をイエスに携へ來る。三三その邑こそりて門に集れり。三四イエス各様の病を患へる多の人々を醫し又多の鬼を逐出し鬼の言ふ事を許さざりき。蓋鬼かれを識たるに因てなり。三五味爽にイエス早く起人なき所にゆき其處にて祈禱せり。三六シモンおよび彼と共に在し者等その跡を慕ゆき。三七彼に遇て曰ける。衆人みな爾を尋ぬ。三八イエス彼等に曰ける。我の教を宣傳る爲に爾曹と偕に附近の鄉村へ往ん我これを爲に來れば也。三九イエス徧くガリラヤの國を經めぐり其會堂にて教を宣且鬼を逐出せり。四十癩病

のもの一人かれに來りて跪き求ひ曰ける。爾もし聖意に適さきハ我を潔く爲得べし。四一イエス憫みて手をのべ彼に按て我意に適へり。潔なれ。四二言やいな直に癩病はなれ其人きよまれり。四三イエス嚴く之を戒め慎みて何をも人に告る勿れ。但ゆきて己が身を祭司に見せ其潔られし爲に。モーモが命せし所の物を獻て彼等に證據をなせ。言て去しめたり。四五然も彼いで先この事を大に言つたへ語り廣めければ。イエス此後あらハに城に入がたく。獨人なき所に居給ひしが。人々四方より彼に來れり。

【第二章】 數日の後イエス復カペナウムに來しに。二彼の室に居こと聞えければ。直に多の人々集きたり。門に立べき場處さへもなき程なり。きイエス彼等に教を宣。三此に癩病を病たる者を四人に昇せイエスに來れる者ありしが。四群集によりて近づき難かりければ。彼の居るの屋蓋を取除き癩病の人を床のまゝ緘下せり。五イエス其信仰を見て癩病の人に曰ける。子よ爾の罪赦されたり。六數人の學者ここに坐し居しが。心中に謂ける。ハ斯人ハ何故かく悪口を言。神にあらすして誰か罪を赦すもを得ん。八イエス直に彼等が心中に斯の如き事を論するを自ら其心に知て彼等に曰ける。ハ爾曹をんぞ心中に斯る事を論する乎。九癩病の人に爾の罪の赦されたり。言と起て爾の床を取て行。言と執れ易や。十それ人の子地にて罪を赦すの權威あることを爾曹に知せん。遂に癩病の人に。十一我なんちに告あきて床を取なんちの家を歸れ。曰ければ。十二その人たごちに起て床をさり衆人の前に。いづ衆人みな駭き神を崇めて曰ける。ハ我儕いまだ斯の如ことを見しことなし。十三イエスまた海邊に

往しに人々みな彼に來ければ是等を教ふ十四此より進てアルパヨの子レビといふ者の税吏の役所に坐し居けるを見て我に従へと曰ければ彼たちて從へり○十五斯てイエスその家にて食する時おほくの税吏罪ある人々イエス及び弟子と共に坐せり是等の者許多ありてイエスに従ひの十六學者とパリサイの人かれが税吏および罪ある人と共に食するを見て其弟子に曰けるは何ゆゑ税吏罪ある人と共に食飲する乎十七イエス聞て彼等に曰けるハ康強なる者ハ醫者の助を需す唯病ある者これを需わが來しハ義人を召ために非ず非ある人を召て悔改させんが爲なり○十八ヨハ子の弟子およびパリサイの人つれに斷食する事ありければ彼等イエスに來いひけるハヨハ子の弟子とパリサイの弟子は斷食するに爾の弟子は何ゆゑ斷食せざる乎十九イエス彼等に曰けるハ新耶の朋友その新耶と共に在る間に斷食することを得べき乎かれら新耶と共に在る間に斷食することを得じ二十將來かれら新耶をさらるる日きたらん其日にハ斷食すべき也二一新しき布を舊衣に縫つくる者あらじ若し然せば其新に補へるもの舊を縫はして其破かへつて惡なるべし二三亦あたらしき酒を舊き革囊に在るる者あらじ若し然せば新酒ハ其囊を破裂して酒もれいで革囊も亦壞るべし新酒ハ新しき革囊に盛へべきもの也○二三諸イエス安息日に麥の苗を過りしに其弟子あゆみつゝ麥の穂を摘はじめければ二四パリサイの人彼に曰けるハ彼等安息日に爲まじき事をするハ何故ぞ二五イエス答けるハダビテ及び從に在し者の之くして飢しき行たる事を末だ讀ざる乎二六即ち祭司の長アビアタルのとき神殿に入て唯祭司

の外ハ食まじき供物のパンを食かつ從に在し者にも與たり二七また彼等に曰けるハ安息日ハ人の爲に設られたる者にして人ハ安息日の爲に設られたる者に非ず二八然ハ人の子ハ安息日にも主たる也

會堂に入しに一手枯たる人ありけるが二衆人イエスを認んとして彼ハ此人を安息日に醫すや否と窺へり三イエス手枯たる人に曰けるハ中に立よ四また衆人に曰けるハ安息日にハ善を行き惡を行き生るを救ふを殺すを執るを爲べき彼等黙然たり五イエス怒を合て環視し彼等が心の頑硬なるを愛へ手枯たる人に爾の手を伸よと曰ければ彼その手を伸ししに即ち他の手のこさく愈たり六パリサイの人いで如何してカイエスを殺さん直にヘロデの黨に相謀りぬ○七イエスその弟子と共に海邊に退しに多の人々ガリラヤより彼に從へり又エダヤエルサレムイドマヤヨルダンの外またツロシシドンの邊より多の人々イエスの行し事を聞て彼に群り來る九イエス人々の群集に因て擁なやまさるる事なからん爲に小舟を我に備わけ其弟子に曰り十是イエス數多の人々を愈ししに因て凡て疾ある人々手にて彼に押んさて擁逼しが故なり十一また汚たる鬼カれを見て其前に俯伏さけびて爾ハ神の子なりと曰し十二イエス彼等に我を揚すこと勿れと嚴く戒めたり○十三イエス山に登て其意に適ふ所の者を召しかば來りて彼に就り十四是に於て十二人を立て己が楫に置また教を宣傳る爲に遣し十五かつ病を醫し鬼を逐出すの權威を授く十六乃ちシモンをヘテロと名け十七セベダイの子ヤコブと其兄弟ヨハ子

この二人をボア子ルゲと名く之を譯す雷の子なり十八又アンデレヒリポバルトロマイ
 マタイトマスアルパヨの子ヤコブタツダイカナンのシモン十九又イスカリオテのユダ
 此のイエスを賣し者なり二十此等の者家に入り多の人々また來り集りければ食する
 暇もなかりき二二その親屬きよて彼に狂氣せりと言て之を撃んとて來る二二又エルサレム
 より下れる學者等も彼のベルゼブルに憑れたり且鬼の王に藉て鬼を逐出すなりと曰り
 二三イエス彼等を召び譬を以て曰けるはサタンの何でサタンを逐出し得んや二四もし國お
 のれに恃て分争の其國立べからず二五また家おのれに恃て分争の其家立べか
 らず二六若サタン己に恃り起て分争の彼たつ可からず反て終るなるべし二七誰に
 ても勇士の家に入て其家具を奪んさせば先勇士を縛らざれば奪ふこと能はじ縛て後そ
 の家を奪ふべし二八われ誠に爾曹に告ん人の凡の罪を瀆す所の糞瀆の救るべけれ二九聖
 靈を瀆す者の限なく赦さる可からず限なき刑罰に干らん三十斯いへる人々イエスを惡鬼
 に憑たりと言しが故也〇三一その兄弟と母と來て戶外にたち人を遣してイエスを呼し
 む三二多の人々イエスを環て坐したりしが彼に曰けるは視よ爾の母と兄弟戶外に在て爾
 を尋ね三三イエス答て曰けるは我母わが兄弟誰ぞや三四斯て側坐する人々を環視
 して曰けるは我母わが兄弟を見よ三五それ神の旨に従ふ者は是わが兄弟わが姉妹わが
 母なり

四章 イエスマた海濱にて教訓を始しに多の人々かれに集りければ彼舟に乗て坐し凡の

人々海に沿て岸に立り二れ譬をもて多の事を彼等に教ふ教て曰けるは三或種播もの
 播んさて出四播るとき或種路の傍に遺しが空の鳥きたりて之を食へり五或種土うすき
 礫地に遺しが土深かられば直に萌出たれ六日出しかば曝れ根なきが故に枯たり七或種
 棘の中に遺しが棘そだちて之を蔽ければ實を結ぶざりき八また或種沃壤に遺しが其苗は
 えいで蓄り實を結ぶこと或は三十倍或は六十倍あるひは百倍せり九また彼等に曰
 けるは耳ありて聽ゆる者へ聽べし〇十衆人の居ざりし時イエスの側に在し者三十二弟子
 三三此譬を問しかば三十一イエス彼等に曰けるは神の國の奧義を爾曹に知ことを賜へど他
 の者には凡て譬を以てす三十二是かれら視とき視ても見ず聽とき聽ても聽らず心を改めて
 そのつみゆるしえ其罪の赦を得ざらん爲なり三十三また彼等に曰けるは爾曹の譬を知ざるか然らば如何して凡
 の譬を識しを得んや三十四それ播者の教を播なり三十五道の播れて路の傍に遺しもの人
 道を聽しとき直にサタン來て其心に播れたる道を奪取なり三十六また礫地に播れたる
 もの人道を聽しとき直に喜ひて之を受十七然ども己に根なきが故たと暫時のみ後道の爲
 に患難あるひは迫害に遇きしに忽ち離く者なり十八又棘の中に播れたるもの人こと
 ばを聽ども十九此世の思慮と貨財の惑また各様の情欲いり來りて道を蔽により終に實
 を結ざる者なり二十沃壤に播れたるもの人道を聽て之をうけ或は三十倍あるひは六
 十倍あるひは百倍の實を結ぶ者なり〇二一また彼等に曰けるは燈を持來りて斗の下あ
 るひの牀の下に置もの有んや之を燭臺の上に置ならず乎二三隠て明瞭にならざるはなく

藏て隠れざる者なし二三耳ありて聽ゆる者ハ聽べし二四また彼等に曰けるハ聽こころを
 悔め爾曹が度る所の量をもて爾曹も度らるべし聽たる爾曹にハなほ知られん二五それ
 有る者ハなほ與られ無有者ハ有る者をも取る也○二六また曰けるハ神の國ハ人種を地に播
 が如し二七日夜臥起する間に種はえいで成長ども其然る故を知らず二八それ地ハ自から實
 を結ぶものにして初にハ苗つぎに穗いで穗の中に熟したる穀を結ぶ二九既に熟べば時いた
 るに因て直に鎌を入さする也○三十また曰けるハ神の國ハ何に比へ何の譬を以て之を喻ん
 三十一一粒の芥種のごとし之を地に播さきハ百様の種より微けれん三二既に播て萌出れば
 百様の野菜よりハ大くハ巨なる枝を出して空の鳥その蔭に棲ほごに及なり○三三イエス
 彼等の聽得ざるに循ひ多かる譬をもて教を彼等に語れり三四譬に非ざれば彼等に語ら
 ずイエスその弟子と共に居るさき彼等に悉く之を解聽かせり○三五諸その日の夕暮イエス
 彼等に向の岸に濟れと曰ければ三六弟子たち衆人を歸らせイエスの舟に在しを其まゝ之と
 偕に濟れり又他の小舟もさもに往り三七時に颶風おこり浪うちこみて殆ど舟に滿三八イエ
 ス艚のうたに枕して寝たりしが弟子かれの目を醒して曰けるハ師よ我儕が溺るゝなも顧み
 給はざる乎三九イエス起て風を斥め且海に靜りて穩かに爲さ曰ければ風やみて大に和た
 り四十斯て彼等に曰けるハ何故かく懼るゝや爾曹なんぞ信なき乎四一彼等甚しく懼れ互
 に曰けるハ風さ海さへも順ふ是誰なるぞ耶
第五章 かれら海を濟てガダラの地に着二舟よりイエスの上れるさき惡鬼に憑れたる人

たとらに墓間より出て彼に遇三この人ハ墓間を居處させり屢次極枯と鏈をもて繋ごも
 鏈をうちきり極枯を打碎により之を繋ぐる者なく亦誰も之を制し得もの無りき五夜も盡
 も恒に山と墓間に於て喊叫また石をもて己が身に傷つけぬ六彼はるかにイエスを見て趨よ
 り之を拜し七大聲に呼びけるハ至上神の子イエスよ我なんぢさ何の與り有んや我神に
 託て求ふ我を苦むるこそ勿れ八是イエス惡鬼に人より出よと曰しに因てなり九イエス彼に
 爾の名ハ何と問しに答けるハ我儕おほき故に我名をレギオンと云十切に此土地より我儕
 を逐出す勿れとイエスに求めたり十一茲に多の豕の群山に草を食むたりし十二凡の惡鬼ハ
 れに求て我儕を遺て豕に入せよと曰ければ十三イエス直に彼等に許せり汚たる鬼その人よ
 り出て豕に入しかば約そ二千疋ほどの群はげしく馳くたり山坡より海に落て海に溺ぬ十四
 牧者ども逃ゆきて此事を邑また鄉村に告ければ衆人其ありし事を視んさて出十五イエス
 に來りて惡鬼に憑れたる者すなはちレギオンを所持たりし人の衣服をつけ造なる心にて坐し
 居けるを見て懼あへり十六此事を見し者ども惡鬼に憑れたりし者の事豕の事を彼等に告
 ければ十七頓てイエスに其境を出んことを求め十八イエス舟に登んさせしき惡鬼に憑
 たりし者どもに居んことを求めれども十九イエス許すして彼に曰けるハ爾の家に歸り親屬
 に往て主の爾に行し大なる事豕を恤みし事を告よ二十彼ゆきてイエスの己に行たまへる
 大なる事をデカポリスに言揚しければ衆人みな駭きあへり○二一イエス舟に乗て復海の
 彼岸に濟しに大勢の人々彼に集るイエスの海に近をれり二三會堂の宰ヤイロさいふ

人きたりイエスを見て其足下に伏すに求めひける我いさけなき女死る瀕なり
 りぬ之を救ふ爲に來りて手を彼に按たまへ然る女は生べし二四イエス彼と共に往き衆多
 の人々彼に従ひて擁あへり二五爰に十二年血漏を患たる婦あり二六此婦おほくの醫
 者の爲に甚だ苦められ其所有をも盡く毀しければ何の益もなく轉て悪かりしが二七
 イエスの事を聞て群集の中より彼の後に來その衣に捫れり二八是の衣にだに捫らば愈る
 べしと曰なり二九斯て血の漏るること直にさまり既に疾いえし其身に覺たり三十一イエス
 自ら能力の己より出たるを知おほせいの人々を顧みて曰ける我衣に捫りし者誰なる
 乎三二弟子かれに曰ける群集の人々の爾に擁あふを見て我に捫りし者誰ぞと曰たまふ
 乎三三イエスこの事を行る婦を見んと環視しければ三三婦おそれ戰慄おのが身にせられし
 事をまり來て彼の前に俯伏し曰く實情を告三四イエス彼に曰ける女よ爾の信なん
 ぢを救り安然にして往なんぢの疾いゆべし〇三五イエスこの事を言るうちに會堂の宰
 の家より人々來りて曰ける爾の女すでに死たり何ぞ師を煩はす乎三六イエス直に其
 告る所の言をきき會堂の宰に曰ける懼るる勿たゞ信せよ三七イエスメテロとヤコブ
 及その兄弟ヨハ子の外の誰にも共に往きことを許さざりき三八既に會堂の宰の家に來
 りて人々の忙亂いたく哭泣を見る三九入て彼等に曰ける何ぞ忙亂かつ哭や女の死るに
 非たを寢たる耳四十彼等イエスを晒笑ふイエス凡の人々を出し女の父母とその従へる者
 等を牽つれ女の厥たる所に入四一女の手を執て之に曰けるハタリタリミ之を譯バ女よ我な

んぢに命す起よといふ義なり四二直に女おきて行めり彼ハ年十二歳なり彼等はなほだ駭き
 め四三イエスこの事を人に知する勿れと嚴く戒め又女に食物を與よと命じたり
 四四イエス此を去て故郷に到しに其弟子も彼に従ひぬ四五安息日に及ければ會堂に
 て教をばじむ衆人これを聞て奇み曰ける如何して此人に斯の如き事あるか誰より此智慧
 を授られて如此ふしぎなる事をも其手より行か三彼ハ木匠に非やマリヤの子ヤコブヨセフ
 及シモン兄弟にして其姊妹も此に我儕と共に在に非すや遂に人々かれに驚けり四
 エス彼等に曰ける預言者ハその故郷その親戚その室家の外に於て尊ばれざることなし五
 イエス彼處にて患者に手を按たゞ數人を醫し外ふしぎなる事を行こ能ざりき六また
 彼等の信ぜざるを奇み遂に諸郷を經巡て教をなせり〇七イエス十二の弟子を召て彼等を二
 人づゝ遣さんとして之に惡鬼を逐出す權威を授け八且かれらに命じける一の杖の外ハ旅
 の用意に何をも携なけれ旅袋糧食また金をも携す九たゞ履をはき一の衣をきる勿れ十
 また彼等に曰ける何處にても人の家に入らばその所を去までハ其處に居十一凡て爾曹を接
 ずなんぢらに聽ざる者ハ其處を去とせ證のため足下の塵を拂へ我まここに爾曹に告ん
 審判の日いたらバソドムとモラハ此邑よりも却て易かるべし十二弟子たち出て人々に傳
 改む可ことを宣傳ハ十三また多の惡鬼を逐出し又多の病る者に膏を沃て醫しぬ〇十四イ
 エスの名播りければヘロデ王これを聞て曰けるハバプテスマを施しヨハ子死より甦れ
 る故に奇異なる能をなす也十五或人ハ之をエリヤなりといひ或ハ往昔の預言者の如き預言

者なりと曰十六ヘロデ之を聞て曰けるハ是れわが首斬し所のヨハ子也かれ死より甦りたる也十七選にヘロデその兄弟ピリポの妻ヘロデヤの事に因て人を遣しヨハ子を捕て獄に繋げり蓋ヘロデが彼の婦を娶したハヨハ子諫て爾兄弟の妻を納ハ宜からずと曰るに因て也十九ヘロデヤ彼を怨て殺さん欲しかば能ざりき二十ヘロデハヨハ子を義かつ善なる人を知て彼を敬ひ彼を保護かれに聞て多の事を行ひ且喜びて彼に聽こさせり三二斯てヘロデその誕生の日もろくの大員千人の長およびガリラヤの尊き人々に享宴をなせる機會の日いたりければ三三ヘロデヤの女きたりて舞をなしヘロデと其席に列れる人人を樂ましむ王その女に曰けるハ何にても我に求へ爾が望ころの者ハ我なんぢに與ふべし三三又彼に凡そ爾が求るものハ我が領分の半に至ることも爾に與んぢ誓ふ三四女いで其母に何を求べき乎と曰ければ母乃ちパプテスマのヨハ子が首と曰り三五女たちちに急ぎ王にきたり求てパプテスマのヨハ子が首を盆に載て即時に我に賜へと曰三六王甚だ褒げれども既に誓たると同席の者の故をもて之を拒むことを欲す三七王たちちヨハ子の首を携來れと命じて兵卒を遣しければ彼ゆきて獄に於て之を斬三其首を盆にのせ携來りて女に與ふ女ハ之を其母に與たり二九ヨハ子の弟子等この事を聞て來り其屍を取て墓に葬りぬ〇三十使徒等イエスに集りて行へる事と教し事を悉く彼に告三二イエス彼等に曰けるハ爾曹衆を遣て我と偕に暫く寂寞ころに往て休むべし是往來のもの多くして食する暇も無りしが故なり三三かれら人を渡舟にて寂寞ころに往り三三其往を

見て衆人ちほくイエスを去り諸邑より歩行にて趨り彼等の往んとする所へ先往てイエスに集れり〇三四イエス出て多の人を見に彼等ハ牧者なき羊の如き者なるに因て之を憫み許多の事を教はじめぬ三五時すでに暮景になりければ其弟子かれに來いひけるハ此ハ寂寞ころにして時既晩し三六衆人の食ふべき物なきが故に其自ら四周の鄉村に往てパンを市んが爲に彼等を去しめ給へ三七イエス答けるハ爾曹これに食を與ふ弟子かれに曰けるハ我儕ゆきて銀二百のパンを市かれらに與て食しむ可か三八イエス彼等に曰けるハパンは幾何ある往て視よ彼等みて其數をしり五のパンと二の魚ありと答ふ三九イエス衆の人を組々にして青草の上に坐しめよと命じければ四十或ハ百人或ハ五十人づゝ列坐せり四一イエスその五のパンと二の魚をとり天を仰き謝してパンをわり弟子に與て人々の前に陳しむ又二の魚を每人に分與ぬ四二衆人みな食て飽四三そのパンと魚の餘屑を拾し十二の筐に盈たり四四パンを食たる男おほよそ五千人なりき〇四五直にイエスその弟子を強て舟に乗むかふの岸なるベテサイダへ先わたらしめ己ハ衆人を歸しむ四六衆人を歸しよのち祈禱の爲に山に往り四七日暮て舟ハ海の中に在イエスハ獨り陸に居り四八風逆ふに因て弟子等の舟を掉に勢たるを見て曉の四時ごろイエス海の上を履きたり彼等を過んさせしに四九弟子その海を履るを見て變化の物ならんと思ひ叫びたり五十蓋弟子みな之を見て懼しが故なりイエス直に彼等に語りて曰けるハ心安かれ我なり懼るゝこと勿れ五一遂に舟に登しかば風やみぬ彼等心の中に駭き異めること甚だし五二是その心の愚頑に因

てパンの奇跡をも覺ざりし也○五三既に濟ゲテサレといふ地に到て舟泊せり五四彼等舟より出しに頓て人々イエスを知て五五徧く其四方の地へ馳ゆき病る者を床の儘にて與ひイエスの在す處々々を聞出して之に就り五六凡そイエスの至るころ或ハ郷あるひハ邑あるひハ村その街市に病る者を置いて彼に其衣の裾にだに捫らせ給へと求り乃ち捫るほどの者ハみな愈たり

○六六パリサイの人或學者たちエルサレムより來りてイエスの前に集り二彼の弟子の中に潔らざる手即ち盥ざる手にてパンを食する者ありしを見て之を責めたり三蓋パリサイの人ユダヤの人々ハみな古の人の遺傳を守りて其手を潔あらはされば食せず四市より歸きたりて盥されば亦食せず此は杯碗鍋あふび床を洗など多端の遺傳を受守れり五是に於てパリサイの人と學者等イエスに問けるハ爾の弟子ハ何ゆゑ古の人の遺傳に遵はずして盥ざる手を以てパンを食する乎六イエス答て彼等に曰けるハイヤヤハ偽善者なる爾曹を指てよく預言せり其録し言に此民ハ唇にて我を敬へども其心ハ我に遠かり七人の誠を教と爲て徒らに我を拜す八夫なんぢらハ神の誠を棄て人の遺傳を守れり即ち鍋杯を洗はほく此の如き事を行ふ九また彼等に曰けるハ爾曹ハ實に己の遺傳を守んとして能も神の誠を棄る者なり十モーセ曰けるハ爾の父母を敬へ又父あるひハ母を嘗る者ハ殺るべし十一然る爾曹ハ曰し人父あるひハ母に對て爾を養ふべき物ハコルパン即ち禮物なりと曰ハ事すとも可し十二而して人の其父あるひハ母の爲に何を

も行事を爾曹許す十三斯なんぢらハ其教る所の遺傳をもて神の道を廢す又もほく此類の事を行ふ○十四イエスマた衆庶を召て彼等に曰けるハ爾曹みな我言を聞て悟れ十五外より人に入ものハ人を汚すこと能はず然る人より出るものハ人を汚す也十六聽ゆる耳ある者ハ聽べし○十七イエス衆庶を離れて室に入しに其弟子たさへの意を問ければ十八彼等に曰けるハ爾曹もなほ悟ざる凡そ外より人に入ものハ人を汚し能はざる事を知ざる乎十九蓋その心に入す腹に入て厠に遺すなハち食ふ所のもの潔れり二十又曰けるハ人より出るものハ是人を汚す二二人の心より出るものハ惡念姦淫苟合兇殺二三盜竊貪婪惡惡詭譎好色嫉妬 謗讟驕傲狂妄 妄なり二三是等の惡行ハみな内より出て人を汚すもの也○二十四イエス此を去てツロシシドンの境にゆき家に入て入に知れざらん事を欲しが隠れ得ざりき二五その惡鬼に憑たる幼き女を有る婦イエスの事を聞て來り其足下に伏たるに因てなり二六この婦ハサイロピニクに生れしギリシヤの者なりしが惡鬼を其女より逐出し給はん事をイエスに求り二七イエス彼に曰けるハ先兒女に飽しむべし兒女のパンを取て犬に投るハ善らず二八婦たへて曰けるハ主よ然されど犬も案の下に在て兒女の遺屑を食ふ也二九イエス婦に曰けるハ此言に因て歸れ惡鬼ハ爾の女より出たり三十婦その家に歸しに惡鬼既に出て牀に女の臥たるを見る○三一イエスツロシシドンの地を去てデカボリスの地を過カリラヤの海に至れり三二人ハ驢の訥る者をイエスに携來りて手を接給はん事を求ければ三三イエス衆人を離れ之を外へ携ゆき指を其耳にさしいれ又睡し

て其舌に捫り三四且天を仰て歎じ其人に對てエツパタミ曰これを譯五啓よこの義なり三五
 直に其耳ひらけ舌の絡ゆるみて正く言へり三六イエス之を人に告る勿れ彼等を戒むれ
 戒むるほど益言揚しぬ三七衆人はなだしく駭きて曰ける此人の行し所ごとく
 善あるひの聲を聲えさせ或の啞者を言ひしめたり

第八節

當時あつまれる人々甚だ多りしが何の食物も有ざりければイエス其弟子を召
 て曰ける二我この多の人々を憐む既に三日われと共に居しゆ今にも食物なし三も
 し飢しまふ其家に歸さば途間にて憊ん其中に遠處より來れる者あればなり四その弟子かれ
 に答ける五此野にて何處よりパンを得この人々を飽しめん乎五イエス彼等に問ける六パン
 幾何あるや七答ふ六イエス人々に命じて地に坐せしめ七のパンを取て謝し之をわり人々
 の前に陳しめんが爲その弟子に與ければ即ち人々の前に陳り七また八小き魚を些須もて
 り之をも祝して人々の前に陳さ曰八人々これを食て飽その餘屑を七の籃に拾り九之を食る
 者凡そ四千九人なり乃ちイエス之を歸しぬ十イエス直に其弟子と共に舟に乗てガルマ
 ヌタの方に往し十一パリサイの人いでて彼を試んがため天よりの休徴を求めて詰は
 じむ十二イエス心の中に深く歎息して曰ける十三此世の人なんぞ休徴を求るや誠に我なん
 ぢらに告ん休徴此世の人に必ず與られじ十三イエス彼等を離れて復舟に乗むかふの岸に
 濟れり十四さて弟子パンを携ふることを忘た一のパンのみ舟に有き十五イエス彼等を
 戒めて曰ける戒心してパリサイの人の齟齬ヘロデの齟齬を慎め十六弟子たがひに論

じて曰ける是パンを携へざりし故ならん十七イエス之を知て彼等に曰ける何ぞ互にパ
 ンを携へざりし事を論するや未だ悟ざる十八爾曹の心なほ頑十八目ありて視ざる耳あり
 て聽えざる乎十九我五千人に五のパンを擘あたへし時その餘屑を幾筐ひるひ
 しや答ける十二なり二十又四千人に七のパンを擘あたへし時その餘屑を幾筐ひるひしや
 答ける七なり二イエス彼等に曰ける何ぞ悟ざる乎三イエスベテサイダに至けれ
 ば人々警者を携來りて之に手を按たまへん事を求り三イエス警者の手を執て村の外へ携
 出その目に唾して手を彼に按ひける何を視るや四警者目を舉て曰ける我この人々
 の歩行を見に樹の如し五途にイエスマた兩手を彼の目に按その目を舉させれば乃ち愈
 て庶物あきらかに視たり六イエス彼を其家に歸らせ曰ける此村に入なかれ且こ
 の村人にも告る勿れ七イエスその弟子と共にカイザリヤピリビの諸村へゆく途間にて
 其弟子に問て曰ける衆人の我を曰て誰とする乎二八答ける或人のバプテスマのヨハ子
 或人ハエリヤ或人ハ預言者の一人なりと曰り二九イエス彼等に曰ける爾曹の我を曰て誰
 さする乎ベテロ答ける爾ハキリストなり三十イエス彼等戒めて我事を誰にも告る勿
 れ命にたり三一また人の子の必す多の苦難をうけ長老祭司の長學者者どもに棄
 られ且殺されて三日の後に甦ることを彼等に示し始たまへり三二明に之を示し給しか
 ばベテロイエスを撥て諷んさせし三三イエス回顧その弟子を見てベテロを戒め曰ける
 ハサタン我後に退爾ハ神の情を思ず反て人の情を思ふ三四衆人其弟子を共

に召て彼等に曰けるハ若し我に従はん者ハ己を棄その十字架を負て我に従へ三五そ
 ハ生命を全うせんとする者ハ之を棄ひ我ため且福音の爲に生命を棄ふ者ハ之を得べけれ
 バ也三六もし人全世界を得ても其生命を棄はば何の益あらん乎三七また人何をもて其生
 命に易んや三八姦惡なる此世に於て我我道を耻る者ハ人の子も亦聖使と共に
 父の榮光をもて來る時之を耻べし

第二十三章 イエスマた彼等に曰けるハ我まここに爾曹に告ん此に立もの中神の國の權威
 をもて來るを見までハ死ざる者あり〇二さて六日の後イエスマテロヤコブヨハ子に伴ひ
 人を避て高山に登り給ひしが彼等の前にて其容貌ハハリ三其衣ハ白き甚だし
 くして雪のごとく世上の布漂も斯しるくハ爲能ハざるべし四エリヤモモーセと共に彼等
 に現れてイエスと語をれり五ペテロ答てイエスに曰けるハラビ我儕ここに居ハ善われらに
 三の處を建せ給へ一ハ主のため一ハモーセのため一ハエリヤの爲にせん六此ハ其謂さころ
 を知ざりしなり彼等いたく懼しに因七斯て雲彼等を蔽ひ聲雲より出て曰けるハ此ハ我ハ愛
 子なり之に聽べし八頓て弟子環視ければイエス己の外ハ一人をも見ざりき〇九山を下る
 時にイエス彼等に命て人の子の死より甦る迄ハ爾曹の見し事を人に告る勿れと曰り十弟
 子等この言を守かつ互に論じ曰けるハ死より甦る云ハ何の事ハ十一彼等イエスに
 問て曰けるハエリヤハ前に來るべしと學者の曰るハ何ぞや十二イエス答て曰けるハ眞に
 エリヤハ前に來りて萬事を復振また人の子に就てハ其各様の苦難を受かつ輕慢らるゝ事を

書しるされたり十三然ど我なんぢらに告んエリヤ既に來しに彼に就て録されたりし如く人
 々意の任に之を待へり〇十四イエス弟子等の所にきたり多の人々の彼等を環圍る事學
 者たちの彼等と論じをりしを見たり十五衆人たぢらに彼を見て駭き趨よりて禮をなせり
 十六イエス學者に問けるハ弟子と何事を論する乎十七衆人のうち一人一たへけるハ師よ
 われ我ものいハぬ惡鬼に憑れたる我子を爾に携來れり十八惡鬼の憑時ハ彼傾跌され沫をふき
 齒を切て疲勞はつる也これを逐出さんことを我なんぢの弟子に請しハ彼等能ざりき十九
 イエス彼等に答て曰けるハ噫信なき世なる哉いつまで我なんぢらと共に在んや何時まで我
 なんぢらを忍んや彼を我に携來れ二十彼等その子を携來りしに惡鬼イエスを見て怒ち彼を
 拘撃しむ彼地に仆れ輾轉て沫を出ぬ二一イエスその父に問けるハ幾何時より如此なりし
 や父いひけるハ少時より也二三惡鬼まばく之を火の中あるハ水の中に投入て殺ん
 させり爾もし爲こをを得バ我儕を憫みて助ふ二三イエス彼に曰けるハ爾もし信する事を得
 ば信する者に於て爲あたハざる事なし二四其子の父たぢらに聲をあげ涙を流して曰けるハ
 主よ我信す我が信なきを助たまへ二五イエス衆人の趨集るを見て惡鬼を叱いひけるハ
 啞にして聾なる惡鬼よ我なんぢに命す出て再び之に入なかれ二六惡鬼さけびて大に彼を拘
 撃しめて出しかハ彼死たる者の如なりぬ人々これを已に死りと云二七イエスその手を執て
 扶ければ彼たてり〇二八イエス家に入しに其弟子ひそかに問けるハ我儕これを逐出さん
 能ざりしハ何故ぞ二九イエス彼等に曰けるハ此族ハ祈禱と斷食に非れば逐出さん能ざ

る也○三十 彼等こゝを去てガリラヤを過ぐの事をイエス人の知を欲ざりき三一 蓋その弟子に教て人の子に付され彼等に殺され殺されてのち第三日に甦るべしと曰たまふ故なり三三 其とき弟子等この言を曉らす亦問こゝを恐たり○三三 倍イエスカペナウンに至り室に居て弟子に問けるハ爾曹途間にて何を互に論ぜし乎三四 弟子黙然たり是途間にて互に論じ誰が大ならんとの争ありければ也三五 イエス坐して其十二を召かれらに曰けるハ若し首たらんご欲ふ者凡の人の後となり且すべての人の使役ならん 三六 また孩提を取て彼等の中に立て之を抱き彼等に曰けるハ三七 凡そ我名の爲に斯のごとき孩提の一人を接る者ハ即ち我を接るなり又われを接る者ハ即ち我を接るに非ず我を遣しと者接るなり○三八 ヨハ子彼に答て曰けるハ師ハ我儕に従はざる者の爾の名に托て悪鬼を逐出せるを見しが我儕に従はざる故これを禁たり三九 イエス曰けるハ其人を禁る勿れ蓋わが名により異なる能を行ひて輕易しく我を誹得る者ハあらじ四十 我儕に敵はざる者ハ我儕に屬者なり四一 爾曹をキリストに屬者として我名の爲に一杯の水にても爾曹に飲する者ハ我まこゝに爾曹に告ん其人の賞を失はざる也 四二 また凡そ我を信する小子の一人を礙する者ハその首に磨を懸られて海に投入られん方その人の爲になほ善るべし 四三 若し爾の一手なんちを礙さば之を斷され兩手ありて地獄すなほち滅ざる火に往んよりハ殘缺にて永生に入ハ爾の爲に善き也 四四 彼處に入もの蟲つきす火きえず 四五 若あんちの一足なんちを礙さば之を斷され兩足ありて地獄すなほち滅ざる火に投入られんよりは跛にて永生

に入り爾の爲に善なり 四六 彼處に入もの蟲つきす火きえず 四七 もし爾の一眼なんちを礙かさば之を抉いだせ 兩眼ありて地獄の火に投入られんよりは一眼にて神の國に入ハ爾の爲に善なり 四八 彼處に入もの蟲つきす火きえず 四九 蓋すべての人の鹽をつくる如く火を以せられ凡の祭物ハ鹽をもて鹽つけらる 五十 鹽ハ善ものなり然と鹽もし其味を失はど何をもて之に味を加んや 爾曹の中に鹽を有て又たがひに鹽み和ぐべし

第十節

イエス此を去ヨルダンの外を経てユダヤの境の内に来しに多の人々また彼に集りければ恒の如く彼等に教誨を爲たまへり 二 ぱリサイの人來て彼を試み問けるハ人その妻を出すハ可か 三 答て曰けるハモーセハ爾曹に何き命ぜし乎 四 彼等曰けるハモーセハ離縁狀を書與へて之を出すこゝを許せり 五 イエス 答て彼等に曰けるハモーセ爾曹の心つれなきに因て此命を爲たる也 六 然と開關のはじめ神人を男女に造り給へり 七 是故に人のその父母を離れその妻に合て二人のもの一體と成べし 然と二人には非ず一體なり 八 是故に神の繩を給へる者は人これを離すべからず 九 十室に在て弟子等また此事を問ければ十一 イエス 彼等に曰けるハ凡そ其妻を出して他の婦を娶る者ハ其妻に對して姦淫を行ふなり 十二 また婦もし其夫を出して他に嫁がば此婦も姦淫を行ふなり 十三 イエスに撫れんがため人孩提を携來れば弟子等その携來る者を責めたり 十四 イエス之を見て怒を舍かれらに曰けるハ孩提を我に來せよ 彼等を禁る勿れ神の國に居ものハ斯の如き者なり 十五 誠に我なんちらに告ん凡そ孩提の如くに神の國を承ざる者ハ之に入こゝを待ざる也 十六 即ち

彼等を拘て手をその上に按これに祝せり○十七イエス途に出けるに一人はしり來りて跪
 き問けるハ善師よ我が子なりなき生命を嗣ために何を行へき乎 十八イエス彼に曰けるハ何ぞ
 我が善と稱や一人の外に善者ハなし即ち神なり 十九 誠ハ爾が識さるるなり茲淫する勿れ
 殺なかれ盗なかれ妄の證を立る勿れ 揚 驅なかれ爾の父と母を敬へ 二十 答て曰けるハ
 師よ是が我が幼きより守れるもの也 二一 イエス彼を見て愛み曰けるハ爾なほ一を虧
 ゆきて其所有をうり賣者に施せ然ば天に於て財あらん而して來り十字架を操て我に従
 へ 二二 彼の言に因て裏み盡て去ぬ彼の父大なる産業を有る者なればなり 二三 イエス環視
 てその弟子に曰けるハ財を有る者の神の國に入ハ如何に難か 二四 弟子この言を駭けりイ
 エス復たてて彼等に曰けるハ小子よ財を恃む者の神の國に入ハ如何に難か 二五 富者
 の神の國に入よハ駱駝の針の孔を穿るハ却て易し 二六 弟子たち甚く駭き互に曰けるハ
 然ば誰か救を受へき乎 二七 イエス彼等を見て曰けるハ是人にハ能ざる所なれ 二八 然
 らず神は能ざる所なれば也 二八 是に於てペテロ彼に曰けるハ我儕一切を捨て爾に従へ
 り 二九 イエス 答て曰けるハ誠に爾曹に告ん我と福音の爲に家宅あるハ兄弟あるハ
 姉妹あるハ父あるハ母あるハ妻あるハ子女あるハハ田疇を舍る者ハ三十の世
 にて百倍を受ざる者なし即ち家宅兄弟姉妹母兒女田疇を迫害と共に受また後の世に
 ハ窮なき生を受ん 三一 然多の先なる者ハ後になり後なる者ハ先になるべし 三二 さて彼
 等エルサレムに上る途間 イエス弟子に先を行ければ彼等もどるき且もそれて從へり イエ

ス十二を伴ひて將に己に及んさす事を彼等に告給ひけるハ 三三 我儕エルサレムに上り
 人の子ハ祭司の長と學者等に付れん彼等これを死罪に定め異邦人に付し 三四 又これを嘲
 弄し鞭打ち唾し且これを殺ん斯て第三日に甦るべし 三五 ゼベダイの子ヤコブとヨハ子
 イエスに來て曰けるハ師よ我儕が求る事を願くハ我儕に成たまへ 三六 彼等に曰けるハ爾曹
 に我が何を成ん事を欲ふや 三七 彼等いひけるハ 爾榮を得んとき我儕の一人を其右に
 一人を其左に坐せしめよ 三八 イエス彼等に曰けるハ爾曹ハ求ふ所を知らず爾曹わが飲こ
 るの杯を飲わが受る所のバプテスマを受得や 三九 彼等いひけるハ能すべし イエス彼等に
 曰けるハ爾曹ハ實に我が飲こころの杯を飲また我が受る所のバプテスマを受べし 四十 然
 るに我が右左に坐する事ハ我が予ふべきに非たし 備られたる者ハ予らるべし 四一 十人の弟子
 これを聞てヤコブとヨハ子を憤れり 四二 イエス彼等を召て曰けるハ異邦人の君と見る者
 ハ其民を治また大なる者どもハ彼等の上に權を執これ爾曹が知こころ也 四三 然爾曹の中
 にてハ然す可らず爾曹のうち大ならん欲ふ者は爾曹に役る者ならん 四四 また爾曹の
 うち首たらん欲ふ者ハ凡の人の僕ならん 四五 蓋人の子の來るも人を役ふる爲に非ず反て
 人に役られ且もはくの人に代その命を予て 贖さならん爲なり 四六 斯て彼等エリコに
 至りイエスその弟子と大なる群集の人々と共にエリコを出る時テマイの子なるバルテマ
 イといふ瞽者路の旁に坐して乞ひけるが 四七 ナザレのイエスなりと聞て呼り曰けるハ
 ビデの裔イエスよ我を恤み給へ 四八 多の人々これに誠黙と戒められども愈よばりて

ダビデの裔よ我を恤み給へと曰ければ四九イエス立止りて彼を召さ命じければ人々警者をして彼に曰ける心をや安んぜよ起イエス爾を召五十警者その表衣を棄ちてイエスに來れり五一イエス答て彼に曰ける爾われに何を爲れんか欲ふや警者いひける主よ見なん事を欲ふ五二イエス彼に曰ける往なんちの信仰なんちを救へり直に彼みゆることを得イエスに従ひて路を行り

○三 橄欖山のベテパゲさベタニヤに至りエルサレムに近ける時イエス二人の弟子を遣さんとして二彼等に曰ける爾曹對面の村に往かしこに入ら頼て人の未だ乗ざる所の繋げる驢馬の子を見べし其を解て牽來れ三もし誰か爾曹に何ゆゑ然する乎といふ者あらば主の用なりと曰さらば直に其を此に遣るべし四彼等ゆきて門の外の岐路に繋げる驢馬の子を見て之を解ければ五其處に立る人々のうち或人かれらに曰ける此驢馬の子を解て如何する乎六弟子イエスの命ぜし如く曰しかば遂に許たり七弟子驢馬の子をイエスに牽きたりて己が衣を其上に置ければイエスこれに乗り八人々おほく其衣を路上に布あるひは樹の枝を伐て路上に布九かつ前にゆき後に從ふ人々呼り曰けるハホザナ主の名に託て來る者ハ福なり十主の名に託て來る我儕の父なるダビデの國ハ福なり至上處にホザナよ○十一イエスエルサレムに至り聖殿に入て悉くみまひし時すでに暮に及ければ十二三偕にベタニヤに往り○十二明日かれらベタニヤより出時イエス饑たり十三途に葉ある無花果の樹を見てその樹に何か有んさて來しに葉の他なにも見ざりきは無花果樹の

時に非れば也十四イエスこの樹に對て今よりのち永久も爾の果を食ふ人あらざればといふ弟子これに聞り○十五彼等エルサレムに至りイエス殿に入てその中なる賣買する者を殿より逐出し兌銀者の案、鴿を繋者の椅子を倒し十六かつ器具を以て殿を過ること許さす十七また彼等に論て曰けるハ我室ハ萬國の人の祈禱の室と稱らるべしと録されたるに非や然るに爾曹ハ之を盜賊の巢となせり十八學者と祭司の長これを聞て如何してかイエスを裏さん謀しが彼を懼たり蓋人々みな其教に駭きたれば也○十九日くれてイエス城邑を出行り二十翌朝かれら無花果の樹を過る時その根より盡く枯たるを見る二一ペテロ憶出てイエスに曰けるハラビ見よ詛し所の無花果樹ハ枯たり二二イエス答て彼等に曰けるハ神を信ぜよ二三誠に我なんぢらに告ん誰にても其心に疑ふ事なく其いふ所の言ハ必ず成べしと信じ此山に移て海に入さいハ其言の如く成べし二四是故に我なんぢらに告ん凡そ祈禱の時その求ふ所のものハ必ず得べしと信ぜよ必ず得べし二五又なんぢら立て祈禱する時もし人を感こさ有べ之を免せ蓋天に在す爾曹の父に爾曹も亦その過を免されん爲なり二六もし爾曹免さずば天に在す爾曹の父も亦なんぢらの過を免し給へじ○二七彼等またエルサレムに至りイエス殿を行るとき祭司の長學者および長老等きたりて二八彼に曰けるハ何の權威を以て此事を行や誰が此事を行べき爲に爾に此權威を與しや二九イエス答て彼等に曰けるハ我も一言なんぢらに問ん我に答よ然ば我なんぢらに何の權威を以て之を行さいふ事を告べし三十ヨハ子のパプテスマハ天よりか人よりか我に答よ

三一 彼等たがひに論じ曰けるハ若し天より云べ然レ何故カレを信ぜざるカと曰ん三二も
 し人より云べ彼等民を懼たる也その民みなヨハ子ヲ預言者ト爲ニ因三三遂ニ答テ知ずと
 曰イエス答テ曰けるハ我も何の權威を以テ之ヲ行ハ爾曹ニ語ジ

三四 イエス 譬をもて彼等に語れり或人葡萄園を樹り籬を築し酒搾をほり塔を
 たて農夫に租與て他の國へ往しが二期いたりければ葡萄園の果を收取ん爲に僕を農夫の所
 に遣しけるに三農夫等これを執へ打撲きて徒く返しめたり四また他の僕を彼等に遣し
 農夫等これを石にてうち首に傷つけ辱しめて返しむ五又ほかの者を遣し之をも殺せ
 り又ほかにも多し遣し之を或ハ撲あるびハ殺しぬ六爰に一人の愛子ありけるが此わが子の敬
 ふならんと言て遂に其子を遣し之に七農夫等たがひに曰けるハ此ハ嗣子なり率これ殺さ
 ん然レ産業ハ我儕の者ならん八乃ち執へて之を殺し葡萄園の外に棄たり九然レ葡萄園
 の主人なを爲すべきが彼きたりて農夫等を打滅し葡萄園を他の人に託ふべし十工匠
 の棄たる石ハ屋の隅の首石成り十一これ主の成たまへる事にして我儕の目に奇とする所
 なり十三録されしを未だ讀ざる乎十二彼等この譬ハ己等を指テ語れり十三知イエスを執んさせ
 しかども衆人を懼てイエスを去ゆけり十四彼等イエスを其言に由テ陥れんとしてパ
 リサイの人とヘロデの黨の中より數人を遣せり十五遣されし者等イエスの所に來り曰
 けるハ師よ爾ハ眞なる者なり又誰にも偏らざる事を我儕ハ知そハ貌に依テ人を取す誠を以
 て神の道を教ればなり眞をカイザルに納るハ宜や否われら納べきハ納ざる可か十五イエス

その實ならざるを知テ彼等に曰けるハ何ぞ我を試るヤデナリヲ携來りて我に觀よ十六カ
 れら携來りけれバイエス彼等に曰けるハ此像と號レ誰カ答テカイザルなりと曰十七イエ
 ス曰けるハカイザルの物ハカイザルに歸し又神の物ハ神に歸すべし彼等これを奇とせり十八
 復生なしと曰なせるサドカイの人きたりてイエスに問けるハ十九師よ我儕にモーセ
 が書遺るにハ人の兄弟もし子なくして妻を留し死ぶその兄弟の妻を娶て兄弟の裔
 を立べしと二十爰に七人の兄弟ありしが長子妻をめざり子なくして死二二第二の者これ
 を娶また子なくして死第三もまた然す三三七人みな之を娶たれど子なく終にハ此婦も死
 り二三後生の時かれら甦らば此婦ハ誰の妻と爲べき蓋七人もななく之を娶たれば也
 二四 イエス 答テ彼等に曰けるハ爾曹ハ聖書をも神の能をも知ざるに因テ謬れるならず乎
 二五 それ死より甦る時ハ娶す婦がす天にある使者等の如し二六 死し者の甦る事に就て
 ハモーセの書棘中の篇に神かれに語て我ハアブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりと曰
 たまひしを爾曹讀ざる乎二七 神ハ死し者の神に非ず生る者の神なり爾曹大に謬れり二八
 二八 學者の一人彼等の議論を聞てイエスの善これに應しを知きたり彼に問けるハ諸
 誠のうち何れ首なる乎二九 イエス 彼に答けるハ諸誠の首ハイストラエルと認け主な
 る我儕の神ハ即ち一の主なり三十 なんぢ心を盡し精神を盡し意を盡し力を盡し主なる
 爾の神を愛すべし是誠の首なり三一 第二も亦これに同じ己の如く爾の隣を愛すべし斯
 より大なる誠なし三二 學者イエスに曰けるハ善かな師よ爾神ハ即ち一にして他に神

なしと曰しハ誠なり三三また心を盡し智慧を盡し精神を盡し力を盡して之を愛し又そのれ
 の如く隣を愛するハ諸の燔祭を禮物よりも愈るなり三四イエス彼が道理を知る答を見て
 之に曰けるハ爾神の國より遠からず此のち敢てイエスに問者なかりき○三五イエス殿に
 在て教誨を爲る時がらに答て曰けるハ何ぞ學者ハキリストをダビデの裔といふ乎三六夫
 ダビデ聖蹟に感じて自いふ主わが主に曰けるハ我なんぢの敵を爾の足踏さなすまで我
 右に坐せよと三七如此ダビデ自ら彼を主と稱たり然バ如何で其裔ならんや多の人々喜
 びてイエスに聞こを爲り○三八イエス教をなせる時がらに曰けるハ長き衣服を衣て
 あるき市上にて人の問安三九會堂の高坐筵席の上座を好四十また婦の家を寄いつはり
 て長き祈をする學者を謹防よ彼等の審判かること尤も重し○四一イエス賽議の箱に對て
 坐し人々の錢を箱に入るを見たまひしに多の富者ハ多く投入たり四二人の貧き婦き
 たりてレプタ二を投入る此ハ四厘ほどに直れり四三イエスその弟子を召て彼等に曰けるハ
 誠に我なんぢらに告ん箱に投入し凡の人々よりも此貧き婦ハ多く投入たり四四その彼
 等の皆その餘れる所を以て入この婦ハその不足ところより其すべての所有すなりハ全業を
 盡く入たれば也

イイエス聖靈より出ければ一人の弟子かれに曰けるハ師よ觀たまへ此石この殿宇
 いかん盛んならず乎ニイエス答て曰けるハ爾曹この大なる殿宇を見が一の石も石の上に
 圯れずしての遺じ三イエス橄欖山にて殿に坐し給しにペテロヤコブヨハ子アンデ

レ竊に問けるハ四何の時此事あるや又すべて此事の成ん時ハ如何なる光あるや我儕に
 告たまへ五イエス答て彼等に曰けるハ人に欺かれざるやう慎めよ六蓋もほくの人わが名
 を冒來り我ハキリストなりと曰て多の人を欺くべし七爾曹戰さ戦の風聲を聞き懼
 る勿れ是等の事はみな有べきなり然ども末期ハ未だ至らず八民ハ起て民をせめ國ハ國を
 攻また隨在に地震あり饑饉變亂あり是等の苦難の始なり九爾曹みづから慎めよ蓋なんぢ
 ら集議所に付され又會堂にて撞つたれ且證を爲んため我事に因て候もよび王の前
 に曳立らるべし十而して福音ハまづ萬民に宣傳ざるを得ず十一人なんぢらを曳解さば以
 前より何を言んさ慮また思煩ふ勿れ惟なんぢら其とき賜ふ所の言ハ曰べし蓋ものいふ
 者ハ爾曹に非ず聖蹟なり十二兄弟ハ兄弟を死に付し父ハ子を付し亦子ハその父母に逆
 ひて之を死しめ十三又なんぢらハ我名に縁て凡の人に憎るべし然と終まで忍ぶ者ハ救る
 ことを得ん十四預言者ダニエルが言し所の殘暴にくむ可もの立べからざる所に立を見
 讀者よ思へし其時エダヤに在る者ハ山に隠れよ十五屋上に在る者ハ室に下る勿れ又
 物を取んさて其家に入なけれ十六田に在る者ハ其衣服を取んさて歸る勿れ十七其日に孕
 る者ハ乳を哺する婦ハ禍なる哉十八なんぢら冬にぐることを免れん爲に祈れ十九其日に
 患難あらん此の如き患難ハ神の物を創造たまひし開闢より今に至るまで有ざりき亦
 後にも有じ二十もし主その日を減少し給す一人だに救る者なし然と主の選たまへる所
 の選れし者の爲に其日を減少し給へし二二其時もしキリスト此にあり彼に在る爾曹にい

ふ者あるとも信する勿れ 二三その偽キリスト偽預言者おこりて休徵を奇能を行ひ選
 れたる者をも欺くことを得ば欺くべければ也 二三なんぢら慎よ我預じめ爾曹に盡く之
 を告二四厥時この患難ののち日の晦く月の光を失ひ 二五天の星のあち天の勢ひ震ふべし
 二六 其とき人々の子の大なる權威と榮光を以て雲の中に現れ来るを見ん 二七 また其
 とき人の子その使者等を遣して地の極より天の極まで四方より其選れし者を集むべし 二八
 夫あんぢら無花果樹に由て譬を學その枝すてに柔かにして葉めぐめば夏の近を知 二九 此
 の如く爾曹も凡て是等の事を見れば時ちかく門口に至るを知 三十 われ誠に爾曹に告ん是等
 の事とくく成まで此民の逝ざるべし 三一 天地の廢ん然と我言の廢じ 三二 其日その
 時を知者の惟わが父のみあり天にある使者も子も誰も知者なし 三三 此日いづれの時きた
 る乎を知ざれば爾曹つゝしみて目を醒し祈禱せよ 三四 それ人の子の遠行せんとして其權を
 爾曹等に委ね各に爲べき事を任せ又爾曹者に怠らす守れと命じて家をさる人の如し 三五
 是故に爾曹も怠らすして守れ蓋家の主人あるひの夕あるひの夜半あるひの 鷄鳴時ある
 ひの早晨に歸るかを知ざれば也 三六 恐く不意の時きたりて爾曹が眠るを見ん 三七 わ
 れ怠らすして守れと爾曹に告るの即ち凡の人に告るなり
 第三十四節 さて逾越即ち除酵節の二日前に祭司の長と學者たら詭計を以てイエス
 を執へ殺さんとし 二曰ける祭の日には爲べからず恐く民の中に亂起らん 〇三イエス
 ベタニヤの癩病人シモンの家にて食し居たまへる時ある婦蠟石の盒に價貴きナ

ルドの香油を盛て携來り其盒を裂りイエスの頭に膏を沃たり 四或人々互に怒を合
 いひけるハ此膏を糜すハ何故や 五之を擲る三 月有奇のテナリを得て貧者に施
 すことを得ん此婦を言告む 六イエス曰けるハ彼に係る勿れ何ぞ此婦を擲すや我
 に善事を行へる也 七貧者ハ常に爾曹と偕に在る爾曹意に隨せて彼等を濟ることな
 得べし我ハ常に爾曹と偕に在らず 八此婦ハ力を盡して作り蓋あらはれ我を葬る爲わが身
 に膏を沃しなり 九我まことに爾曹に告ん天の下いつくにも此福音を宣傳らるる處
 には此婦の行し事も亦その記念の爲に言傳らるべし 十 さて十二の一人なるイスカリヤ
 テのユダイエスを付さんさて祭司の長に往し 十一 彼等これを知りて悦び銀子を予ん約
 せしかバユダイエスを付さんさて機を窺へり 〇十二 除酵節の首の日すなはち逾越
 の羔を殺すべき日弟子イエスに曰けるハ 逾越の食を何處へ往て我備ふべき乎 十三 イ
 エス二人の弟子を遣さんとして之に曰けるハ 京城に往さらば水を盛たる瓶を挈る人に遇べ
 し之に従へ 十四 その入る所の家の主人に師いふ我弟子と偕に逾越を食すべき客 房ハ
 安に在や 曰 十五 然れば彼陳設たる大なる 樓 房を爾曹に示べし我儕の爲に其處に備よ
 十六 弟子ゆきて京城に入しにイエスの曰たまへる如く遇しがバ 逾越の備をなせり 〇十七 日
 暮てイエス十二の弟子と偕に來れり 十八 かれら席に就て食する時イエス曰けるハ 誠に我
 なんぢらに告ん我と偕に食する爾曹のうち一人われを賣すべし 十九 彼等憂て各々イエ
 スに言出けるハ 我なる乎 また他の一人も曰けるハ 我なる乎 二十 イエス 答て曰けるハ 十二

の中の二人われ共て手を盥に着る者是なり 二人の子ハ己に就て録されたる如く逝ん然
 人の子を賣す者ハ禍なる哉その人は生ざりしならハ幸なりし爲ん 二三かれら食する時
 イエスを取て祝し之を撃かれらに予て曰けるハ取て食へ此ハ我身なり 二三また杯を
 取て謝し彼等に予ければ皆この杯より飲り 二四イエス曰けるハ此ハ新約の我血にして衆
 の人の爲に流す所のもの也 二五我まことに爾曹に告ん今よりのち新しきものを神の國にて
 飲ん日までの葡萄にて製るものを飲じ 二六彼等歌を詠て橄欖山に往り 二七イエス彼等
 に曰けるハ今夜なんぢら皆われに就て寝かん蓋われ牧者を撃ん其さき綿羊散べしと録さ
 れたれば也 二八然と我よみおへりて後なんぢらに先ちガリラヤに往べし 二九ペテロイエ
 スに曰けるハ假令みな寝さも我ハ然らず 三〇イエス彼に曰けるハ我まことに爾に告ん
 今日この夜鶏二次鳴まへに爾三次われを知らざらん 三一彼また力言いひけるハ我
 ハ爾と偕に死るも爾を知らざらん 三二曰けるハ弟子みな如此いへり 三三斯て彼等ゲツセマ子といふ所
 に至りイエスその弟子に曰けるハ祈る間ここに坐せよ 三三遂にペテロヤコブヨハ子に伴
 ひゆき甚しく憂へ哀を催し 三四彼等に曰けるハ我心いたく憂て死るばかりなり爾
 曹ここに待て目を醒し居 三五イエス少し進んで地にふし祈り曰けるハ若しなハ此時を
 去しめ給へ 三六また曰けるハアバ父よ 爾に於て凡の事能ざるなし此杯を我より
 取たまへ然と我が欲ふ所を成んとするに非ず爾が欲ふ所に任せ給へ 三七イエス來りて彼等
 の寝たるを見ペテロに曰けるハシモンなんぢ寝たるか一時も目を醒し居こ能ざる乎 三八

誘惑に入ぬやう目を醒しつ祈るの心神の願なれど肉體よわき也 三九復ゆきて 同言を曰
 て祈り 四十返りて復かれらの寝たるを見る此ハ彼等その目倦たるなり イエスに何と對ふ
 可やを知ざりき 四一三次きたりて彼等に曰けるハ今ハ寢て安め 充分なり時いたれり人の
 子ハ罪人の手に賣さる也 四二起よ我儕ゆくべし我を賣す者近けり 四三斯いへる時た
 ちらに十二の一人なるユダ 刃を携たる多の人々共祭司の長學者者よび長
 老の所より來る 四四イエスを賣者かれらに號をなして曰けるハ我が按劔する者ハ其なり
 之を執て慎み去よ 四五即ち來りてイエスに近よりラビ、ラビと曰て接吻せり 四六人々
 手をイエスに指て執ふ 四七傍に立る者の一人刃を抜て祭司の長の僕を撃その耳を削
 り 四八イエス答て彼等に曰けるハ刃を執るももち盜賊を執る如くして我を執に來る乎
 四九われ日々なんぢら共殿にて教しに爾曹われを執りき然と此ハ聖書に應せんが
 爲なり 五十弟子みなイエスを離て奔去ぬ 五一一少者その身にたゞ麻の夜具を蔽てイエ
 スに従ひたりしが逮捕の者等これを執ければ 五二かれ麻の夜具をすて裸にて逃去り 五三
 衆人イエスを祭司の長に携往けるに祭司の長長老よび學者等こゝく彼の所に集
 れり 五四ペテロ遠く離れてイエスに従ひ祭司の長の庭の内まで入僕と共坐して火に煖
 まり居り 五五祭司の長よび議員みなイエスを殺んとして證を求めども得ず 五六多の
 人々イエスに 妾の證を言出せども其證あはず 五七或人々たちて 妾の證を言出し
 けるハ 五八かれ手を以て作たる此聖殿を毀ち三日の間に手を以て作する別の殿を建んと言

しを我儕の聞き 五九 如此いひしが其證また符す 六十 祭司の長中に立てイエスに問ひひける
 爾 答る言なき乎この人々の爾に立る證據の如何 六一 イエス默然として何も答ざ
 りければ祭司の長また彼に問て曰けるハ爾の頷べき者の子キリストなる乎 六二 イエス曰け
 るハ然り人の子大權の右に坐し天の雲の中に現れ來るを爾曹みるべし 六三 是に於て祭司の
 長その衣を裂て曰けるハ我儕なんぞ復はかに證據を求人や 六四 その聲震たる言ハ爾曹も
 聞る所なり爾曹如何に意ふや 彼等舉てイエスを死に當るべき者と擬たり 六五 或者の彼に
 唾し又その面を掩ひ拳にて撃いひけるハ預言せよ亦撰等も手の掌にて彼を批り 六六 ペテ
 ロ下庭に在しに祭司の長のある婢きたりて 六七 其火に燠まり居を見つらく 彼を視て曰
 けるハ爾もナザレのイエスと偕に在し 六八 ペテロ肯はずして曰けるハ我これを知す亦な
 んちと言さるの事を識得ざるなり斯て庭門に出ければ 鷄鳴ぬ 六九 その婢のれを見て
 傍に立る者に又いひけるハ此人もかの黨の一人なり 七十 ペテロまた肯はず少頃して傍
 に立る者またペテロに曰けるハ爾誠に彼の黨の一人なり蓋爾ハガリラヤの人あり其
 方言これに合り 七一 是に於てペテロ誓て我神の崇を受ることも爾曹が曰その人を我の識
 ざる也と曰しが 七二 此とき鷄二次鳴ければペテロイエスの 鷄 二 次なく前に三次
 我を識すと言んと言たまひし事を憶起し且これを思反して哭悲めり
 平旦に及び直に祭司の長長老學者たち凡の議員と共に議てイエスを撃り曳
 携てピラトに解せりニピラト彼に問けるハ爾ハエダヤ人の主なるやイエス答けるハ爾が言

る如し 三祭司の長 多端をもて彼を訟ふ 四ピラト復イエスに問て曰けるハ何も答ざる
 か 彼等が爾について證を立しこ幾何かり乎 五ピラトの奇を爲までイエス何も答ざ
 りき 六 諸この節筵にハ彼等が求に任せて一人の囚人を赦すの例なり 七時にバラバと云る者
 あり己と共に謀叛せし黨と同く繋れ居たりしが 彼等ハその謀叛のとき人を殺し者等
 なり人々聲を揚て呼り恒例の如せん事を求り 九ピラト彼等に答て曰けるハエダヤ人の
 王を爾曹に我が釋さん事を欲むや 十 是ピラト祭司の長等の嫉に因てイエスを解したりと知
 ばなり 十一 祭司の長民どもにバラバを釋さん事を求む 十二ピラトまた答て彼等に曰け
 るは然ばエダヤ人の王と爾曹が稱る者にハ何を我が處ん事をなんぢら欲むや 十三 彼等また
 叫びて之を十字架に釘よと曰 十四ピラト彼等に曰けるハ彼なんの惡事を行しや 彼等また
 ます叫びて之を十字架に釘よと曰 十五ピラト民の權びを取んとしてバラバを彼等に釋しイ
 エフを釋ちて之を十字架に釘ん爲に付せり 十六 兵卒等これを公廳に携ゆき 全營を呼集
 め 十七 彼に紫の袍をきせ棘にて冕を編て冠しめたり 十八 斯て曰けるハエダヤ人の王安
 かれ 十九 また蓋を以て其首を撃かつ 唾し 跪きて拜しぬ 二十 嘲弄し畢て 紫の衣をば
 き故の衣をきせて十字架に釘んさて曳往しが 二一 マレキサンデルシルフの父なるクレチの
 シモンと云るもの田間より來りて其處を經過りければ強て之にイエスの十字架を負せし
 り 二三 イエスをゴルゴタ譯ば即ち體體と云る所に携來り 二三 汲藥を酒に和て飲せんを爲
 りしに之を受ざりき 二四 イエスを十字架に釘しのうち誰か何を取んを拈てその衣服を分

てり三五朝の第九時にイエスを十字架に釘二六その罪標をユダヤ人の王と書つく二七二人の盜賊かれと共に一人は其右一人は其左に十字架に釘らる二八これ聖書に彼ハ罪人と共に算られたり云しに應り二九往來の者イエスを訴り首を擡て曰けるハ噫聖殿を毀て之を三日に建る者よ三十自己を救て十字架を下よ三一祭司の長學者等も同く嘲弄して互に曰けるハ人を救て自己を救ひ能す三二イスラエルの王キリストハ今十字架より下るべし然ば我儕見て之を信ぜん又ともに十字架に釘られたる者等も彼を訴れり三三第十二時より三時に至るまで偏く地のうへ暗なりぬ三四第三時にイエス大聲に呼りエリ、エリ、ラマサバクタニと曰これに譯ハ吾神わが神何ぞ我を遺たまふ乎と云るなり三五傍らに立たる者のうち或人これを聞て彼ハエリヤを呼なりと曰三六一人はしり往て海城をさり醋を潰せ之を萃に束て彼に飲しめ曰けるハ俟エリヤ來りて彼を救ふや否と云るむべし〇三七イエス大なる聲を發て氣絶三八殿の幔上より下まで裂く二と爲り三九イエスに對て立たる百夫の長かく呼り氣絶しを見て曰けるハ誠に此人ハ神の子なり〇四十また途に望むたる婦ありし其中に在し者ハマアダラのマリヤおよび年少ヤコブとヨセの母なるマリヤ又サロメなり四一彼等ハイエスのガリラヤに居たまひし時これに従ひ事し者等なり亦この他にも彼と共にエルサレムに上り多の婦ありき〇四二是日ハ備節日にて安息日の前の日なりし故四三日暮るるとき議員なるアリマタヤのヨセフと云る者きたれり此人ハ神の國を慕る者なり彼のよからずピラトに往てイエスの屍を求たり四四ピラトイエスの已に死るを奇み百

人の長を呼て彼ハ死てより時を経たるや否やを問四五百夫の長より聞て之をしり屍をヨセフに手ふ四六ヨセフ桌布を買求め而してイエスを取下し之をその桌布にて裹み磐に懸たる墓におき石を墓の門に轉し置り四七マアダラのマリヤ及ヨセフの母なるマリヤ其屍を葬し處を見たり

安息日過てマアダラのマリヤとヤコブの母なるマリヤ及サロメ香料を買

くのヘイエスに抹んきて來れり二七日の首の日いさ早く日の出る時かれら墓に來り三五に曰けるハ誰ハ我儕の爲に石を墓の門より轉し取もの有んか是の石はなほ巨大されば也四斯て彼等目を擧れば石の已に轉あるを見る五墓に入しに白衣をきたる少者の右の方に坐せるを見て駭き異めり六少者かれらに曰けるハ駭き異む勿れ爾曹ハ十字架に釘られしナザレのイエスを尋ね彼ハ甦りて此に居す彼を葬し處を觀よ七且ゆきて其弟子とペテロに告よ彼ハ爾曹に先ちてガリラヤに往り爾曹ハしこにて彼を見べし即ち其なんぢらに言しが如しハ彼等いで墓より奔れり且戰慄かつ駭き亦一言をも人に語ざりき是懼しが故なり〇九イエス七日の首の日よあけころ甦りて先マアダラのマリヤに現るにイエス彼より七の惡鬼を逐出せり十イエスと共に在し者の悲哀める時に此婦きたりて是等の事を告十一彼等イエスの活て此の婦に見え給ひしことを聞しが信ぜざりき十二此後これらの中二人の者郷村へ往けるが路を行ききイエス變たる貌にて彼等に現る十三この二人の者ゆきて他の弟子等に告げれども亦これを信ぜざりき〇十四又その後十一の弟子の

食しをる時に現れて彼等が信なき其心の頑さを責め給へり是れらイエスの魅り給
 るのち其を見し者の言さるるを信ぜざりし故なり十五 イエス彼等に曰けるハ徧く世界を廻
 て凡の人に福音を宣傳ふ十六 信じてバプテスマを受る者ハ救れ信ぜざる者ハ罪に定ら
 る也十七 信する者ハ左の如き奇跡未だ行ふべし我名に託て悪鬼を逐出し異邦の方言を
 いひ十八 また蛇を操へ毒を飲さずも害なく又手を病の者に按なば即ち愈ん十九 斯て主ハ彼
 等に語し乃ち天に擧られ神の右に坐しぬ二十 弟子たち徧く福音を宣傳ふ主も亦かれらに力
 を協せ其從ふ所の奇跡によりて道を堅うしたまへりアメン

新約全書馬可傳福音書終

新約全書路加傳福音書

我儕の中に驚く信ぜられたる事を始より親く見て道に役たる者のニ我儕に傳し如
 く記載入多の人々これを手に執る故に貴きテヨビロヨ三我も原より諸の事を詳細に
 考究たれば次第を爲て爾に書さく四 爾が教られし所の確實を曉せん欲り五 ヲダヤ
 の王ヘロデの時にアビアの班なる祭司ザカリア云る者あり其妻ハアロンの裔にて名をエ
 リサベツと云六 共に神の前にて義人あり凡て主の誠命と禮儀を虧さく行へり七 エリサベ
 ツ姪なきが故に彼等に子なし又二人とも年も老ぬ八 ザカリアその班次に値て神の前
 に祭司の職を行ふ時九 祭司の例に従ひ籤を抽て主の殿にいり香を焼くことを得十 香を焼け
 る時に衆の人々ハみる外に居て祈れり十一 主の使者香壇の右に立てザカリアに現れし
 かバ十二 ザカリア之を見て驚懼る十三 天使かれに曰けるハザカリアハ懼る勿れ爾の
 祈禱すでに聞たまへり爾の妻エリサベツ男子を生ん其名をヨハ子と名くべし十四 爾に喜
 ぶ樂あらん多の人も亦その生るるに因て悦び有ん十五 それ此子主の前に大ならん又爾節
 酒と濃酒を飲じ母の胎より生出て聖靈に充さる十六 又イスラエルの民の多の人を主な
 る其神に歸す可れ也十七 彼エリヤの心と才能を以て主の先に行ん是父の心に子を慈へせ
 逆れる者を義人の智に歸せ主の爲に新なる民を備んとなり十八 ザカリア天使に曰ける
 ハ我すでに年老妻もまた年進たれば何に因てか此事あるを知ん十九 天使こたへて曰け
 るハ我ハガブリエルとて神の前に立者あり爾に語てこの喜の音を告ん爲に遣されたれ

路加傳第一章

自一節至十九節

九十七

二十其時いたりて必ず成へき我が言を信ぜざるに因なんぢ瘡となりて此事の成日まで言
 ふこと能はじ二一民ザカリヤを俟めて其殿の内に久を異む二二ザカリヤ出て言ふこと能
 はざりしハ彼等その殿の内にて異象を見たる事を曉たりザカリヤ衆人に首を以て示し
 竟に瘡さるれり二三その職事の日経ければ家に歸りぬ二四此後その妻エリサベツ孕て臨
 産をりしこと五ヶ月にして二五曰けるハ主わが耻を人の中に灑せん爲に眷顧たまふ時ハ此の
 如く我に爲り〇二六此六ヶ月に當りガリラヤのナザレと名たる邑の二七ダビデの家ヨ
 セフと云る人の聘定せし所の處女に神よりガブリエルといふ天使を遣されたり其處女
 の名ハマリヤと云り二八天使この處女に來いひけるハ懐たし惠る者主なんぢと偕に在
 す爾ハ女の中にて福なる者あり二九處女その言を訝この間安ハ如何なる事ぞと思へり
 三十天使いひけるハマリヤハ懼るる勿れ爾ハ神より恵を得たり三一爾孕て男子を生ん其
 名をイエスと名べし三二かれ大なる者と爲て至上者の子と稱られん又主たる神その先祖
 ダビデ王の位を彼に預れば三三ヤコブの家を窮なく支配すべく且その國終ること有ざるべ
 し三四マリヤ天使に曰けるハ我いまだ夫に適ざるに何にして此事ある可や三五天使こたへ
 て曰けるハ聖靈なんぢに臨る至上者の大能なんぢを庇ん是故に爾ハ生さる所の聖なる
 者の神の子と稱らるべし三六爾の親戚エリサベツ彼も年老て男子を孕り素妊なき
 者と稱れたりしが今すでに孕て六ヶ月になりぬ三七蓋神に於て能ざる事なければ也三八マ
 リヤ曰けるハ我ハ是主の使女なり爾の言る如く我に應かし天使つひに彼を去り〇三九當時

マリア起て亟りに山地あるユダの邑に往四〇ザカリヤの家に入てエリサベツに問安したり
 し二四一エリサベツマリヤの問安を聞しかば其胎孕腹の内にて躁動たりエリサベツ聖靈
 に感され二四二大聲に叫ひひけるハ女の中にて爾ハ福なる者なり亦孕る所の者も福な
 り四三わが主の母われに來われ何に由てか此事を得し四四夫なんぢの間安の聲わが耳に入
 るとき胎孕するこびて我腹の中に躍り四五主の言を信ぜし者ハ福なり蓋主の語たまひ
 し如く必ず成べければ也四六マリヤ曰けるハ我心主を崇敬四七我靈わが救主なる
 神を喜ぶ四八是そ使女の卑微をも眷顧たまふ故なり今よりの萬世までも我を福
 なる者と稱べし四九それ權能を有たまへる者われに大なる事を成り其名ハ聖五十その精
 ハ世々かれを長る者及ばん五一其臂の力を發して心の躍る者を散し五二權柄ある者
 を位より下し卑賤者を擧五三飢たる者を美食に飽せ富る者を往く返らせ給ふ五四アブラ
 ハムと其子孫を窮なく憐むことを忘すして五五其僕イスラエルを扶持たまへり是われら
 の先祖に言たまひしが如なり五六マリヤエリサベツと居しこと三ヶ月ばかりにて己が家に
 歸たりき〇五七偕エリサベツ産期みちて男子を生り五八その隣里の者また親戚のもの主ガ
 エリサベツに大なる慈悲を垂たまひし事を聞て偕に喜べり五九第八日に及ければ彼等子に
 割禮せんさて來り其父の名に因ザカリヤと名んさせしに六十其母こたへて然す可らずヨハ
 子と名べしと曰ければ六一彼等エリサベツに對て曰けるハ爾ハ親戚の中にハ此名を名し者
 あり六二かれら遂に其父に頭にて示いかになんぞ欲問たるに六三ザカリヤ寫字板を請て

其名のヨハ子と書しるしよかバ皆奇めり六四ザカリアの口たごちに啓て舌さけ言ひて神を頌たり六五その隣りに住たる人々みな懼ぬ又すべて此事を徧くユダヤの山地に傳播されしかば六六聞もの皆これを心に藏て此子の如何なる者にか成んといひ曰り儲主の手かれと共に在

六七父ザカリヤ聖靈に感され預言して曰けるハ六八主なるイスラエルの神ハ讚美べき成これ其民を眷顧て贖を爲し六九我儕の爲に拯救の角を其僕ダビデの家に挺たまへバ也七十古より聖なる預言者の口を以て言たまひしが如し七一即ち我儕を敵また凡て我儕を惡む者の手より脱す救なり七二此ハ仁恵を我儕の先祖に施し又その聖約を忘じこ也七三是我儕の先祖アブラハムに立し所の誓にして七四我儕を敵の手より救ひ我儕の生涯を七五聖義に於て懼なく主に事しめん也七六嬰兒ハ爾ハ至上者の預言者ヲ稱られん蓋なんぢ先に先ちて行その路を備んさ爲ばなり七七神の深き矜恤に頼その罪を赦されて救れん事を其民に示さんため也七八その矜恤に頼て旭の光上より七九幽暗と死蔭に住る者を照し我儕の足を導きて平康なる路に至せんさて臨めり〇八十斯て嬰兒ハ漸成長し精神ますます強健にしてイスラエルに顯るこの日まで野に居り

當時天下の戶籍を查る詔命カイザルアウグストより出たり二この戶籍調査ハクレニオスリヤを管理し時の初次に行はれたりし也三人みな戶籍に登んさて各その故邑に歸たり四ヨセフもダビデの宗族また血統されバ戶籍に登んさて五已に孕る其聘定の妻マリヤと共にガリラヤの邑ナザレより出てユダヤに上リダビデの邑ベテレヘムといふ所に至

れり六此に居て産期満ければ七家子を生それを布に裹て槽に臥せたり此ハ客舎に彼等の居處をかりしが故をり〇八近傍に羊を牧もの有けるが野に居て夜間その群を守たりしに九主の天使きたりて主の榮光かれらを環照ければ牧者おほいに懼たり十天使これに曰けるハ懼るこ勿れわれ萬民に關りたる大なる喜の音を爾曹に告べし十一それ今日ダビデの邑に於て爾曹の爲に救主うまれ給へり是主たるキリストあり十二爾曹布にて裹し嬰兒の槽に臥たるを見ん是其徴あり十三條ち衆の天軍あらはれ天使と共に神を讚美て曰けるハ十四天上さころに榮光神にあれ地に平安人に恩澤あれ十五天使等かれらを離て天に行ければ羊を牧もの互に曰けるハ幸々テレヘムにゆき主の示し給へる其有し事を見んさて十六急ぎ至りマリヤヨセフまた槽に臥たる嬰兒に尋遇り十七既に見て此子につき天使の語し事を傳播ければ十八聞者みな羊を牧者の語る事を奇みたり十九マリヤハ凡て是等の言を心に記て思想しぬ二十羊を牧者その見聞せる所みま己に語し所の如あるにより神を崇めつ讚美て返れり〇二一子に對禮を行ふべき八日の日にたりければ其いまだ胎に寓ざる先に天の使者の稱し如く名をイエスと稱たり〇二三モーセの律法に循ひて潔の日滿ければ嬰兒を携て主に獻んが爲エルサレムに上れり二三是主の例に初に生る男子ハ主の聖者ヲ稱べしと録されたるが如し二四また主の律法に斑鳩一雙あるひハ雛鳥一二を獻ふべしと語るに循ひて祭を行ん爲あり〇二五僭エルサレムにシメオンと云る人あり斯人の義かつ敬ありてイスラエルの民の慰められん事を俟る者

あり聖靈その上に臨り二六また主のキリストを見ざる間へ死じと聖靈にて示さるニせかれ
 聖靈に感じて神殿に入り兩親その子イエスを律法の例に循ひて行へんを携來りしに二八
 シメオン 嬰兒を抱き神を讚美いひけるハ二九主よ今その言に従ひて僕を安然に世を去せ
 給ふ三十 我目すでに萬民の前に設たまひし救を見たり三一これ異邦人を照さん光なり 三二
 また爾の民イスラエルの榮なり三三その父母ハ聖子に就て語る事を奇なれり 三四又シメ
 オン彼等を祝て其母マリヤに曰けるハ此嬰兒ハイスラエルの冬の人の顔て且興らん事さ
 りハ三五六 聖靈に立らる 三五これ衆の心の念の露れんが爲なり又 歎なんぢが心を
 も刺透べし〇三六アセルの支派パヌエルの女にアンリと云る預言者あり彼の甚老邁なり
 其處女なりしとき夫に適て七年さもに居たり三七この老女ハ齡ちほよそ八十四歳の姿な
 りしが殿を離す夜も晝も斷食を斷斷を爲て神に事ふ 三八此時この老女も側にて主を讚
 美し亦エルサレムにて 彌を望る凡の人に此子の事を語れり〇三九主の律法に循ひて悉
 く意ければガリラヤの己が邑ナザレに歸たり 四十其子や成 長して精神強健に知慧み
 ち神の恩寵その上に臨り〇四一偕その兩親毎年逾越の節筵にエルサレムに往しが 四二
 彼の十二歳の時また節筵の例に循ひエルサレムに上れり 四三節筵の日卒て返 往けるに其
 子イエスエルサレムに留りぬ然るにヨセフと母これを知らず 四四同行人の中に在ならん意
 ひ一日程を行て親戚知音の者に尋しが 四五過ぎりければ彼を尋てエルサレムに返り 四六三
 日ののち殿にて遇かれ教師の中に坐し且纏かつ問ふたり 四七聞者も其知慧と其應對を

奇しき事なり 四八兩親これを見て駭き母かれに曰けるハ子よ何ぞ我儕に如此行たるや爾の父と
 われら愛て爾を尋たり 四九イエス答けるハ何故われを尋るや我は我父の事を務べきを
 さる乎五十 然ど兩親ハ其語る事を曉す 五一イエスこれと共に下りナザレに歸て彼等に順
 ひ居り其母これらの凡の事を心に藏ぬ 五二イエス知慧も齡も彌増り神と人に益愛せら
 れたり

四九

テベリオカイザル在位の十五年ボンテオピラトハエダヤの方伯とありヘロデハガ
 リラヤの分封の君と爲り其兄弟ピリポハイツリア及テラコニテの地の分封の君とな

五〇

アの子ヨハ子野に居て神の命令を受三ヨルダンの邊なる四方の地に來り罪の救を得させ

五一

人の聲あり云く主の道を備その徑を直せよ 五諸の谷ハ埋られ諸の山崗ハ夷られ屈曲た

五二

るハ直く崎嶇ハ易せられ 六人々みな神の救を見こを得んと有が如し七茲にバプテスマを

五三

受んさて來れる衆人にヨハ子曰けるハ嗚呼 蠅蛇の裔よ誰が爾曹に來らんとする怒を避べき

五四

事を告しヤ八然ハ悔改に符る果を結べし爾曹心に我儕が先祖にアブラハム有と意こ

五五

故に凡て善果を結ざる樹ハ伐れて火に投入らる也 十衆人ヨハ子に問て曰けるハ然ハ我

五六

儕何を爲べき乎十一答て曰けるハ二の衣服を有る者ハ有ぬ者に分與よ 食物を有る者も

亦然すべし十二税吏もバプテスマを受んとて來り曰けるハ師よ我等ハ何を爲すべきか十三
 答て曰けるハ定例の税銀の外に多く取ること勿れ十四兵卒も亦問て曰けるハ我儕ハ何を爲す
 きや答て曰けるハ人を強暴し或ハ誣訴することを爲なかれ得ざるの給料を以て足りざる
 べし十五民懐望し時なれば衆人みな心にヨハ子をキリストなるや否と付度たりしに
 十六ヨハ子之に答ひひけるハ我ハ水を以てバプテスマを爾曹に施へり我より能力ある者き
 たらん我ハ其履帯を解にも足す彼ハ聖靈と火を以てバプテスマを爾曹に施らん十七手
 端を以て勸をなし福音を民に宣傳たり十九さて分封の君なるヘロデその兄弟ピリポの
 妻ヘロデヤの事および行ふ所の凡の悪事をヨハ子に責られければ二十猶も悪事を加
 へヨハ子を獄に囚たり二一民みなバプテスマを受けるにイエスも亦バプテスマを受けて祈る
 とき天ひらけ二三聖靈鴿の如き狀にて其上に降ぬ又天より聲あり云んちハ我愛子わが
 喜ぶ所の者なり○二三時にイエス年おほよそ三十にして福音を宣始む人々にヨセフの子と
 意れ給へりヨセフの父ハヘリ二四其父ハマツタテ其父ハレビ其父ハメルキ其父ハヤンナ其
 父ハヨセフ二五其父ハマタテヤ其父ハアモス其父ハナオム其父ハエスリ其父ハナムガイ二六
 其父ハマアツ其父ハマタテヤ其父ハセメイ其父ハヨセフ其父ハユダ二七其父ハヨハンナ其
 父ハレサ其父ハゼルバベル其父ハシアテル其父ハ子リ二八其父ハメルキ其父ハアツテ其父
 ハコサム其父ハエルモダム其父ハエル二九其父ハヨセ其父ハエリエゼル其父ハヨオレム其

父ハマツタテ其父ハレビ三十其父ハシメオン其父ハユダ其父ハヨセフ其父ハヨナン其父ハ
 エリアキム三一其父ハメラア其父ハマイナン其父ハマツタテ其父ハナタン其父ハダビデ
 三二其父ハエツサイ其父ハオベテ其父ハボアズ其父ハサルモン其父ハナアソン三三其父ハ
 アミナダブ其父ハアラム其父ハエスロン其父ハパレス其父ハユダ三四其父ハヤコブ其父ハ
 イサク其父ハアブラハム其父ハテラ其父ハナコル三五其父ハサルク其父ハラカチ其父ハバ
 レク其父ハヘベル其父ハサラ三六其父ハカイナン其父ハアバザテ其父ハセム其父ハノア其
 父ハラメク三七其父ハマトサラ其父ハエノク其父ハヤレド其父ハマレレエル其父ハカイナ
 ン其父ハエノス其父ハセツ其父ハアダムアダムハ即ち神の子なり
 試らる此諸日なにも食す四十日畢てのち餓たり三惡魔かれに曰けるハ爾もし神の子
 ならば此石に命じてパンを爲せよ四イエス答けるハ人のパンのみにて生る者に非ず唯神
 の凡の言に由る録されたり五惡魔また彼を高山に携ゆき一瞬間に天下の萬國を示して
 六曰けるハ此すべての權威を榮華を爾に予ん我これを委任たれば我が欲む者に之を予ふ
 べし七故に若わが前に拜跪す悉く爾の屬ならん八イエス答けるハサタンよ我後に
 退け獨主たる爾の神に拜跪これにのみ事べしと録されたり九惡魔またイエスをエルサレム
 に携ゆき聖殿の頂に立て曰けるハ爾もし神の子あらば此より己が身を投ふ十そは神その
 使者等に命じて爾を護せん十一爾が足の石に觸ざるやう彼等手にて扶へしと録さる十二イ

エス答けるハ主たる爾の神を試む可らず云ふけり十三惡魔この誘試みも畢て暫く
 彼を離たり十四イエス聖靈の能を以てガリラヤに歸しに其聲名あまねく四方の地に廣がり
 ぬ十五斯て彼等が會堂にて教を爲すべての人々に榮を得たり○十六その長育し所なるナ
 ザレに來り常例の如く安息日に會堂に入て聖書を讀んさて立ければ十七預言者イザヤの
 書を予しにイエス其書を展て斯讀れたる所を見出せり十八主の靈われに在す故に貧
 者に福音を宣傳入事を我に膏を沃て任じ心の傷る者を醫し又囚人に釋入事を醫者に見
 させん事を示し又壓制らるる者を縱ち十九主の禮年を宣播んが爲に我を遣せり
 二十イエス書を捲その役者に予て坐しければ會堂に在者みな目を注て視みせり二一イ
 エス彼等に曰けるハ此録れたる事の今日あんぢらの前に應り二三衆われを稱讚その口よ
 り出る所の恩惠の言を奇み曰けるハ此ハヨセフの子に非や二四イエス彼等に曰けるハ爾曹
 かあらず我に諺を引て醫者みづからを醫せ我儕が聞し所のカペナワンにて行し事を自己
 の家郷なる此土にも行べし云二四また曰けるハ我まことに爾曹に告ん預言者その家
 郷にてハ敬重るる者に非す二五われ誠を以て爾曹に告んエリヤの時三年と六ヶ月天さぢ
 て漏地もほいなる饑饉なりし其時イスラエルの中に多の饑ありしか二六エリヤハ其
 一人へだに遣されず只シドンなるサレパタの一人の整に遣されたり二七また預言者エリシ
 ヤの時にイスラエルの中に多くの瘡者ありしハ其一人だに潔られず惟スリヤのナ
 マンのみ潔られたり二八會堂に在し者これを聞て大に憤ほり二九起てイエスを邑の外に

出し投下さんさて其邑の建たる山の崖にまで曳往り三十然にイエス彼等の中を徑行て去り
 三二ガリラヤのカペナワンと云る邑に至りて安息日ごに衆人を教しに三三その言權威
 有ければ衆人その教に驚けり○三三會堂に汚たる鬼の靈に憑れたる人あり大聲に喊叫い
 ひけるハ三四噫ナザレのイエスよ我儕なんぢさ何の與あらんや爾きたりて我儕を喪すい
 われ我なんぢ誰なる乎を知らずなれ神の聖なる者なり三五イエス之を責て曰けるハ聲を出
 すこと勿れ其處を出よ惡鬼つひに其人を衆の中に仆し傷すして出三六衆人みな驚き互
 に語いひけるハ權威と能力を有て汚たる鬼に命ぜしかば出去り是いかなる道ぞや三七是
 に於てイエスの聲名徧く此四方の地に揚りぬ○三八イエス會堂を出てシモンの家
 入しにシモンの妻母ももき熱病を患ひ居たりき三九衆人之が爲にイエスに求ければ其
 傍に立て熱を斥しに熱退けり婦直に起て彼等に事たり四十日の入さき各様の病を
 患たる者をもてる人々皆其をイエスに携來ければ一々其上に手を按て醫せり四一
 惡鬼も亦多の人々を出さり喊叫て爾ハ神の子キリスト也と云り然に之を斥て言ふと
 を容ざりき惡鬼其キリストなるを議べ也四二明旦イエス出て人なき處に往ければ衆
 人尋來て其離去を止む四三イエス曰けるハ我又他の鄉村にも神の福音を
 宣傳さるを得ず蓋我之が爲に遣さるれば也四四斯てガリラヤの諸會堂にて道を宣傳
 たり



衆人神の道を聽んさて擠擁ける時イエスゲサレの湖の濱に立て二機に二艘

の舟あるを見る漁の者舟を離て網を洗をれり三其一艘ハシモン舟なりしがイエス之にのり請て岸より少許はなれ坐して舟中より衆人を教ふ四教竟てシモンに曰けるハ澳へいで網を下して漁れ五シモン答けるハ師よわれら終夜はたらきしかど所得なかりき然爾の言に従ひて網を下さん六既に下して魚を圍るこ甚だ多く網さけかりければ七いま一艘なる舟の侶を招きて來り助しめしに彼等が來し時其魚二艘の舟に切て沈んばかりなりしハシモンペテロ之を見てイエスの足下に俯て主よ我を離たまへ我ハ罪人なりと曰り九是シモンおよび儲に在し者みな漁し所の魚の夥しきに驚ける也十シモンの侶なるセベダイの子ヤコブとヨハ子も亦然りイエスシモンに曰けるハ懼るる勿れなんぢ今より人を獲べし十一彼等舟を岸に寄あき一切を捨てイエスに従へり十二イエスある邑に居しとき身こく癩病を患る者ありイエスを見て俯伏れがひ曰けるハ主よし聖旨にかなふとき我を潔なし得べし十三イエス手を伸彼に按て我心にかなへり潔なれと曰ければ直に癩病愈たり十四イエス彼を戒めて曰けるハ人に告るこ勿れたと往て己を祭司に示かつ潔られし爲にモーセが命ぜし如く獻物ををし證據を彼等に爲よ十五然もイエスの聲名ますく揚りて許多の人々或ハ教を聽んとし或ハ病を醫れんとて集り來れり十六イエス常に人あき處に退きて祈り給ひき十七一日イエス教を爲せる時パリサイの人と教師ガリラヤの諸郷エダヤエルサレムより來て此に坐しぬ彼等の病を醫すべき主の能顯へれたり十八或人癩病を患たる者を牀に載て昇來り之を家に入イエス

の前に置んご欲ごも十九群集にて昇入べき方なりければ屋上に升り瓦を取除て其人を牀のまゝ衆人の中へ下しイエスの前に置り二十イエスその信あるを見て患者に人々爾の罪赦さるご曰ければ二一學者とパリサイの人々心に思出けるは此演ごを言者ハ誰ぞ神より外に誰か罪を赦すごを得ん三二イエスその意を知て答ひひけるハ何を爾曹心中に論するや三三爾の罪赦さるごいふご起て行ご言ご執り易き二四それ人の子地にて罪をゆるすの權威あるごを爾曹に知せんごて遂に癩瘋の人に我あんぢに告あきて牀をさり家に歸れご曰ければ二五その人衆の前にて直に起て臥居たる牀をさり神を崇て己が家に歸ぬ二六衆人みも該きて神を崇つ大に畏懼て曰けるハ我儕今日奇異なる事を見たり

○二七此後イエス出てレビと云る税吏の税關に坐し居けるを見て我に従へご曰ければ二八レビ一切を捨て起て從へり二九レビ己の家にてイエスの爲に豊盛なる筵を設しに税吏また他の人々も共に筵に坐したる者多かりければ三十其所の學者とパリサイの人イエスの弟子に怨言曰けるハ爾曹税吏また罪ある人々と共に食飲するハ何故ぞ三十一イエス答て曰けるハ康強ある者ハ醫者の助を需す惟病ある者これを需む三二わが來るハ義人を召く爲に非ず罪ある人を召て悔改させんが爲なり三三彼等イエスに曰けるハヨハ子の弟子は屢斷食また祈禱をなすパリサイの弟子も亦然り然るに爾の弟子飲んご食んごを爲すハ何故ぞ三四イエス曰けるハ新郎の朋友その新郎と一處に居間ハ之に斷食なごしむる事を得んや三五將來新郎と別るる日いたらん其日にハ斷食すべきなり

三、**醫を以て曰けるハ新** 衣を裁取て舊衣を 補ふ者ありし若然せば新衣をも壞ひ且 新より取たる布の舊ものと合す 三七また新酒を舊革袋に盛る者ありし若しかせば新酒ハ其袋をばりさき漏出ハハ革袋も壞るべし 三八新酒ハ新革袋に盛るべき者ぞ斯てこそ 兩者から存なれ 三九舊酒を飲て立刻に新酒を欲者ハ有じ是醫ハ尤も好まざるなり

逾越節の二日のち首の安息日イエス夢の畑を徑行しに其弟子夢の畑を耕しこれを手にて擲くらひしかば二或ハリサイの人かれらに曰けるハ爾曹安息日に行まじき事を爲すハ何故ぞ三イエス答て曰けるハダビデあよび從に在し者の饑しき行たる事を未だ讀ざる乎 四即ち神の殿に入たると祭司の外ハ食まじき供物のパンを取て食かつ從に在し者にも予たり 五又曰けるハ人の子ハ安息日にも主たる也 六また一の安息日にイエス會堂に入て教ふ此に右の手拮たる人ありければ七學者とハリサイの人イエスこれを安息日に醫ならんかぞ殺ひぬ蓋かれを訴んぞ欲ばなりハイエスその意を知て手なへたる人に起て中に立まよと曰ければ其人あきて立り 九イエス曰けるハ我なんぢらに問ん安息日に善を行さ惡を行さ又生を救るさ殺さ孰を行べき 十途に衆人を環視て其人に手を伸よと曰ければ彼その如せしに手すなりち愈て他の手の如くなれり 十一彼等大に怒て如何にイエスを處んぞ互に議あへり 十二當時イエス祈禱の爲に山に往て終夜神に祈れり 十三夜明てイエス弟子を呼その中より十二人を選て之を使徒と稱く 十四即ちハテロと名給ひしシモン

ソその兄弟アンテレ及ヤコブとヨハネピリポとバルトロマイ 十五マタイとトマスアルバイの子なるヤコブとセロテと云るシモン 十六ヤコブの兄弟のユダとイスカリヤテのユダなり此ユダハイエスを賣たる者あり 十七イエスは是等と共に下て平かなる地に立しに許多の弟子と夥しき人々ユダヤの四方またエルサレム及ツロシドンの海邊より來集りて或ハ其教を聽んぞ或ハ病を醫されん事を冀へり 十八又惡鬼に難されたる者あり或ハ醫されたり 十九衆みなイエスに押らんぞせり是能力の其身より出て彼等を威く醫せり也 二十イエス目を擧弟子を見て曰けるハ爾曹貧者ハ 福なり神の國は即ち爾曹の所有なれば也 二一爾曹いま饑たる者ハ 福なり飽くことを得べければなり爾曹いま哭者ハ 福なり笑くことを得べければ也 二三其日にハ欣び踊れ爾曹天に於て賞賜大なるが哀み哭んぞ爲ばなり 二六凡の人なんぢらに醫なば爾曹 福なる哉その先祖の偽樂を受べなり 二五爾曹飽者ハ 福なるかな餓んぞすればなり爾曹いま笑者ハ 福なる哉その先祖の偽善し 二八詛者を祝し虚過者の爲に祈禱せよ 二九人なんぢの頬の右方を撃ば亦左方の頬を向ふ爾の外服を奪ば裏衣をも奪され 三十凡て爾に求ば之に與へ爾の物を奪ば其をまた索る勿れ 三一己人に施れんぞする事ハ亦人にも其如く施よ 三三己を愛する者を愛するハ何

の賞賜あらんや悪人にて己を愛する者へ愛する也 三三 己に善を行者に善を行何の賞賜
 あらんや悪人もまた是の如く行なり 三四 爾曹償る事を得んさもふ人に借何の賞賜
 あらんや悪人も其ごく償を得んさて亦悪人に借なり 三五 爾曹仇を愛し又善をなし何
 をも望すして借與ふ然其賞賜大なり且至上者の子と爲ん夫上者の恩を忘る
 る者及び不善者にまで慈愛を施せば也 三六 是故に爾曹の父の憐憫の如く亦憐憫を爲べ
 し三七 人を議するこも勿れ然爾曹も議せられず人を罪するこも勿れ然爾曹も罪せられ
 ず人を恕せ然爾曹も恕さるべし三八 人に與ふ然爾曹も予らるべし彼等眞を喜して搖
 いれ撼いれ溢るゝ迄にして爾曹の懐に納ん爾曹量る所の其量にて亦人に量るべし〇
 三九 また譬を彼等に曰けるハ譬ハ譬の相者をあし得るや相共に溝壑に陥らざらん乎 四十 弟
 子ハ其師に 諭す凡そ全備ある者ハ其師の如なるべし 四一 なんぢ兄弟の目にある物屑を
 見て己の目にある梁木を知ざるハ何ぞや 四二 如何で己の目にある梁木を見ずして兄弟に
 對ひ兄弟よ爾の目にある屑物を我に取せよと云こを得んや偽善者よ先ちのれの日よ
 り梁木をされ然ば兄弟の目にある物屑を取こ明かに見べし 四三 それ惡果を結ハ善樹に
 非ず又善果を結ハ惡樹に非ず 四四 凡の樹ハその果に因て識る荆棘より無花果を採ず亦蒺
 藜より葡萄を採じ 四五 善人の心の善庫より善を出し惡人の心の惡庫より惡を出す蓋心
 に充るより口に語る也 四六 爾曹わが言こを行ハすして何ぞ我を主よと稱るや 四七
 凡て我に就り我言を聞て行者を譬て爾曹に示さん 四八 其人の家を建るに土を深

く堀て基礎を磐上に置くが如し洪水のとき横流その家を衝きも動すこ能す是基礎を磐上に置けりなり四九聽て行へざる者ハ基礎なく家を土の上に建たる人の如し横流これを衝き其家たぐちに傾れ其根覆また基たし

イエス此すべての言を民に教畢てカペナウンに入しに二ある百夫の長その愛する僕やみて死ばかりなりければ三イエスの事を聞エダヤの長老等を遣して來り僕を助け給んことを求め彼等イエスに就り切に勸ひけるハ此事を求人ハ善人なり四我民を愛し我儕の爲に會堂を建たり六イエス彼等と共に往て既や其家に近けるとき百夫の長朋友を遣して曰せけるハ主よ自己を勞動し勿れ我が家裏に入奉るハ憐多し七故に我なんちの前に出も亦憐あり第一言を發たまハ我僕ハ愈んハ蓋われ人の權威の下に屬る者なるに我下に亦兵卒ありて此に往命を往かれに來命を來る我僕に之を行命が即ち行が故あり九イエス聞て之を奇み從へる人々を顯て曰けるハ我なんちらに告んイスラエルの中にも未だ斯る篤信に遇ざりき十遣されたる者家に歸て病たりし僕を見が已に全快をなせり〇十一翌日イエスナインと云る邑に往けるに許多の弟子および許多の人々も共に往り十二邑の門に近づきとき昇出さるる死人あり其母ハ隣にて此ハ獨の子なり邑の人々多これに伴ふ十三主鑿を見て憫み哭なかれと曰て十四近より其轎に手を按ければ昇る者ども止れりイエス曰けるハ少者よ我なんちに命おきよ十五死たる者起て且言ひ始むイエス之を其母に予せり十六衆人みな懼て神を崇いひける

大なる預言者われらの中に興る神その民を眷顧たまへり七イエスの此聲名エダヤの全
 國また徧く四方に揚りぬ○十八ヨハ子の弟子すべて是等の事を彼に告げれば十九ヨハ子二
 人の弟子を召て言遣しけるハ来るべき者ハ爾なるカ亦われら他に俟べき乎二十その二人
 イエスに來り曰けるハバプテスマのヨハ子我儕を爾に遣して言しむ來るべき者ハ爾なる
 カ亦われら他に俟べき乎二十一此時イエス多の疾あるハ病および惡鬼に憑たる者を醫し
 且おほくの譬に見ることを賜たり三三イエス彼等に答曰けるハ爾曹が見ざる處に聞ざる
 處ヨハ子に往て告夫督者ハ見跛者ハ行み癩者ハ潔り聾者ハきく死し者ハ復活さ
 れ貧者ハ福音を聞せらる二三凡そ我爲に隨がざる者ハ福なり二四ヨハ子の使者さり
 し後イエスヨハ子の事を衆人に曰けるハ何を見んさて野に出しや風に動さるる草ある
 乎三五然バ爾曹なに見んさて出しや美服を衣たる人あるカ文繡を衣て奢る者
 ハ王の宮に在二六然バ何を見んさて出しや預言者なるカ然われ爾曹に告ん是預言者よりも
 卓越たる者あり二七それ爾に先ちて道を備る我使者を爾の前に遣んと縁されたるハ即ち此
 事あり二八我さんぢらに告ん婦の生る者のうち未だバプテスマのヨハ子より大なる預言者
 ハ無されシ神の國の至微者も彼より大なる也二九ヨハ子に聞る庶民また稅吏ハ其
 バプテスマを受て神を義とせり三〇パリサイの人また教師ハ其バプテスマを受ず自ら
 暴いて神の旨に背たり三一然バ此世の人々を何に比へ又何に譬んや三二童子市に坐し互に
 呼て我儕俯ふげども爾曹踊す悲歌をすれども爾曹哭す云に似たり三三蓋バプテスマの

ヨハ子來りてパンをも食す酒をも飲されバ惡鬼に憑たる者あり二爾曹いへり三四人の子き
 たりて食ふ事をし飲んことを爲バまた食を嗜み酒を好の人稅吏罪ある人の友あり二爾曹
 いへり三五然シ智慧ハ智慧の子に義と爲らる○三六或パリサイの人イエスを請て共に食せ
 ん事を願けれバイエスパリサイの人の家に入て食に就り三七邑の中に惡行を爲る婦ありけ
 るカイエスがパリサイの人の家に坐せるを知て蠟石の盒に香膏を携來り三八イエスの
 後にたち足下に哭き涙にて其足を濡し首の髪をもて之を拭かつ其足に口を接また香膏
 を之に抹り三九イエスを請たるパリサイの人これを見て心の中に謂けるハ此人もし預言者
 ならバ押し者の誰なる乎又如何ある婦ある乎を知ん此婦ハ惡行を爲る者あり四〇イエ
 ス之に答て曰けるハシモン我さんぢに言事あり答けるハ師よ言たまへ四一イエス曰けるハ
 或債主に二人の負債人ありて一人ハ金五百一人ハ五十を貸しに四二債方あかりけ
 れバ債主この二人を免たり然バ二人の者その債主を愛すること孰カ多キ我に聞せよ四三シ
 モン答けるハ我ももふに免る事多キ者ならんイエス曰けるハ爾が意こころ違ざる
 也四四遂に婦を顧みてシモンに曰けるハ此婦を見カ我さんぢの家に入に爾ハ我足に水
 を給す此婦ハ涙にて我足を濡し首の髪をもて拭り四五爾ハ我に口を接す此婦ハ我こ
 こに入し時より我足に口を接て已す四六爾ハ我首に膏を抹す此婦ハ我足に香膏
 を抹り四七是故に我さんぢに言ん此婦の多の罪ハ赦れたり之に因て其愛も亦多なり故
 るこそ少キ者ハ其愛も亦少し四八是に於て其婦に曰けるハ爾の罪赦さる四九同に

坐せる者ども心の中に謂けるは是人は何人なれば罪をも赦す乎 五十 イエス 婦に曰ける
ハ爾の信爾を救り安然にして往

此後イエス郷邑を周遊て神の國の福音を宣傳ふ十二の弟子も偕に從ひぬ 二また
前に惡鬼を患たりし者病を痊れたる 婦等も從ひたり即ち七の惡鬼を逐出れたる マグ

ダラと稱マリア 三又ヘロデの家令クレーザの妻ヨハンナ又スザンナ此は多の婦ありて皆
その所有を以てイエスに供事たりき 四衆の人々 諸邑より出てイエスの所に集りければ

警をもて曰り 五種まく者種を播んきて出ぬ播るとき路 旁に遺し種あり踐踏られ且天空の
鳥これを食へり六また石上に遺し種あり萌出て稿たり是 潤なきが故あり 七また棘の中

に遺し種あり棘も同に生長て之を蔽り八また沃壤に遺し種あり生出て實を結べる 九百
倍せり是を言 畢て呼びけるハ耳ありて聽ゆる者ハ聽べし 九其弟子さふて曰けるハ是いか

なる譬ぞ 十答けるハ神の國の奧義を爾曹にハ知こそを賜也他の者にハ譬を以てす此ハ視て
も見ず聽ても悟ざる爲なり 十一夫この譬の釋種ハ神の道なり 十二路の旁に遺しハ聽し後

惡魔の爲に其心より道を奪る者なり彼ハ人の信じて救れんことを恐る 十三石上に遺
しハ聽き喜びて道を受けざるも根なければ信すること暫のみ患難に遇時ハ道に背く者なり

十四 棘の中に遺しハ聽て往この世の諸 慮貨財と宴樂とに蔽れて實ざる者なり 十五沃壤
に遺しハ正かつ善心にて道を聽これを守り忍て實を結ぶ者なり 十六燈を燃し器に

て之を覆ひ或ハ床下にもく者をし入來る者の其光を見ん爲に臺の上に置べし 十七 隠て

現れざる者あく藏て知れず露 出ざる者なし 十八 是故に爾曹聽ことを慎め有る者ハなほ予

られ無有者ハ有り意ふ所の物をも奪るべし 十九 此時イエスの母と兄弟きたりければ
群集に因て近くこそ能ざりしかバ 二十 或人これをイエスに告て曰けるハ爾が母と兄弟な

んぢに遇んきて外に立りニイエス 答て曰けるハ神の道を聽て之を行ふ者ハ乃ち我母わ
が兄弟なり 〇 二二 一日イエス弟子と共に舟に登て彼等に湖の前岸へ渡べしと曰ければ

即ち漕出せり 二三 舟の走る時イエス寝たり 風 湖に吹下し舟に水滿んとして危かりし
がバ 二四 弟子きたりてイエスを醒し曰けるハ師よ師よ我儕亡なんぞすイエス起て風と浪

を斥めければ止て平穩にありぬ 二五 イエス曰けるハ爾曹の信何所に在や彼等 駭き且
奇みて互に曰けるハ此ハ何人あるぞや風と水とに命ぜしかバ 亦 順へり 二六 斯てかりラヤ

に對るガダラ人の地に着て 二七 岸に登し時ある一人邑より出てイエスに遇この者ハ久く惡
鬼に憑れ衣をきす家に住す惟塚にのみ居たりき 二八 イエスを見て喊叫その前に俯伏し大

聲に呼びけるハ至上神の子イエスよ我なんぢと何の與あらんや 爾に 求我を苦む
ると勿れ 二九 此惡鬼に人より出よイエスが命じたるに因てあり彼の憑れたる事すでに久

し鍵また桎梏にて繫 守ごも其を打碎き惡鬼の爲に野に逐ぬ 三十 イエス之に問て曰けるハ
爾が名ハ何と稱や 答けるハ レギオン 是あほくの惡鬼の入たるが故あり 三一 惡鬼イエスに求

けるハ命じて底なき所に往しむる勿れ 三二 此に多の豕の羣山に草を食わたりしが彼等その
豕に入んことを許せと求ければ之を許せり 三三 惡鬼その人より出て豕に入しかバ其群はげ

路加傳第八章

自十八節至卅三節

百十七

しと下り山坡より湖に落て溺る 三四 牧者ども其有し事を見て逃ゆき之を邑また諸村に告たり五三 衆人その有し事を見んきて出てイエスの所に來れば惡鬼の離れし人衣を着たしがある心にてイエスの足下に坐せるを見て懼あへり 三六 惡鬼に憑れたりし人の救れし状を見たる者この事を彼等に告ければ三七 ガダラ四方の多の衆庶イエスに此を去んことを求り是 大に懼しが故ありイエス舟に登て返ぬ 三八 惡鬼の離たる人イエスと共に居んことを求けるにイエス之を去しめて 三九 家にかへり神の爾に行し大なる事を人に告よと曰ければ遂に去てイエスの已に行たまひし大なる事を遍邑に傳たり 〇 四十一 イエス 返たるさき衆人みを待望て之を喜び接ふ 四二 ヤイロ云る人あり此の會堂の宰をり年をほよそ十二歳ある一人の女ありて瀕死ありければ來イエスの足下に伏て我家に來り給んことを求りイエスの往き衆人これに擁あへり 四三 婦あり十二年血漏を患ひ醫者の爲に其業を盡く耗しければ誰にも痊れ得ざりしが 四四 イエスの後に來て其衣の裾に押ければ直に血の漏と止め 四五 イエス曰ける我に押る者誰ぞや衆人のみも特に押れる者あしと曰りペテロあよび偕に在者ども曰ける師よ衆人あんに擁擠せまるに我に押る者誰ぞと曰たまふ乎 四六 イエス曰ける我に押る者あり能力の我身より出るを覺れば也 四七 その婦みづから隠せぬを知をのき來て前に伏さへりし故と其たち愈たるを衆人の前に告 四八 イエス曰ける女よ心安かれ爾の信あんちを救へり安然にして往 四九 かく言る時に會堂の宰の家より人きたりて宰に曰ける爾が女はや死たり師を勞はす勿れ 五十

イエス之をきき答て宰に曰ける懼る勿た信せよ女の痊へし 五一 イエス家に入にペテロロヤコブヨハ子あよび女の父母の外たれにも偕に入を許さりりき 五二 衆人みな女の爲に悲哀しり 五三 イエス曰ける我に押る者あり能力の我身より出るを覺れば也 四七 その婦みづから隠せぬを知をのき來て前に伏さへりし故と其たち愈たるを衆人の前に告 四八 イエス曰ける女よ心安かれ爾の信あんちを救へり安然にして往 四九 かく言る時に會堂の宰の家より人きたりて宰に曰ける爾が女はや死たり師を勞はす勿れ 五十

路加傳第九章 自五十一節至九章十二節 百十九

路加傳第九章 自五十一節至九章十二節 百十九

路加傳第九章 自五十一節至九章十二節 百十九

事を爲たまへ十三イエス曰けるハ爾曹これに食を予へよ答けるハ我儕たゞ五のパンと二の魚ある耳この許多の人の爲に往て買に非されば別に食物のなし十四此に居し男もほよそ五千人ありきイエス弟子に曰けるハ衆人を五十人づゝ列へ坐せしめよ十五弟子その如く行て彼等をみま坐せしめたり十六イエス五のパンと二の魚をとり天を仰ぎ祝して之をわり弟子に予て衆の前に陳しむ十七みま食飽て餘の屑を十二の筐に拾たり十八イエス衆の在ざりしとき祈禱したりしが弟子も偕に居りイエス之に問て曰けるハ衆人は我を言て誰と爲か十九答て曰けるハバプテスマのヨハ子或ハエリヤ或ハ古の預言者の一人の甦れる也二十イエス曰けるハ爾曹我を言て誰と爲かバテロ答けるハ神のキリストあり

二一イエス彼等を戒て此事を何人にも告る勿れと命じたり二三又曰けるハ人の子かあらす多の苦を受て長老祭司の長學者にも告る勿れ且殺され第三日に甦るべし二三又イエス衆人に曰けるハ若われに従はんご欲ふ者ハ己に克て日々その十字架を負て我に従へ

二四その生命を保全せんご欲者ハ之を喪ひ我ために生命を喪ふ者ハ之を保全すべし二五人もし全世界を利するごも自己を喪ひ自ら亡なば何の益あらん乎二六我ご我道を耻る者をバ人の子も亦もの榮光と父と聖使の榮光をもて來る時これを耻べし二七われ誠に爾曹に告ん此に立者の中に神の國を見までハ死ざる者あり二八此事を言けるのち八日ばかり過てイエスバテロヨハ子ヤコブを携ひ祈禱せんさて山に登れり二九所れる時に其顔の鏡つれと異り其衣服白く輝きぬ三十二人の人ありて之と云へり即ちモーセとエ

リヤあり榮光の中に現れて三一イエスのエルサレムにて既や世を遁んとする事を語る

三二バテロもよび偕に在し者等いたく寝たりしが已に醒てイエスの榮光また偕に立る二人を見たり三三この二人のイエスと別る時バテロイエスに曰けるハ師よ此に居ハ善われらに三の窟を建て給へハ爾のため一ハモーセのため一ハエリヤの爲にせん此其言

三三この窟を知ざりし也三四かく言るとき雲きたりて彼等を蓋へり其雲に入しとき弟子たち懼ぬ三五聲雲より出て曰けるハ此ハ我愛子あり之に聽へし三六聲寂たれば惟イエス一人を見たり弟子たち口を緘て見たりし事を當時ハ誰にも告ざりき

三七翌日山より下りければ許多の人ハイエスを迎ふ三八其中の或一人よばはりて曰けるハ師よ願くハ我子を背願たまへ此ハ我獨子なるに三九惡鬼の爲に憑れてハ忽然さけび泡をふき拘擧られて傷み離る

四〇實に難し四十我これを逐出す事を爾の弟子に求しかご能ざりき四一イエス答て曰けるハ噫信なき悖逆世ある哉われ爾曹の中に爾曹を忍て幾何時あらんや爾が子を此に携來れ四二來ハ惡鬼これを傾跌て拘擧ぬイエス汚たる鬼を斥て其子を醫し父に手へたり四三衆人みな神の大なる能を駭きイエスの行し事を異める時にイエス弟子に曰けるハ四四此言を爾曹耳に藏めよ夫人の子ハ人の手に付されん四五彼等この言を悟ざりし悟ざるやう隠されたる也彼等もまた懼て此事を問ざりき

四六弟子等のうち互に誰か大あらんとの爭論ありければ四七イエス其心の念を知て孩子をとり側になて四八彼等に曰けるハ我名の爲に此孩子を接る者ハ即ち我を接る者なり我を接る者ハ我を遣しと者を接る者なり凡て爾曹が

うち最も小者ぞ是 大あらん 四九ヨハ子 答て曰けるハ師よ爾の名に托て鬼を逐出せる者を見たりしが我儕と共に從はざる故これを禁たり 五十イエス曰けるハ禁るこも勿れ我儕に敵抗ざる者ハ我儕に屬者なり 〇五一イエス天に升るの期いたりければエルサレムに往ここを確定めたり 五二使者等を先に遣しければ彼等ゆきてイエスに備んが爲サマリヤ人の郷に入しに 五三郷人そのエルサレムに向行さまあるが故にイエスを納ざりき 五四弟子のヤコブヨハ子 此事を見て曰けるハ主よ我儕エリヤの行し如く天より火を召降し彼等を滅さんす可か 五五イエス顧みて之を責め曰けるハ爾曹の心如何ある乎を自ら知ざるあり五六人の子ハ人の命を滅す爲に來す惟これを救ふ爲なり遂に他の郷に往り 〇五七路を行さき 或人イエスに曰けるハ主よ何處に往たまふこも我從へん 五八イエス彼に曰けるハ狐ハ穴あり天空の鳥ハ巢あり然ども人の子ハ枕する所をなし 五九又ある一人に曰けるハ我に從へ彼いひけるハ主よ先ゆきて父を葬る事を我に容せ 六十イエス曰けるハ死たる者に其死し者を葬らせ爾ハ往て神の國を宣よ 六一又ある一人曰けるハ主よ爾に從へん先ゆきて家人に別を告るとを容せ 六二イエス曰けるハ手を鞞に着て後を願る者ハ神の國に當ざる者也

第四節

此後主また七十人を立て之を兩個づくに分ち自ら至んさする諸邑諸地へ前に遣さんさて 二彼等に曰けるハ 收稼ハ多く工人ハ少し故にその稼主に工人を收稼所に遣んこ事を求べし 三往われ爾曹を遣すハ 羔を狼のなかに入るが如し 四 獲ま

た旅袋履をも携こし勿れ途にて人に問候をもする勿れ 五人の家に入らば先其家の安全を祈らん事を求へ 六若こゝに安全の子あらば爾曹が祈る安全ハ其家に留らん若しからずば其祈る安全をんぢらに歸べし 七其家に居りて供る所のものハ之を飲食せよ 蓋工人の其工錢を獲ハ宜さればなり家より家に移るこ事を爲され 八邑に入んに接る者あらば其あんぢらの前に供る者を食せよ 九邑の中なる病の者を醫せ亦衆人に神の國ハ爾曹に近けりと言ふもし邑に入んに接る者なくば爾曹に出で曰十一我儕に沾たる爾が邑の塵ハ爾曹に對て拂ん然ども神の國の近けるを知 十二われ爾曹に告ん其日いたらばソドムの刑罰ハ此邑よりも却て易かるべし 十三ある禍ある哉 コラシム 噫 禍ある哉 ベテサイダよ 爾曹の中に行し異能 若ツロミシドンに行しあらば彼等ハ早く麻をき灰を聚り坐して悔改しあるべし 十四 審判にハツロミシドンの刑罰ハ爾曹よりも却て易かるらん 十五 已に天にまで擧げられたるカペナウンよ 又陰府に落さるべし 十六 爾曹に聽者ハ我に聽あり 爾曹を棄る者ハ我を棄るあり 我を棄る者ハ我を遣し去る者を棄るあり 〇十七 七十人 喜び返りて曰けるハ主よ惡鬼さへも爾の名に因て我儕に服せり 十八 イエス曰けるハわれ 電の如くサタンノ天より墮るを見し 十九 我あんぢらに 蛇 蠍を踐また敵の諸の權を制ふる權威を賜たり 必ず爾曹を害ふ者なし 二十 然ども惡鬼の爾曹に服し去る事ハ 喜さする勿れ 爾曹が名の天に録されしを喜さすべし 二一 此時イエス心に喜びて曰けるハ 天地の主なる父よ 此事を 智者と達者に隠して 赤子に顯し給ふを謝す 父よ 然それはの如きハ 意旨に適るあり 二三 父ハ萬物を

我に賜ふ父の外に子に誰あるを識者なく亦子もよび子の顯す所の者の外に父に誰あるを識者なし
二三 イエス弟子を願て竊に曰けるハ爾曹が見るところの事を見るその目ハ福なり
二四 我あんぢらに告ん多の預言者もよび王も爾曹が見るところの事を見んさせしむ見す
爾曹が聞るところの事を聞んさせしむも聞ざりき
〇三五 爰に一個の教法師あり起て彼を試み
曰けるハ師よ我を爲す爲す永を生を受べき乎
二六 イエス曰けるハ律法に録されしハ何ぞ爾に讀む
二七 答て曰けるハ爾心を盡し精神を盡し力を盡し意を盡して主なる爾の神を愛すべし亦己の如く隣を愛すべし
二八 イエス曰けるハ爾の答へ然り之を行は生べし
二九 彼みづからを罪なき者に爲んさてイエスに曰けるハ我隣を誰ある乎
三十 イエス答て曰けるハある人エルサレムよりエリコに下るとき強盜に遇り強盜その衣服を剽取て之を打擲き瀕死にあして去ぬ
三一 斯る時に或祭司この路より下し其之を見過にして行り
三二 又レビの人も此に至り進み見て同く過行り
三三 或サマリヤの人旅して此に來り之を見て憫み
三四 近よりて油と酒を其傷に沃これに覆て己が驢馬にのせ旅邸に携往て介抱せり
三五 次日いづるとき銀二枚を出し館主に予て此人を介抱せよ費もし増す我ハヘリの時なんぢに償ふべしと曰り
三六 然る此三人のうち誰が強盜に遇し者の隣あるを爾意ふや
三七 彼いひけるハ其人を矜恤たる者なり
イエス曰けるハ爾も往て其ごとく爲よ
〇三八 かれら路を行る時イエス一郷に入ればマルタと云る婦これを迎て自己の家に入ぬ
三九 その姉妹にマリヤと云る者あり
イエスの足下に坐りて其道を聽り
四十 マルタ供給のこも多し

て心いりみだれ
イエスに近よりて曰けるハ主よ我が姉妹われを一人遺て勞動しむるを何とも意ざるか
彼に命じて我を助しめよ
四一 イエス答て曰けるハマルタよマルタよ爾多端により思慮ひて心勞せり
四二 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
四三 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
四四 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
四五 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
四六 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
四七 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
四八 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
四九 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
五〇 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
五一 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
五二 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
五三 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
五四 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
五五 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
五六 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
五七 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
五八 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
五九 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
六〇 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
六一 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
六二 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
六三 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
六四 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
六五 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
六六 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
六七 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
六八 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
六九 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
七〇 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
七一 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
七二 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
七三 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
七四 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
七五 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
七六 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
七七 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
七八 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
七九 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
八〇 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
八一 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
八二 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
八三 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
八四 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
八五 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
八六 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
八七 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
八八 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
八九 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
九〇 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
九一 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
九二 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
九三 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
九四 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
九五 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
九六 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
九七 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
九八 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
九九 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり
一〇〇 然る無て叶ふまじき者ハ一あり
マリヤハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪へからざる者なり

てう瘡啞ものいひしかば人々駭けり十五其中ある者の曰けるハ彼は惡鬼の王ベルセブ
 ルに藉て惡鬼を逐出せる也十六又ある人々イエスを試みて天よりの休徵を求めたり十七
 イエスその意を知て曰けるハ互に分争ふ國ハ亡び互に分争ふ家ハ傾る也十八
 若サタンも自ら分争ハ其國いかに立んや其あんぢら我を言てベルセブルに藉て惡鬼
 を逐出すさせり十九若われベルセブルに藉て惡鬼を逐出さば爾曹の子弟ハ誰に藉て惡鬼を
 逐出すや夫がれらハ爾曹の裁判人さ爲べし二十若われ神の指をもて惡鬼を逐出たる者
 らば神の國ハ既や爾曹に來れり二一勇者鎧を撰て邸を守るさきハ其所有安全あり
 三三もし之より勇者きたりて其に勝さきハ其特させる鎧を奪ひ且賊物を分べし
 三三 我さ儲ならざる者ハ我に叛き我さ儲に敵ざる者ハ散すあり○二四 惡鬼人より出て早た
 る所をめぐり安を求めども得ずして曰けるハ我出し家に歸らん二五 已に來しに掃淨り
 飾れるを見ニ六 遂に往て己よりも惡き七の惡鬼を携へ入て此に居る其人の後の患狀ハ前よ
 り更に惡かるべし二七この話を言るとき群集の中より一婦聲を擧て曰けるハ爾を孕し
 腹さ爾の吮し乳ハ福あり二八 イエス答けるハ然されど神の道を聽て其を守る者の福
 二九 若す○二九 人々擁集れる時イエス曰けるハ今の世ハ惡し奇跡を求めるとも預言者ヨナ
 の奇跡の外に奇跡ハ予られじ三十蓋ヨナがニ子べの人に奇跡さ爲し如く人の子は今の世に
 奇跡さ爲べし三一 南方の女王審判の日に共に起て今の世の人の罪を斷めん彼ハ地の極よ
 リソロモンの智慧を聽んきて來れり夫ソロモンより大なる者こそ在 三三ニ子べの人審判

の日に共に起て今の世の人の罪を斷めん彼等ハヨナの勸言に因て悔改めたり夫ヨナより
 大なる者こそ在 三三 燈を燃て隠たる處あるひハ升の下におく者さし入來る者の其光
 を見ん爲に燭臺の上に置き三三 身の燈ハ目あり爾の目瞭かあらば全身あかるく其目眩
 ければ爾の身も暗し三五 故に爾にある光の暗らぬやう慎めよ三六もし爾の全身光明に
 して暗所なくば燈の輝きて爾を照す如く全く光明あるべし○三七 イエス語れるとき或
 パリサイの人共に食せん事を請ければ入て食に就り三八 その食する前に洗ふことを爲ざりし
 を見てパリサイの人異めり三九 主これに曰けるハ爾曹パリサイの人椀と盤の外を潔す然
 る爾曹内ハ貪慾と惡にて充り四十 無知なる者よ外を造し者ハまた内をも造ざりし乎 四一
 さんぢら所有物を以て施せ然ば爾曹の爲に凡の物の潔れる也 四二 禍なる哉なんぢらパリ
 サイの人よ薄荷苗香あよび凡の野菜十分の一を取納て義と神を愛することを
 廢これ行ふべき事なり彼も亦廢べからざる者あり 四三 禍ある哉なんぢらパリサイの人よ
 會堂の高座市上の間安を好めり 四四 禍ある哉それ爾曹は隠没たる墓の如し其上を行く
 人々これを知ざる也 四五 ある教法師たへて曰けるハ師よ此言ハ我儕をも辱しむ 四六 イ
 エス曰けるハ爾曹も禍なるかな教法師よ任がたき荷を人に負せ自ら指一をも其荷に接
 ず 四七 禍なる哉なんぢら預言者の墓を建なんぢらの先祖ハ之を殺せり 四八 實に爾曹先
 祖の爲る事をこのむ證明を爲り夫がれらハ之を殺し爾曹ハ其墓を建 四九 是故に神の智慧い
 へる言あり我預言者あよび使徒を彼等に遣さん其の中に或者を殺し或者をば窘むべしと

五十創世より以來をうし凡の預言者の血ハ此代に於て討さんご爲なり五一即ちアベルの血より殿々祭壇の間に殺されたるザカリヤの血にまで至われ誠に爾曹に告ん之を此代に討すべし五二あんぢら禍あるかな教法師よ智識の輪を奪て自ら入す且入んごする者をも阻り五三此言を語るごき學者ごパリサイの人々深く憤恨を捨て多端の事を詰かけ五四その口より出る言を何事か取へ訴んごして伺ひたり

そのごき數萬の人々相踐あふ程に集れりイエス先弟子に曰けるハ爾曹パリサイの人の麪醉を謹めよ是爲善ありニそれ掩れて露れざる者ハなく隠て知れざる者ハなし三是故に爾曹幽暗に語しごこの光明に聞ゆべし密なる室にて耳に附言しごこの屋上に播るべし四我友よ爾曹に告ん身體を殺して後に何を爲能ざる者ハ懼るご勿れ五われ懼べき者を爾曹に示さん殺したる後に地獄に投入る權威を有る者を懼よ我まごに爾曹に告ん之を懼べし六五の雀ハ二錢にて售に非ずや然るに神に於て其の一をも忘れ給はず七爾曹の首の髪また皆ごぞへらる故に懼るご勿れ爾曹ハ多の雀よりも貴れり八又われ爾曹に告ん我を人の前に識ご言ん者ハ人の子も亦神の使者の前に之を識ご言ん九我を人の前に識ご言ん者ハ神の使者の前に彼も識ご言るべし十凡そ人の子を誘る者ハ赦さる可れご聖靈を毀す者ハ赦さる可らず十一人あんぢらを會堂また執政あよび權ある者の前に曳携るバ如何こたへ何を言んご思ひ煩ふ勿れ十二其時に説べき言ハ聖靈あんぢらに示すべし十三衆人の中より一人イエスに曰けるハ師よ我が兄弟に遺業を我に分ごよ命たまへ十四イエス曰

けるハ人よ誰われを立て爾曹の裁判人また物を分つ者ご爲しご十五イエス衆人に曰けるハ戒心して貪心を慎めよ夫人の生命ハ所蓄の饒あるにハ因ざる也十六また譬を彼等に語て曰けるハ或富人その田畑よく豊けれバ十七自ら付いひけるハ我が作物を藏る所をきを如何せん十八又曰けるハ我が爲ん我倉を毀ち更に大あるを建すて我が作物ご貨を其所に藏べし十九斯て靈魂に對ひ靈魂も多年を過はごの許多の貨物を有たれば安心して食飲樂めよご言んとす二十然るに神これに曰けるハ無知なる者よ今夜なんぢが靈魂ごらるごごさ有べし然ば爾の備し物ハ誰が有になる乎二十一凡そ己の爲に財を積へ神に就て富ざる者ハ此の如かりニイエスその弟子に曰けるハ故に我あんぢらに告ん爾曹生命の爲に何を食ひ身體の爲に何を着んごて思ひ煩ふ勿れニ三生命ハ糧より儼り身體ハ衣よりも儼れりニ四鶏を思見よ稼ご穡ご倉をも納屋をも有す然ごも神ハ是は此等を養ふ況て爾曹ハ鳥よりも貴きご幾何ぞやニ五爾曹のうち誰かよく思ひ煩ひて其生命を寸陰も延得んやニ六然バ最小事すら能ざるに何ぞ其他を思ひ煩ふやニ七百合花ハ如何して生長かを思へ勞す紡がざる也我爾曹に告んソロモンの榮華の極の時だにも其裝この花の一に及ざりきニ八神ハ今日野に在て明日燼に投入らるご草をも如此よそはせ給へバ況て爾曹をや呼信仰うすき者よニ九爾曹何を食ひ何を飲んご求むる勿また思ひ惑ふご勿れ三十凡て是等の物の世界に邦人の求るもの也あんぢらの父ハ是等の物の爾曹に無て叶ぬ事を知三一たご神の國を求めよ然バ是等の物の爾曹に加らるべし三三小き羣ご懼るご勿れ爾曹の父ハ喜ひて國を

爾曹に手へ給へん 三 爾曹の所有を售て施し己が爲に常に蓄る財布するはら盡る財寶
 を天に備ふ其處の盜賊も近よらす蓋も壞らざる也 三四 爾曹の財寶の在るにの爾曹の心
 も亦そこに在べし 三五 爾曹腰に帶し火燈を燃して居 三六 主人婚筵より歸來り門を叩
 速かに啓ん爲に彼を待人の如せよ 三七 主人きたりて其目を醒し居を見よ此僕ハ福
 り誠に我らんちらに告ん主人みづから腰に帶し僕を食に就せ前て之に供事すべし 三八 或
 二更あるひの三更に主人きたりて然あせるを見よ此僕ハ福あり 三九 爾曹これを知
 し若し家の主人盜賊いづれの時に來かを知り其家を守て破せまじ 四十 然爾曹も預
 め備せよ不意とき人にの子きたらんさ爲あり 四一 彼得曰けるは主よ此譬ハ我儕に
 言ひ又凡の人に言ひ 四二 主いひけるは時に及て食物を給與しめん爲に主人の僕等
 の上に立たる忠義にして智き家 幸ハ誰ある乎 四三 其主人きたる時に是の如く勤るを見ら
 るる僕ハ福あり 四四 我まことに爾曹に告ん其所有を皆かれに督らすべし 四五 若その僕
 心の中に我が主人の來るハ遅らんと思その僕婢を拵たさき食飲して且酒に酔はじめば
 四六 其僕の主人もいざるの日しらざるの時に來りて之を斬殺し其報を不信者と同
 うすべし 四七 僕主人の心を知あがら預備せず亦その心に從ざる者ハ拵らるる多らん
 四八 知ずして拵べき事を作し者ハ拵らるる事も少からん多く予らるる者ハ多く求らるべし多
 く托れ之より多く求べし 四九 われ火を地に投入ん爲に來れり我をいかに欲む已に此火
 の燃たらん事あり 五十 われ受べきのバプテスマあり其成遂らるる迄ハ我痛いかばかりぞ

乎 五一 我ハ安全を地に施んきて來るご意ふや我らんちらに告ん然す反て分爭しむ 五二 今よ
 りのち一家に五人あらば三人ハ二人に敵對し二人ハ三人に敵對して分るべし 五三 父の子に
 子の父に母に女に女の母に姑ハ其婦に婦ハ其姑に敵對して分るべし 五四 イエスマ
 衆人に曰けるハ雲の西より起るを見らば直に雨ふらん爾曹いふ果て然り 五五 南より風ふけ
 ハ暑からん爾曹いふ果て然り 五六 偽善者ハ天地の色象を別ごことを知て此時を別ち能ざる
 ハ何ぞや 五七 また何ぞ自ら公義を審ざる乎 五八 告んち訟る者共ニ有司に往さき途中にて
 心を盡して彼より釋されんごことを求め恐く訟る者告んちを裁判人にひき裁判人告んち
 を下吏に付し下吏告んちを獄に入ん 五九 我らんちに告ん一錢も残す償ふまでハ爾そご
 を出ごことを得ざる也

路加傳第十三章 自五十一節至十三節八節 百三十一
 常時あつまりたる者の中にピラトがカリヤヤ人の血を其供物に雜し事をイエ
 スに告る者あり 二 イエヌ答て彼等に曰けるハ爾曹此カリヤヤ人の如く害されし故
 に凡のかりヤヤ人よりも益りて罪ある者ご意ふや 三 我らんちらに告ん然す爾曹悔改め
 すば皆あまじく亡さるべし 四 シロアムの塔たふれて壓死されし十八人のエルサレムに住る
 凡の人々よりも益りて罪ある者ご意ふや 五 われ爾曹に告ん然す爾曹悔改めすば皆あまじ
 く亡さるべし 六 又この譬を云り或人その葡萄園に植あきたる無花果樹ありしが來て之に
 果を求めども得ざりければ 七 其園丁に曰けるは我三年きたりて此無花果樹に果を求め
 ども得ず之を斫され何ぞ徒らに地を塞や 八 園丁に曰けるは主よ我その周圍を掘て之に

糞するまで今年も容せ九もし果を結ぶと善し結すは後に之を研べし○十一イエス安息日
 に或會堂にて教しに十一十八年東に患されたる婦あり僞僂て少も伸ること能ざり
 き十二イエス之を見てよび婦よ爾の其病より釋さるると言ひて十三手を婦に接げれば直に
 伸て神を讚美たり十四會堂の宰イエスの安息日に醫したる事を怒りたへて衆人に曰け
 るは事を爲すべきの日六日あれば其中に來りて醫さるべし安息日に爲され十五主に答て
 曰けるは僞善者よ爾曹ものゝ安息日には其牛や驢をさき既より牽出して水を飲さざる乎
 十六況て此婦はアブラハムの裔あり十八年サタンに縛られたる其結を安息日に解べ
 からざらん乎十七イエス如此曰ければ敵對し者みを慚め又衆人みを其行し慈惠こ
 こを喜べり十八イエスまた曰けるは神の國は何に比へ又なに譬んや十九一粒の芥種の
 如し人これを取て其圃に播げ長生て大なる樹となり天空の鳥その枝に棲あり二十又い
 けるは我神の國を何に譬んや二十一麴酵の如し婦これを取て三斗の粉の中に納せば盡く發
 出すあり○三イエス教つて各城各郷を過エルサレムに向て旅行り二三或人いひけ
 るは主よ救る者少き乎二十四イエス彼等に曰けるは窄門に入ために力を盡せ我あんぢ
 らに告ん入ん事を求て能ざる者あほし二十五家の主人あきて門を閉し後に爾曹外にたち門を
 叩て主よ主よ我に啓と曰んに主人こたへて我あんぢら何處より來しか知すと曰ん二十六然
 る時に我儕の爾の前に食飲し爾また我儕の衢に教たりし言出さんにて七主人こたへて我
 なんぢらに告ん何處より來しか知す皆惡を爲す者よ我を去と曰ん二十八爾曹アブラハムイ

サクヤコフ及び凡の預言者の神の國に在て爾曹の外に投出さるるを見ん時に哀哭切齒
 すると有べし二十九また人々西や東北や南より來りて神の國に坐するあらん三十それ後の
 者の先に先の者の後に爲べし○三十一當日あるパリサイの人々來りてイエスに曰けるはへ
 テ爾を殺さんとする故に此を離往三三答て曰けるは爾曹ゆきて其狐に告よ我今日明日
 惡鬼を逐出し病を醫し第三日に此事をばらん三三然も今日明日また次日の我があらず行
 べし蓋預言者のエルサレムの外に殺るること有れば也三四噫エルサレムよエルサレムよ預
 言者を殺し爾に遣されし者を石にて撃る者よ母雞の雛を翼の下に集むる如く我あんぢの赤
 子を集んと爲しこと幾回ぞや爾曹の欲す三五祝ふ爾曹の家は墟と爲て遺さるべし誠に我あ
 んぢらに告ん主の名に託て來る者の福ありと爾曹いはん時いたる迄の我を見ざるべし
第四章 イエス安息日に食事の爲ある宰あるパリサイの人の家に入しに人々かれを
 窺たり二其前に腹脹を患ひたる人ありしかが三イエス應て教師さパリサイの人々に曰
 けるは安息日に醫す事の宜や否四かれら默然たりイエスかの人を執へ醫して之を去しめ
 五彼等に答て曰けるは爾曹のうち誰か驢あるひ牛をぎの阱に陥たらんに安息日には遽
 かに曳出さざる乎六彼等この言に就て對ること能ざりき○七斯て其席に請れたる人々の
 首席を擇を見てイエス警を以て彼等に曰けるは八あんぢら婚筵に請れんとき首席に坐する
 こと勿れ恐く九爾より尊人まれかれん九彼が爾を請し者きたりて此人に座を讓れと
 曰ん然る爾羞て末座に往べし十是故に爾まれかれん時往て末座に坐せよ請し者來りて

友よ首座に進み爾に言はば同席の者の向に爾を辱まるべし十一凡そ自ら高ぶる者の卑され自ら卑たる者の高くせらるべし十二又かれを請る者に曰けるハ爾午餐あるハ晩餐を設るべき朋友兄弟親戚また富る隣の人を請ふかれ恐くハ彼等また爾を請て其報答を爲し十三爾筵を爲ば貧乏瘡疾跛者警者をも請け十四然ば爾福あるべし蓋彼等ハ爾に報ると能はず義き人々の難らん其時あんぢに報答あれば也十五同に食せる者の一人之を聞てイエスに曰けるハ神の國に食する者の福あり十六イエス彼に曰けるハ或人おほいある筵を設て多賓を請けり十七筵のさき僕を其請たる者に遣して百物はや備たれば来るべしと言せけるに十八彼等みな同く辭ぬ其始の者かれに曰けるハ我田地を買たれば往て視ざるを得ず願くハ我を允し給へ十九又一人の者いひけるハ我五綱の牛を買たれば之を試むる爲に往ん願くハ我を允し給へ二十又一人の者いひけるハ我妻を娶たり是故に往んことを得ざる也二一其僕かへりて此事を主人に告げれば主人怒て其僕に曰けるハ速かに邑の衙巷に往て貧者瘡疾跛者警者をも此に引來れ二三僕曰けるハ主よ命の如く行り然と尙あまりの座あり二三主人僕に曰けるハ道路や藩籬の邊にゆき強て人々を引來り我家に盈しめよ二四我あんぢらに告ん彼まねきたる人一人一人だに我餐を嘗ふ者なし〇二五多の人ハイエスに偕に行しかイエス願みて彼等に曰けるは二三凡そ我に來てその父母妻子兄弟姉妹また己の生命をも憎む者に非ざれば我弟子と爲とを得ず二七又その十字架を任ずして我に従ふ者ハ我弟子と爲とを得

得ず二八あんぢら誰か城を築かん先に先坐して其費この事の城まで足や否を計ららん乎二九恐くハ基を置て之を成能すべ見者みな嘲笑て三十此人ハ築始て成途ざりしと曰ん三二また王いで他の王と戦はん先に先坐して此一萬人をもて彼二萬人に敵すべきや否を籌ららん乎三三もし及すば敵なほ遠れる時に使を遣して和睦を求べし三三然ば此の如く爾曹その所有を盡く捨ざる者は我弟子と爲とを得ず三四鹽は善物なり然ども鹽その味を失はば何をもて之に味を和んや三五田にも糞にも益なく外に棄らるるなり耳ありて聽る者は聽べし

さて税吏と罪ある者どもイエスに聽んさて近よりければニパリサイの人と學者たち譏諷て曰けるハ此人ハ罪ある人に接りて共に食せり三イエス此警を彼等に語て曰けるハ爾曹のうち誰か一百の羊あらんに若その一を失はば九十九を野におき往て其失し羊を獲まで尋さらん乎五尋得ば喜て之を己の肩に負六家に歸て其友と其鄰の人々を召集て曰ん我と共に喜べ我うしなへる羊を獲たれば也七われ爾曹に告ん此の如く一人の罪ある人悔改なば悔改むるに及ざる九十九の義人より尙天に於て喜あらん八また婦のうち誰か金銭十枚をもち其一枚を失はんに燈火を燃て家を掃除し之を獲まで一切に對さらん乎九尋得ば其友と其鄰の人々を召集て曰ん我と共に喜べ我うしなへる金銭を獲たれば也十われ爾曹に告ん此の如く一人の罪ある人悔改めば神の使の前に喜あるべし〇十一また曰けるハ或人子二人あり十二その季子父に曰けるハ父よ我

得べき業を我に分予ふ父その産を彼等に分たれば十三幾日も過ざるに季子その産を盡く集て遠國へ旅行せしが放蕩にして其分資を皆そにて耗せり十四盡く耗し其のひとある饑饉その地に有て彼さもしく爲はじめければ十五往て其地の一民に身を投たり其人豕を牧ために彼を野に遣せり十六かれ豕の食する所の豆莢をもて己が腹を果さん欲ふほごされど何を彼に予る人あし十七自ら省悟て曰ける我父の所に食物あまれる傭人の許多有に我の飢て死んさす十八起て我父に往て曰ん父よ我天さ爾の前に罪を犯たれば十九爾の子を稱るに足ざる者あり爾の傭人の一人の如く我を爲たまへさ二十即ち起て其父に往り向さほく有しに其父かれを見て憫み趨往き其頸を抱て接吻しぬ三子父に曰けるは父よ我天さ爾の前に罪を犯たれば爾の子を稱るに足ざる也三三父その僕等に曰けるは至も美服を携來りて之に衣せ其指に環をはめ其足に履を穿せよ三三また肥たる積を牽來りて宰れ我儕食して樂まん三四是わが子死て復生うしあひて復得たれば也さて彼等と共に樂み始む三五その兄田に在しが歸て家に近き樂さ舞の音を聞ニ六その僕一人を召て是何事ぞやと問るにニ七僕曰けるは爾の弟歸りたり恙なく彼を得たりしに因て爾が父肥たる積を宰たるありニ八兄いかりて入す是故に其父いでて彼に勸しかばニ九父に答て曰けるは我多年あんちに事て未だ爾の命に背す然ども我友と樂む爲に羔をも予し事あし三十然に妓の爲に爾の業を耗したる此あんちが子かへれば之が爲に肥たる積を宰れり三一父かれに曰けるは子よ爾は常に我と共に在また我所有は皆あん

ぢの屬あり三三爾の弟死て復生うしあひて復得たるが故に我儕喜て樂むは當然の事あり

イエス又その弟子に曰けるは或富人人に操會者ありけるが主の所有を耗しと主人へ訴らるニ主人操會者を呼て曰けるは爾に就て我きうたる事は何ぞや今後あんちを操會者と爲えされば其會計たる條件を我に辨よ三操會者みづから意るは主人我操會を奪るは何を爲ん我鋤を執には力なく施を乞は恥かし四われ操會を奪れん時は是等の家に迎らるべき所爲を知りさて五遂に主人の負債人を悉く召て其首の首に曰けるは爾わが主に負債をばよある乎六答ていふ油百斗あり彼に曰けるは爾の券書を取りそぎ坐して五十と書よ七又一人に曰けるは爾の負債幾何あるや答ていふ小麦百斛あり彼に曰けるは爾の券書を取て八十と書よ八主人その所爲の巧あるに因て此不義ある操會者を譽たり夫この世の子輩は此世に於ては光の子輩よりも尤も巧あり九我あんちらに告ん不義の財を以て己が友を得よ此へ乏からん時彼ら爾曹を永遠宅に接んが爲あり十小事に忠き者の大事にも忠く小事に忠からざる者の大事にも忠からず十一故に若あんちら不義の財に忠からず誰か眞の財を爾曹に託んや十二爾曹もし人の所有に不義あらば誰か爾曹の所有を爾曹に與んや十三一人の僕ハ二人の主人に事ること能す蓋これを悪かれを愛し或ハ此を重んじ彼を輕んずれば也あんちら神と財に兼事ると能す十四慾ふかきパリサイの人々此事を聞てイエスを嘲哂たり十五イエス彼等に曰けるハ爾曹ハ人々の前に自己を義

する者あり然とも神の爾曹の心を知り夫人の崇ぶ所の者神の前に悪る者あり 十六
 律法を預言者ハヨハ子まであり其のち神の國の宣傳らる皆用力て之に入んを爲り 十七 天
 地の廢るハ律法の一畫の廢るよりも易し 十八 凡そ其妻を出して他の者を娶ハ姦淫を行ふ
 也また夫に出されたる婦を娶る者も姦淫を行ふなり 十九 爰に富る人あり紫袍と細布を
 衣て日々奢樂めり 二十 亦ラザロ云る貧者あり甚く腫物を患て富る人の門に置れ
 二 其案より落る餘屑にて養はれん欲へり又犬きたりて其腫物を舐 二三 貧者死たれ
 天の使者たちに依てアブラハムの懷に送れたり富る人も死て葬られしが 二三 陰府にて
 痛苦をうけ其目をあげ遙にアブラハムを其懷に在ラザロを見て 二四 咸叫ひけるハ父
 アブラハム我を憐みラザロを遣して其指の尖を水に蘸わが舌を涼しめ給へ我この火賦の
 中苦めバあり 二五 アブラハム曰けるハ子爾の生たりし時に爾の編を受またラザロハ其
 苦を受しを憶へ今かれハ慰られ 爾の苦めらるるより 二六 斯耳をらす此より爾曹に涉ん
 ざるも得ず彼より我儕に涉んざるも亦えざる爲に我儕と爾曹との間に限られた
 る巨なる淵あり 二七 答けるハ然バ父願くハ我父の家ヘラザロを遣たまへ 二八 蓋われに
 五人の兄弟あり亦かれら此苦の所に來ざる爲にラザロを證據に爲しめよ 二九 ア
 プラハム曰けるハ彼等にハモーセと預言者あれば之に聽べし 十三 答けるハ然す父アブラハ
 ムもし死より彼等に往者あらバ悔改べし 三二 アブラハム曰けるハ若モモーセと預言者に
 聽すバ縦ひ死より甦る者ありとも其勸を受ざるべし

第十七章

イエス弟子に曰けるハ 蹟さるる事ならず來らん其來らす者ハ 禍なる哉
 ニこの小子の一人を蹟するよりハ 磨石を頭に懸られて海に投入られんこと其人の爲
 に宜るべし 三 自己を謹慎よ若兄弟なんぢに罪を犯さバ之を諫め彼もし悔まバ免せ 四 もし
 一日に七次罪を爾に犯して一日に七次なんぢに對われ悔ま曰ば免すべし 〇 五 使徒主に曰
 けるハ我儕に信を益せよ 六 主いひけるハ爾曹もし芥種一粒ほどの信あらバ此桑樹に拔
 て海に植れさ曰とも爾曹に従ふべし 七 誰か爾曹の中に或ハ耕し或ハ畜を牧僕あらんに
 彼田より歸たる時 亟かに往て食に就といふ者あらん乎 八 反て曰すや我食ハ備わが食飲
 をハるまで帯を束われに事て後なんぢ食飲すべし 九 僕主人の命ぜし事に従へバさて主
 人かれに謝すべきか 然じと我ハ意り 十 斯バ亦なんぢら命ぜられし事をみな行たる時も我儕
 ハ無益の僕をすべき事を行たるありと謂 〇 十一 イエスエルサレムに往きサマリヤガ
 ラキの中を經 十二 ある村に入しき十人の癩者ありて彼にあひ遙に立て聲を揚いひけ
 るハ 十三 師イエス我儕を矜恤たまへ 十四 イエス之を見て曰けるハ往て己を祭司に見せよ
 彼等ゆく間に潔られたり 十五 その一人己ハ醫されたるを見て返來り大聲に神を榮め 十六
 イエスの足下に俯伏て謝せり彼ハサマリヤ人あり 十七 イエス答て曰けるハ潔られし者ハ
 十人に非や其九人ハ何處に在 十八 この異邦人の外に神に榮を歸せんさて返たる者あらざ
 る乎 十九 また彼に曰けるハ起て往なんぢの信仰なんぢを救り 二十 神の國は何の時きたる乎
 三 ぱリサイの人に問られければ イエス答て曰けるハ神の國は顯れて來ものに非ず 三二 此に

視ふ彼に視よ人の言べき者にも非ず夫神の國ハ爾曹の吏に在二三また弟子に曰けるハ
 爾曹の子の一日を見たく欲ふ日來らん然も見ざるべし二三人ヤなんぢらに此に見
 よ彼に見よと曰ん然も往なけれ從ふ勿れ二四それ電光の天の彼處より閃き天の此處に光
 が如く人の子も其日に如此あるべし二五然も人の子かあらず先ちほくの苦を受また此世
 の人に棄られん二六ノアの時に有し如く人の子の時にも然あるべし二七即ちノア方舟に入
 し日まで衆人食飲嫁娶を爲たりしが洪水きたりて彼等を滅せり二八又ロトの時
 にも如此ありき衆人食飲貿易樹藝構造を爲たりしに二九ロトソドムより出し日
 天より火と硫磺を雨せて彼等を皆滅せり三十人の子の顯るる日にも亦斯有べし三一其日
 への人屋上に在り其器具室に在るも之を取んきて下され亦田畑にある者も同く
 歸せかれ三三ロトの妻を憶へ三三凡そ其生命を救んとする者ハ之を失ひ若その生命を失ハ
 ん者ハ之を存べし三四我あんぢらに告ん其夜ふたり同床に在んに一人ハ執れ一人ハ遺
 さるべし三五二人の婦も磨ひき居んに一人ハ執れ一人ハ遺さるべし三六かれら答て曰
 けるハ主よ此事何處に有や彼等に曰けるハ屍の在る處に驚あつたらん

第十八章 イエスマタ人の恒に祈禱して沮喪すまじき爲に譬を彼等に語けるハ 二或邑に神
 を畏ず人を敬らざる裁判人ありけるが三其邑に瘡婦ありて我を我仇より救たまへと曰て
 彼に至しに四かれ久く肯らざりしが其のち心の中に思けるハ我神を畏ず人も敬らざれ
 び五此瘡われを煩せば彼が絶ず來て我を聒さざる爲に之を救はん六主いひけるハ不義

ある裁判人の言し事を聽て七況て神の晝夜祈る所の選たる者久く忍ぶも終に救ざらんや
 ハ我あんぢらに告ん神の速に彼等を救はん然も人の子きたらんとき信を世に見んや〇九
 又みづから義意ひ人を輕むる或人にイエス此譬を語れり十二人祈んきて殿に登りし
 が其一人ハパリサイの人一人ハ稅吏ありき十一パリサイの人たちて自ら如此いのれり神
 我ハ他の人の如く強索不義姦淫せず亦此稅吏の如くにも有ざるを謝す十二われ七日
 間に二次斷食し又すべて獲もの十分の一を獻たり十三稅吏ハ遠に立て天をも仰ぎ見
 ず其胸を拊て神よ罪人ある我を憐み給さ曰り十四我あんぢらに告ん此人ハ彼人よりの義さ
 る爲れて家に歸たり夫すべて自己を高る者ハ卑られ自己を卑す者ハ高らるべし〇十五イエ
 スに按られんがため人々嬰孩を携來りしに弟子たち見て之を貴たり十六イエス嬰孩を
 呼び弟子に曰けるハ嬰孩を我に來せよ彼等を禁る勿れ神の國に居者ハ此の如き者あり
 十七誠に爾曹に告ん凡そ嬰孩の如に神の國を受ざる者ハ之に入らざるを得ざる也〇十八或
 徒さふて曰けるハ善師よ永生を嗣ために我なにを行べき乎十九イエス彼に曰けるハ
 何ぞ我を善と稱や一の外に善者ハなし即ち神あり二十誠ハ爾が知さるるあり姦淫する勿
 れ殺さかれ竊なけれ妄證を立てる勿れ爾の父と母とを敬へ二一答けるハ是のみを我幼よ
 り守れる者あり二二イエス之を聞て曰けるハ爾なほ一を虧その所有を悉く售て貧者に
 施せ然ば天に於て財あらん而して來り我に從へ二三かれ大に富る者なりしかば之を聞て甚
 く憂たり二四イエスその甚く憂しを見て曰けるハ富る者の神の國に入ら如何に難かる 二五

富る者の神の國に入りより駱駝の針の孔を穿へ却て易しニ六之を穿る者ども曰ける然ば
 誰か救を受べき乎ニ七イエス曰ける人の爲得ざる所ハ神の爲得ざる也ニ八ペテロ曰け
 る我儕一切を捨て爾に從へりニ九イエス彼等に曰ける誠に爾曹に告ん凡そ神の國の爲
 に家あるひハ父母あるひハ兄弟あるひハ妻あるひハ兒女を捨る者ハ三十今世にて幾倍を
 うけ來世にハ永生を受ざる者なし〇三一イエス十二の弟子を携ひて之に曰けるハ我
 儕エルサレムに上る人の子に就て預言者の録されし事ハみを應らるべし三二夫人の子ハ異
 邦人に解され戯弄辱辱られ睡せらるべし三三且かれら鞭撲て之を殺さん又第三日に甦
 るべし三四弟子この語を少しも達す亦この言る事われらに隠たり亦その語れる言を知ざりき
 〇三五イエスエリコに近よれる時ある警者道の旁に坐して乞たりしが三六大衆の過を
 聞て此ハ何事ぞと曰ければ三七人ヤナザレのイエスの過をりさ告三八警者よばり曰ける
 ハダビデの裔イエスよ我を舒恤たまへ三九前だち行者ども黙止之を斥れども愈ダビ
 デの裔よ我を舒恤またへと呼れり四〇イエス立止り彼を携來と命ず警者ちかよりけれ
 パ四一イエス彼に問けるは爾われに何を爲れんか欲ふや答けるは主よ見ん事を欲ふ四二
 イエス彼に曰けるは見ん事を受よ爾の信まんぢを救へり四三彼やがて見之神を榮てイエス
 に從ひぬ民みま之を見て神を讚美たり

第十九章

イエスエリコに入て經行さきニザアカイと云る人あり稅吏の長にて富る者なり
 リ三イエスは如何なる人なるか見んか欲ども身量ひくければ大衆あるに因て見んことを得ず

四彼を見んきて趨ゆき桑樹に升れりイエスその道を過んとする故あり五イエス此に來り仰
 て彼を見いひけるはザアカイよ速ぎ下れ我今日かあらす爾の家に宿らん六彼いそぎ下り
 喜てイエスを迎たり七衆人これを見てみそ怨言いひはるは彼は往て罪ある人の客を爲れ
 リ八ザアカイ起て主よ我所有の半を貧者に施さん若われ 認 認て人より収たる所
 あらば四倍にして之を償ふべし九イエス彼に曰けるは今日この家すはるることを得た
 リ蓋この人もアブラハムの裔されば也十それ人の子は裏ひし者を尋て救ん爲に來れり
 十一衆人この言を聞る時また譬を設て曰り此はエルサレムに近かつ衆人神の國たぢに
 顯明るべしと意が故あり十二ある貴者者みづから領地を受て歸んきて遠國へ往さき
 十三十人の僕を召て彼等に金十斤を予て曰けるは我來まで 商賣せよ十四その國民かれ
 を憾て後より使を遣し曰けるは我儕この人を王とする事を欲す十五領地を受て歸し時もの
 一人きたりて曰けるは主よ爾の一斤は十斤の利を得たり十七主人いひけるは愈善僕よ
 爾は少者に忠なれば十の邑を宰さるべし十八また次の一人きたりて曰けるは主よ爾の
 一斤は五斤の利を得たり十九主人曰けるは爾も五の邑を宰さるべし二十また一人き
 たりて曰けるは主よ爾の一斤は此に在われ手巾に裹て 藏置たりき二蓋まんぢ殿 人あ
 るが故に我もそれたり爾置ざる者なり播ざる者なり人さればあり二三主人いひける
 は惡僕よ我まんぢの口に因て爾を鞭べし爾われハ殿 者にて置ざる者を取まかざる者

我前に誅せ二八イエス此事を言しのち衆人に先だちてエルサレムに上れり二九橄欖名る
 山に靠るベテパゲとベタニヤに近づける時その弟子二人を遣さんさて曰けるは三十對面の
 村にゆけ彼處に入らば人の未だ乗ざる所の繫たる驢駒に遇べし其を解て牽來れ三一もし誰か
 爾曹に何ゆる解やと問者あらば如此こたふべし主の用あり三二遣されたる者往ければ果て
 其語たまへる如く遇ぬ三三かれら驢駒を解き其主等かれらに何ぞ驢駒を解やと曰し
 ければ三四答て主の用なりと曰て三五之をイエスに牽來り己が衣を驢駒に置イエスを其上に
 乘三六イエス往けるとき衆人その衣を路上に布り三七イエスエルサレムに近づき橄欖山
 を下らんとする時大衆の弟子み喜び其見し所の奇跡ある凡の能に因て大聲に神を讀て
 曰けるは三八主の名に託て來る王は福あり天に於ては和平に至上所には榮光ある
 べし三九大衆の中より或パリサイの人イエスに曰けるは師よ爾の弟子を責めよ四十彼等に
 答けるは我あんぢらに告ん此輩もし黙止まば石號呼べし四一既に近づけるとき城中を
 見て之が爲に哭いひけるは四二もし爾だにも今この爾の日に於て爾の平安に關れる事を
 知らば福なるに今あんぢの目に隠たり四三爾の敵あんぢの周邊に壘を築き四方より圍攻

四四爾と其中ある兒女を撃滅し石をも石の上に遺さる日きたらん是あんぢ其眷顧たまふ
 の時を知らざれば也四五イエス殿に入その中にて貿易せる者を逐出し四六彼等に曰けるは我
 室は祈禱の殿ありと録されたるに爾曹これを盜の巢と爲り四七イエス日々殿にて教ふ
 祭司の長學者民の尊者ども彼を殺んと謀とも民み心を傾けて其教を聽るが故に
 四八爲べき方を知ざりき

一日イエス殿にて民を教へ福音を宣しに祭司の長學者長老共に近よりイエ
 スに語て曰けるは二何の權威を以て此事を行か誰この權威を手たるか我儕に告よ三答て曰
 けるは我も一言なんぢらに問ん且われに告よ四ヨハ子のパテスマハ天よりか人よりか五
 彼等たがひに曰けるは若天よりと云ば然らば何故かれを信ぜざる乎と曰ん六もし人よりと云
 ば民みなヨハ子を預言者と信すれば我儕を石にて撃んさて七遂に答て奚よりなるか知すさ
 曰り八イエス彼等に曰けるは我も亦なにの權威を以て之を行かを爾曹に告じ九即ち此譬
 を民に語り或人葡萄園をつくり農夫に租與て久しく他國へ往しが十期いたりければ
 葡萄園の果を受收ん爲に僕を農夫の所に遣しけるに農夫等これを撲たきて徒く返せたり
 十一また他の僕を遣しに之をも撲たきて辱しめて徒く返せたり十二又三次僕を遣し
 之に之をも傷けて逐出しければ十三葡萄園の主曰けるは我いかに爲ん我愛子を遣すべ
 し之を見れば恭敬ならん十四農夫ども之を見て互に議いひけるは此は嗣子なり率かれを殺さ
 ん業ハ我儕の所有になる可きて十五彼を葡萄園の外に出して殺せり然らば葡萄園の主

いかに彼等を處へべき乎十六かれ来て此農夫等を滅し葡萄園を他人に託べし人々これを
 聞いて曰ける然有され十七イエス彼等を見て曰ける匠人の棄たる石是こそ屋隅の
 首石となれと録されしは何ぞや十八此石の上に墮るもの、壞この石上に墮れば其もの碎る
 べし十九祭司の長學者等その己を指て此譬を語たるを知この時イエスを執へんを爲し
 かごも民を畏たり二十即ち之を窺ひその言を取て方伯の政事の權威に解さんとして自ら義
 人さ偽れる間者を遣せり二一就てイエスに問ける師よ我儕なんぢの言さるる教るさる
 正かつ偏らず誠を以て神の道を教るを知三二われら税をカイザルに納るは宜や否三三
 エスその詭譎なるを知て曰ける何ぞ我を試るや三四デナリを我に見よ此像と號
 誰なるか答てカイザルなりと曰二五イエス曰ける然カイザルの物のカイザルに納め
 神の物の神に納よ二六かれら民の前に其言を執得ず且その答を奇意で黙然たり〇二七
 難る事なしと言サドカイの人きたりてイエスに問ける二八師よモーセ我儕に書遺
 若人の兄弟妻あり子なくして死ば兄弟その妻を娶り子を其嗣を繼すべしと二九
 然七人の兄弟あり人に長子妻を娶り子なくして死三〇第二の者この婦を娶り子なくし
 て死三一第三も之を娶り七人同く之を娶り子なくして死三三終に婦も死たり三三然七
 人さもに此婦を妻せし故に難りたる時誰の妻さ爲べき乎三四イエス答て曰ける
 此世の子の娶嫁こそあり三五彼世に入り死より復生に足もの娶嫁こそなし
 三六是また死ること能ざるが故なり蓋天の使さ俾く復生の子にて神の子なれば也三七

て死し者の難ること就てハモーセ棘中の篇に主をアブラハムの神イサクの神ヤコブの
 神と稱て之を明白せり三八それ神は死たる者の神に非ず生る者の神なり蓋神の前に皆生
 る者なれば也三九その學者等た曰ける師よ善いへり四十此のち敢てイエスに問者な
 りき〇四一イエス彼等に曰ける人々如何なればキリストをダビデの裔と言や四二ダ
 ビデ自ら詩の篇に主わが主に曰ける我なんぢの敵を爾の足蹠と爲まで我が右に坐すべし
 と言り四三然ダビデ之主と稱たれば如何で其裔ならん乎四五民みな之を聽る時その
 弟子にいひけるハ四六長服を衣て遊行ことを好み市上にて人の問安會堂の高坐筵
 間の上坐を喜ぶ學者を慎めよ四七彼等ハ廢婦の家を吞いつりて長祈をなす審判る
 ること尤も重し

路加傳第二十章
 イエス目をあげ富る人々の捐輸を賽銭箱に投るを見る二又ある貧き廢
 婦のレプタ二を投たるを見て曰けるハ三われ誠に爾曹に告ん此貧き廢は家の者よりも
 多く投たり四蓋かれらは皆その羨餘ある所より捐輸を神にささげ此婦ハ不足さるるよ
 り其所有を盡く獻たれば也〇五また或人殿の美石と奉納物を以て修飾ることを語
 しに六イエス曰けるハ爾曹の見る所のもの石を石の上にも遺す地さるる日いたらん七彼等
 さふて曰けるハ師よ何の時この事あらん正に此の事の來らん時ハ如何なる兆ある乎八イエ
 ス曰けるハ爾曹つしみて惑さるる事なけれ蓋おほくの者わが名を冒きたり我ハキリス
 トなり時ハ近よれり云ん然爾曹從ふ勿れ九戰亂を聞さき懼るる勿れ此等の事

の先に有る止を得ざることも也然も末期の未だ速ならず十又曰けるハ民ハ民をせめ國ハ國を攻十一各處に大なる地震、饑饉、疫病あり且おそるべき事大なる休徵天より現るべし十二此事より先に人々爾曹を執へ苦め會堂および獄に解し我名の爲に王および侯の前に曳往べし十三然も爾曹が此事に遭ハ證を爲なり十四故に爾曹まづ何を對んと思慮まじき事を心に定よ十五蓋すべて爾曹に仇する者の辨駁また敵對ことを爲えざるべき口と智とを我なんぢらに賜へん十六又なんぢら父母兄弟親戚朋友等より解され且汝らの中ある者の殺さるべし十七爾曹わが名の爲に人々に憾れん十八然も爾曹の首髪一縷も喪へじ十九なんぢら忍耐て其生命を全うせよ二十なんぢら軍勢にエルサレムの圍るを見なば其亡ちかきに在る知二一その時エダヤに在者ハ山に逃よエルサレムに在者ハ出よ郷下に在者ハエルサレムに入なかれ二三これ刑罰の日にして録されたる事のみな應らるる日なり二三其日に孕たる者も哺乳兒ある者も禍なる哉これ地に大なる災ありて怒の民に及べければ也二四人々刀刃に斃れ且さらはれて諸國に曳れエルサレムハ異邦人の時滿るまでハ異邦人に蹂躪さるべし二五また日月星に異象あるべし地にてハ諸國の人哀み海と波との潮濤に因て顛沛二六人々危懼つゝ世界に來んとする事を俟懼むべし是天の勢震動すべければ也二七其時人々ハ人の子の權威大なる榮光を以て雲に乗來るを見るべし二八此等の事の成初ん時に起て爾曹の首を翹よ蓋なんぢらの贖ちかづけば也二九イエス譬を彼等に語けるハ無花果凡の樹を見よ三十既に

萌ハ爾曹これを見て自ら夏ハはや近知三三此の如く爾曹も此等の事成を見ハ神の國の近を知三三誠ニ我なんぢらに告ん此事みな成までハ此世の逝ざるべし三三天地ハ廢るべし然も我言ハ廢る可らず三四爾曹みづからを慎よ恐くハ飲食に耽り世事に累れ爾曹の心昏迷なりて慮よらざる時に此日なんぢらに臨ん三五これ機檻の如く遠く地の下に居者に臨むべし三六是故に爾曹敬醒て此臨んとする凡の事を避また人の子の前に立得やうに常に祈れ三七イエス晝ハ殿にて教へ夜ハ出て橄欖山に宿ぬ三八民みな彼に聽んさて朝はやく殿に來れり

第二十一節 逾越云る除節近けり二祭司の長學者たち如何してかイエスを殺さんぞ窺ふ但民を畏たり三倍サタン十二の中のイスカリオテを稱るエダヤに入ぬ四カ祭司の長たちと殿司等に往如何してかイエスを付さん語ければ五彼等喜びて銀子を手にし約す六エダヤ諸ひて人々の居ざる時にイエスを付さん機を窺へり○七さて除節なる逾越の羔を殺すべき日になりければ八イエスマテロヨハ子遣さんさて曰けるハ往て我儕が食せん爲に逾越を備よ九かれら答けるハ何處に之を備んぞ爲か十イエス曰けるハ城下に入れば水を盛たる瓶を挈る人なんぢらに遇べし其入るころの家に隨ひ往て十一家の主に師なんぢに云われ弟子と共に逾越を食すべき客房ハ何處に在やと曰十二然すれば彼をなへたる大なる樓房を示すべし其處に備十三彼等ゆきてイエスの日給ひたる如く遇しかば逾越の備を爲り十四時至ければイエス食に就ぬ又使徒も共に就た

リ十五イエス彼等に曰けるハ我苦難を受る先に爾曹と共に此逾越を食すること大に願
 へリ十六われ爾曹に告ん之を神の國に成までハ復これを食せし十七イエス杯をさり謝し
 て曰けるハ之を取て互に分よ十八我なんぢらに告ん神の國の來るまでハ葡萄より造しも
 のを飲じ十九またパンをさり謝して擘かれらに予て曰けるハ此ハ爾曹の爲に予るわが身體
 なり我を記ん爲に此を行二十また食してのち杯をさり曰けるハ此杯ハ爾曹の爲に流
 す我血にして立る所の新約なり二一夫われを賣す者ハ手ハ我と共に案にあり二三人の子ハ
 果て定られたる如く逝ん然も人の子を賣す人ハ禍なる哉二三かれら此事を爲ん者ハ誰
 なる乎互に問ぬ二四また彼等の中にて長たる者ハ誰なる乎互の争ありき二五イエス
 彼等に曰けるハ異邦人の王ハ其民を支配す又その上に權を乗者ハ恩を施す者ヲ稱らる 二六
 然も爾曹ハ如是すべからず爾曹のうち大なる者ハ幼が如く首たる者ハ役る者ハ如あるべ
 し二七食に就る者事者執カ大なる食に就る者あらずや然も我ハ爾曹の中に事る者
 の如し二八わが患難に於て我を儲に居し者ハ爾曹なり二九我父の我に任せし如く我も爾
 曹に國を任すべし三〇爾曹わが國に於て我案に食飲し且位に坐してイスラエルの十二
 の支派を鞠んが爲也三一主また曰けるハシモンよシモンよサタン爾曹を索めて夢の如く
 簸んとす三二然も爾の信仰絶ざるや爾の爲に祈れり爾歸ん時其兄弟を聖せ
 よ三三シモン曰けるハ主よ我獄にまでも死にまでも爾と共に往ん心定たり三四イ
 エス曰けるハペテロ我なんぢに告ん今日鶏なわさる前に爾三次われを識すと言ん〇

三五 又彼等に曰けるハ我財布、旅袋、履をも帶せて爾曹を遣しよき事の缺たること有しや
 答けるハ無りき三六イエス彼等に曰けるハ今は財布ある者ハ之をこれ旅袋ある者も亦然
 り此等を有ぬ者ハ衣服を賣て刃を買べし三七我なんぢらに告ん彼ハ罪人の中に算られて有
 しと録されたる此言ハ我に於て應らるべし蓋われを指たる事ハ必ず成らる可れ也三八
 れら曰けるハ主見よ此に二の刃ありイエス彼等に曰けるハ足り三九イエス出て例の如く橄
 欖の山に往けるハ其弟子も從へり四十其處に至りて彼等に曰けるハ誘惑に入ざるや祈れ
 四一イエス彼等を離て石の投らるるは隔り曲膝いのり曰けるハ四二父よ若し聖旨に肯
 べ此杯を我より離ち給へ然も我意に非たず聖旨のまゝに成たまへ四三使者天より
 彼に現れて健壯を添へぬ四四イエス痛く哀み切に祈れり其汗ハ血の滴りの如く地に下たり
 四五 祈禱より起て弟子に來り彼等憂て寝れるを見四六曰けるハ何ぞ寝るや起て誘惑に入
 ざるや祈れ四七如此いへるこき許多の人々きたる又十二の一人なるユダ云る者其に先
 ちてイエスに接吻せんよ近よれり四八イエス曰けるハユダ爾ハ接吻をもて人の子を賣す
 乎四九その側に居たる者等事の及んざるを見て曰けるハ主よ我儕刃をもて撃べき
 乎五十其中の一人祭司の長の僕を撃て其右の耳を削落せり五一イエス答て之を釋せと曰
 するその耳に押して醫したり五二イエス此に來し祭司の長殿司および長老等に曰けるハ爾曹
 刃を棒を持來り強盜に當が如する乎五三われ日々爾曹と偕に殿に在し時ハ我に手を
 措こき無りき然るに今ハ爾曹の時ハつ黑暗の勢あり五四彼等イエスを執へ曳て祭司の長

の家いへに携つれ往ゆりペテロペテロ 遙はるかに從したがひぬ 五五人ひと々中庭なかにわのうちに火ひを燒たきて同どうに坐ましければペテロ
も其中そのなかに坐ましたり五六あ或ある婢めかけかれが火ひの傍はたはらに坐ませるを見みこれつらを熱あつく 視みて曰いひけるハ此人このひとも
彼かれと偕ともに在ありし五七いつしちペテロペテロ 承うけがはすして女おんなよ我われこれを識しる云いひ云いひ 五八いつはち頃しほ刻くして他ほかの人ひとも亦また見みて
曰いひけるハ爾なんぢも彼等かれらの一人ひとりなりペテロ曰いひけるハ我われハ然しからず 五九いつしちゆう約やくそ一時ひとときは過すて復またほか
人ひと力ぢかり言いひけるハ誠まことに此人このひとも彼かれと偕ともに在ありし是こゝはガリヤガリヤの人ひとなれば也なり 六〇いつじゅう主しよ身みを回かへしてペテロペテロを見みたまへ
我われなんぢの言いひを識しる言いひも果はず忽たちちは鳴なめ 六一いつじゅういち主しよ身みを回かへしてペテロペテロを見みたまへ
り今日けふ鷄けいなく前まへに三みつ次じわれを識しる言いひ主しよの曰いたまひし言いひをペテロペテロ憶おも起おこし六二いつじゅうに外そと
へ出いで痛いたく哭なり 〇 六三いつじゅうさんイエスイエスを護まもる者ものも嘲てうらや弄うして彼かれを撲うち 六四いつじゅうよん其その目めを掩おほひ問とて曰いひける
ハ爾なんぢを撲うち者ものハ誰たれなるか預言よげんせよ 六五いつじゅうごまた多端さまざまの事ことを言いひて之これを誚そしれり 六六いつじゅうろく平旦よあけに民たみの長老としより
祭司さいしの長なが、學がくしや者ものも集あつまりてイエスイエスを集議しよぎ所しよに曳ひ往きて 六七いつじゅうしち曰いひけるハ爾なんぢもしキリストキリストならんば我われ
儕らに告つげよイエス曰いひけるハ假令たとひわれ爾曹なんぢらに言いひも信しんぜざるべし 六八いつじゅうはち又またたさひ我われさんぢらに詰と詰と
言いひも答こたざるべし 六九いつじゅうきゆう今いまより後人のちひとの子こハ大權ちからある神かみの右みぎに坐ません 七十いつじゅうしち皆みないひけるハ然しからば爾なんぢハ
神かみの子こなるかイエス曰いひけるハ爾曹なんぢらが言いひる如ごとく我われハ是これなり 七一いつじゅういち彼等かれらいひけるハ猶なほ證據しやうこを須もち
んや我儕われらみづから其口そのくちより聞きり

第廿三章

衆人ひとらみな起たちてイエスイエスをピラトピラトに携つれゆき二ふた之これを訟うたへいひけるハ我儕われらこの人ひとが民たみを
感かんし税ぜいをカイザルカイザルに納なむことことを禁こみ自ら王わうなるキリストキリストと稱とるを見みたり三みつピラトピラト、イエスイエスに
問とて曰いひけるハ爾なんぢハエダヤエダヤ人の王わうなるか答こたへけるハ爾曹なんぢらが言いひる如ごとく四よピラトピラト祭司さいしの長なが等ら衆人ひとらに

曰いひけるハ我われこの人ひとに於おいて罪つみあるを見みず 五ご彼等かれらますく極力はげいひけるハ彼かれハガリヤガリヤより始はじめ
て遍あまくエダヤエダヤを教をしへ此處このところまで來きたり民たみを亂みだせり 六ろくピラトピラトガリヤガリヤを聞きて此人このひとハガリヤ人びと
なる乎かを問とふ二ふた其そのヘロデヘロデの所管しゆかんなるを知しり之これをヘロデヘロデに遣おくる此時このときヘロデヘロデもエルサレムエルサレムに在あり
がハイエスイエスを見て甚はなはだ喜よろこべり蓋さ各機さまざまなる彼かれハ風聲かぜを聞きて久ひさく之これを見みんことことを欲おもひ且またその
奇異かしぎなる事ことを見みん望のぞむたれば也なり 九く是故このゆゑに多言おほくのことばを以もつて問とひければもイエスイエス何なにをも答こたへざり
き 十じゆ祭司さいしの長なが學がくしや者ものたち側かたはらに立たちて切きりに彼かれを訟うたへ 十一いつじゅういちヘロデヘロデその士卒しそつと共に彼かれを藐視みづから嘲あざわ
弄うして華服わらわしを衣きせ復またピラトピラトに遣おくり 十二いつじゅうにピラトピラト先さきにハ仇あだたりしが當日このひたが
ひに親したみを爲なせり 〇 十三いつじゅうさんピラトピラト祭司さいしの長なが有司ゆうつかさも小民たみ等らを呼よびて 十四いつじゅうよん曰いひけるハ爾曹なんぢらこの
人ひとを我われに携つれ來きたりて民たみを亂みだしたる者ものなりと爲なせり我われなんぢらが訟うたへる所ところを以もつて爾曹なんぢらの前まへに鞠まげ
も其罪そのつみあるを見みず 十五いつじゅうごヘロデヘロデも亦また然しからば爾曹なんぢらをヘロデヘロデに遣おくせむ彼かれもイエスイエスハ行事ぎやうじの死罪しつゐに當あ
を見みざりき 十六いつじゅうろく故ゆゑにわれ苦くるちて之これを釋はなさん 十七いつじゅうしち蓋さこの節期はひに必かならず一人ひとりを釋はなすことこと有あり
十八いつじゅうはち彼等かれらみな一齊ひとしくよびりて此人このひとを除のぞきバラババラバを我儕われらに釋はなせむ 十九いつじゅうきゆう彼かれハ城下じやうかに一い揆おこり
し人を殺ころして獄いどに入いりし者ものなり 二十いつじゅうに故ゆゑにピラトピラトハイエスイエスを釋はなさん欲おもひ復またかれらに曰いひしか
二一いつじゅういちかれら呼よびて之これを十字架じよじかに釘つけよ 二二いつじゅうにピラトピラト三みつ次じいひけるハ彼かれハ何なにの
惡事あくじを行せしや我われいまだ彼かれの死罪しつゐあるを見みざれば答こたへて釋はなさん 二三いつじゅうさん彼等かれら厲げいく聲こゑをたてて彼かれ
を十字架じよじかに釘つけよ言いひ募もり遂つひに彼等かれら祭司さいしの長ながの聲勝こゑかちたり 二四いつじゅうよんピラトピラトその求ねがひの如ごとく擬なて
二五いつじゅうご彼等かれらが求ねがひ一揆おこりし人を殺ころして獄いどに入いりし者ものを釋はなし其意そのこゝろに任まかせてイエスイエスを付つせり

二六 彼等イエスを曳往き田間より出來れるケレ子のシモンと云る者を執へ其に十字架を
 負せてイエスに従へせたり二七衆の民あよび婦等も從ふ婦等の彼を哭哀めり二八イ
 エス彼等を願ひひけるハエルサレムの女子よ我爲に哭なれ惟おのれ己が子の爲に哭
 二九産ざる者いまだ孕ざるの胎いまだ哺せざるの乳ハ福ありと曰ん日きたらん三十當時
 人々山に對て我儕の上に壓し陵に對て我儕を掩へと曰ん三十一もし青木にさへ如此きさ
 枯木ハ如何せられん三十二又他に二人の罪人をイエスと偕に死罪に處はんさて曳往り
 三三 彼等クラニオンと云る所に至りて此にイエス及び罪人を十字架に釘め一人をイエスの
 右一人を左に置三四イエス曰けるハ父よ彼等を赦し給へ其爲を知らざるが故なり彼等
 圖をしてイエスの衣服を分つ三五人々立てイエスを見たり有司も亦嘲哂ふて曰けるハ
 彼ハ他人を救へり若キリスト神の選たる者ならば自己を救へし三六兵卒も亦かれを嘲弄
 し來り酢を予て三七爾もしユダヤ人の王ならば自己を救へと曰り三八又ギリシヤ、ロマ、ハ
 プルの文字にて此ハユダヤ人の王なりと書る罪標を其上に建たり三九懸られたる罪人の
 一人イエスを譏て曰けるハ爾もしキリストならば己を我儕を救へ四十他の一人きたへて彼
 を責め曰けるハ爾おまじく審判を受ながら神を畏ざる乎四一我儕ハ當然をり行との報を
 受なれど此人ハ何も不是事ハ行ざりし也四二斯てイエスに曰けるハ主よ爾國に來ん時我
 を憶たまへ四三イエス答けるハ誠に我なんぢに告ん今日あんぢハ我と偕に樂園に在べ
 し四四時約そ十二時ころより三時に至まで遍く地のうへ黑暗と爲れり四五日光くら

み殿の内の幔真中より裂たり四六イエス大聲に呼り曰けるハ父よ我靈を爾の手に託
 く如此いひて氣絶ゆ四七百夫の長この成し事を見て神を崇め曰けるハ誠に此人ハ義人な
 りき四八之を觀んきて聚れる衆人みな此ありし事等を見て膺を拊て返れり四九イエスの相
 識の人々あよびガリヤより隨ひし婦ども遠く立て此等の事を見たり五十議員なるヨセ
 フと云る善かつ義ある人あり五一彼等の評議と行爲を肯へざりき是ハユダヤのアリマテヤ
 の邑の人にて神の國を慕る者なり五二此人ピラトに往イエスの屍を乞て五三之を取下し
 布にて裹いまだ人を葬し事なき石の鑿たる墓に置り五四此日ハ備節日なり且安息日
 近きぬ五五ガリヤよりイエスと偕に來りし婦たち後に隨ひて其墓と屍の置れたる狀を
 見たり五六 彼等ハへりて香物と香膏を備へ置て誠に從ひ安息日を休めり
 七日の首日の味爽に此婦たち備置たる香物を携て墓に來し他の婦等
 も偕に來れりニ彼等石の墓より轉たりしを見て三入ければ主イエスの屍を見ず四之が爲
 に躊躇をりしに輝る衣服を着たる二人その旁に立り五かれら懼て面を地に伏ければ其
 人いひけるハ爾曹何ぞ死たる者の中に生たる者を尋るや七彼ハ此に在す甦りたり彼ガ
 リヤに居しとき爾曹に語て人の子ハ必ず罪ある人の手に付され十字架に釘られ第三日に
 甦る可き云たりしを憶起し八彼等その言を憶いで九墓より歸て此等の事をみな十一の
 弟子と他の弟子等に告十此等の事を使徒に告たる者ハマゲダラのマリヤヨハンナヤコブ
 の母なるマリヤ又他に偕に在し婦等なり十一使徒その語れるを虚談と意ひて信ぜず

十二 ペテロ起て趨り墓に往かたまりて桌布のかたよせ在を見て其過ごころの事を奇みつ
 歸れり○十三 當日二人の弟子エルサレムより三里ばかり隔りたるエマナと云る村に往け
 るに十四 互に此等の所遇ごもを語あへり 十五 語り論する時にイエス自ら近きて偕に往
 り十八 然ご彼等の目迷されて知ごを待ざりき 十七 イエス曰けるハ爾曹行つ互に哀
 み談論ごご何ぞ乎 十八 その一人のクレオパと云る者答けるハ爾ハエルサレムの旅人
 にして獨ごのころ有し事を知らざる乎 十九 答けるハ何事ぞや之に曰けるハナザレのイエスの
 事なり此人ハ神ご萬民の前に於て行ご言に 大なる能ある預言者なりしが 二十 祭司の長ご
 有司等かれを死罪に解して十字架に釘たり 二一 我儕イスラエルを贖へん者ハ此人なりご
 望たりし又それ而已ならず此等の事の成しより今日ハ第三日なるに 二二 我儕の中なる或婦
 たち我儕を驚駭せり彼等朝はやく墓に往 二三 その屍を見ずして來り天 使あらはれて彼
 ハ 甦れりご云るを見たりご告 二四 また我儕と偕に在し者も墓に往たるに婦の言る如にて
 且かれを見ざりき 二五 イエス曰けるハ預言者の凡て言たる事を信する心の遅き愚なる者よ
 二六 キリストハ此等の難を受けて其榮光に入べきに非や 二七 故にモーセより凡の預言者を
 始すべての聖書に於て己に就ての事の解明されたり 二八 彼等ゆく所の村に近きけるに彼ゆ
 き過んご爲る状をなせば 二九 彼等勤め曰けるハ日 晨きて墓に及ぬ我儕と偕に止れ彼いり
 て止る 三十 共に食に就る時パンをとり謝して擘かれらに予ければ 三一 二人の者の目瞭かに
 爲て彼を識り又忽ち其目に見ず爲り 三二 彼等たがひに曰けるハ途間にて我儕と語かつ聖

書を解開ける時われらが心熱しに非ずや 三三 此時われら起てエルサレムに歸り十一の弟
 子もよび同なる人の集り居に遇 三四 その人等の曰けるハ主實に甦りシモンに現れたり
 三五 二人の者も途間にて所遇とパンを擘たまへるに因て識たる事を語れり 三六 此事を語
 れる時イエス自ら其中に立て曰けるハ爾曹安かれ 三七 かれら駭き懼れて見ごころの者
 を靈ならんご意り 三八 イエス曰けるハ爾曹何ぞ駭くや何ぞ心に疑ひ起るや 三九 我手わ
 が足を見て我なるを知られを摸て視よ靈ハ我が在を爾曹が見ごこく肉ご骨ハ有ざる也 四十
 如此いひて其手足を示せしに 四一 彼等喜べごも猶信ぜず異める時にイエス此に食物あ
 る乎と曰ければ 四二 炙たる魚ご蜜房を予ふ 四三 之を取て其前に食せり 四四 また彼等に曰け
 るハモーセの例 預言者の書また詩の篇に録されたる我事につく凡の言の必らず應べきハ
 われも爾曹と偕に在しごき語れる所なり 四五 是に於て聖書を悟せんごて其臚を啓き
 四六 曰けるハ已に斯録されたり此如キリストハ苦難をうけ 第三日に死より甦るべし 四七
 又その名に託て悔改ご赦罪ハエルサレムより始まり萬國の民に宣傳られん 四八 爾
 曹ハ此等の事の證人あり 四九 我わが父の誓のものを爾曹に遺らん爾曹上より權を授ら
 るご迄ハエルサレムに留れ 五十 イエス彼等を導きベタニヤに至り手を舉て彼等を祝す 五一
 祝する時かれらを離れ天に擧られたり 五二 彼等これを拜して甚く喜びエルサレムに歸り
 五三 恒に殿に入て神を頌美また祝謝せりアメン

新約全書路加傳福音書終

新約全書路加傳福音書
 太初に道あり道ハ神さ借にあり道ハ即ち神なり二の道ハ太初に神さ借に在き
 三萬物これに由て造らる造れたる者に一として之に由らで造られしハ無日之に生あり
 此生ハ人の光なり五光ハ暗に照り暗ハ之を曉らざりき○六借こに神の遣し給へるヨハ
 子云る者あり七その來りしハ證の爲なり即ち光に就て證を作すべての人をして己に因て
 信ぜしめんが爲なり八彼ハ光に非ず光に就て證を作ん爲に來れり九夫すべての人を照す眞
 の光ハ世に來れり十かれ世にあり世ハ彼に造れたるに世これを識す十一かれ己の國に
 來しに其民これを接ざりき十二彼を接その名を信ぜし者にハ權を賜ひて此を神の子さ爲り
 十三斯る人ハ血脈に由に非ず情慾に由に非ず人の意に由に非ず唯神に由て生れし也十四
 それ道肉體さ成て我儕の間に奇れり我儕その榮を見に實に父の生たまへる獨子の榮にし
 て恩寵と眞理にて充り○十五ヨハ子之が證を作て呼ひひけるハ我さきに我に後れ來らん者
 ハ我より優れる者なり蓋我より先に在し者なれば也と言しハ此人なり十六我儕みな彼に充
 満たる其中より受て恩寵に恩寵を加らる十七律法ハモーセに由て傳り恩寵と眞理ハイエス
 キリストに由て來れり十八未だ神を見し人あらず惟うみ給へる獨子すなハ父の懷に在
 者のみ之を彰せり○十九ユダヤ人祭司レビの人をエルサレムよりヨハ子の所に遣し爾ハ
 誰ぞと問しめけるさき證せること左の如し二十かれ諱す所なく言顯して我ハキリストに
 非ずと明かに曰り二一また問けるハ然バ爾ハ誰ぞエリヤなるか否と答ふ又あんぢハ彼の預

約翰傳第一章

自一節至廿一節

百五十九

言者ある乎と問しに然らず答たり二三是に於て彼等また問けるハ爾ハ誰なるハ我儕を道し者に我儕が答を爲得るやう我儕に告ふ爾みづから如何に謂や二三ヨハ子曰けるハ我即ち主の道を直せよと野に呼る人の聲より預言者イザヤの言るが如し二四その遣されたる人々のパリサイの人なりき二五彼等又ヨハ子に問て曰けるハ然バ爾ハキリストに非ず彼の預言者にも非ずして何ぞバプテスマを施すや二六ヨハ子答曰けるハ我ハ水を以てバプテスマを授く然バ爾曹が知る所のもの一人爾曹の中に立り二七我に後れ來りて我に優れる者ハ是なり我ハ其履の紐を解にも足ざる者なり二八此事ハヨハ子のバプテスマを施しヨルダンの外なるベタニヤにて有し也〇二九明日ヨハ子イエスの己に來るを見て曰けるハ世の罪を任ふ神の羔を觀よ三十我に後れ來らん者ハ我より優れる者なり蓋我より以前に在し者なれば也と我言しハ此人なり三一われ素より此人を識す然バ我來て水にてバプテスマを施すハ彼をイスラエルの民に顯さんが爲なり三二ヨハ子また證して曰けるハわれ靈の如く天より降りて其上に止れるを見たり三三我ハ彼を識されど我を遣し水にてバプテスマを施さしめし者われに曰けるハ爾靈くだりて其上に止るを見ん彼の聖靈を以てバプテスマをなす者なり三四我これを見て其神の子たるを證せり三五明日またヨハ子二人の弟子と偕に立三六イエスの行を見て神の羔を觀よと曰三七如此いへるを弟子聞てイエスに従ひ往り三八イエス彼等の從へるを回顧て爾曹なにを求るやと彼等に問たへてラビ何處に在るやと曰ラビを譯バ師と云の義なり三九イエス彼等に來り觀よと曰た

まひければ遂に往て其住り給ふ處を見て是日ともに住れり時ハ晝の四時ごろなりき四十ヨハ子の曰し言を聞てイエスに従へる二人の者の其一人ハシモンペテロの兄弟アンデレなり四一かれ先その兄弟シモンに遇て曰けるハ我儕メツシヤに遇りメツシヤを譯バキリストトなり四二即ち彼をイエスに携往しにイエス視て之に曰けるハ爾ハヨナの子シモンなり爾ハケバと稱らるべしケバを譯バペテロなり〇四三明日イエスがリヤヤに往んとしてピリポにあひ我に従へと曰り四四ピリポハアンデレとペテロの住るベテサイダと云る邑の人なり四五ピリポナタナエルに遇て曰けるハ我儕律法の中にモーセが載たるところ預言者等の記しところの者に遇り即ちヨセフの子ナザレのイエスなり四六ナタナエル曰けるハナザレより何の善者いでん乎ピリポ彼に曰けるハ來て觀よ四七イエスナタナエルの己が所に來るを見かれを指て曰けるハ觀よ眞のイスラエルの人にして其心詭譎なき者ぞ四八ナタナエルイエスに曰けるハ如何にして我を知たまふ乎イエス之に答て曰けるハピリポが爾を召さる先に無花果樹の下に爾の居るを見たり四九ナタナエル答て曰けるハラビ爾ハ神の子なり爾ハイスラエルの王なり五〇イエス答て曰けるハ爾が無花果樹の下に居るを我見しと言るに因て爾信するが此よりも大なる事を爾みるべし五一又いひけるハ我まことに實に爾曹に告ん天ひらけて神の使等の子の上に降降するを見ん

第三日にかリヤヤのカナにて婚筵ありしがイエスの母も此に居りニイエスと其弟子も婚筵に請る三葡萄酒罄ければ母イエスに曰けるハ彼等に葡萄酒なし四イエス彼に曰け

るは婦よ爾と我と何の與あらんや我時未だ至らず五その母僕等に向て彼が爾曹に命する所の事を行ふと曰ふけり六エダヤ人の潔の例に従ひて四五斗盛の石藪六かしこに備有しが七イエス僕等に水を囊に滿せよと曰ければ彼等口まで滿たり八又これを今挾取て持ゆき筵を司る者に與せよと曰ければ彼等わたせり九筵を司る者酒に變し水を嘗て其何處より來しを知らず然と水を挾し僕に知り十筵を司る者新耶を呼て彼に曰ける凡そ人のまづ旨酒を進し酒酣なるに及て旨酒を進し爾旨酒を今まで留めけり十一此事をイエスがかりラヤのカナにて行るの休徴の始にして其榮を顯せり弟子かれを信す

○十二 此後イエスその母兄弟および弟子等カペナウンに下り其處に居ること久からずして十三 エダヤ人の逾越 節ちかつきければイエスエルサレムに上り十四 殿にて牛羊鴿を賣者と兌銀する者の坐せるを見十五 繩をもて鞭をつくり彼等および羊牛を殿より逐出し兌銀する者の金を散し其案を倒し十六 鴿を賣者に曰ける此物を取て往わが父の室を貿易の家とする勿れ 十二弟子等あんぢの室の爲に熱心われを蝕んと録されたるを憶起せり十八 此にエダヤ人こたへてイエスに曰ける爾これらの事を爲からに我儕に何の休徴を示るや 十九 イエス 答て爾曹の殿を毀て我三日にて之を建んといければ二十 エダヤ人いひける此殿を建るに四十六年を経しに 爾三日にて之を建るか 二十一 イエスの如此いへる其身の殿を指るなり 二三 死より甦り給へる後弟子たちイエスの此事を語しを憶起し聖書と彼の曰し言を信せり 二三 倍イエス逾越 節にエルサレムに在しに多

の人かれの行し休徴を見て其名を信せり 二四 イエス自己を彼等に托す蓋すべての人を知

第二節

ユダヤ人の宰にてパリサイのニコデモと云る人ありニかれ夜イエスに來て曰ける

ハラビ我儕なんぢの神より來し師なりと知そ神もし人と偕ならずば爾が行るこの休徴の人これを行ふこと能されば也 三 イエス 答て曰ける誠に爾に告ん人もし新に生ずば神の國を見よと能はじ 四 ニコデモ彼に曰ける人ばや老ぬれば如何で復生る事を得んや再び母の腹に入て生る可んや 五 イエス 答ける誠に實に爾に告ん人もし新に生ずて生ざれば神の國に入ること能ざる也 六 肉に由て生る者肉なり靈に由て生る者靈なり 七 我なんぢに新に生るべき事を言しを奇と爲なかれ 八 風は己が任に吹なんぢ其聲を聞ども何處より來り何處へ往を知らず凡て靈に由て生る者も此の如し 九 ニコデモ 答て如何で此事あらん乎と曰 十 イエス 答て曰ける爾ハイスラエルの師なるに猶この事を知ざる乎 十一 誠に實に爾に告ん我儕知し事をいひ見し事を證するに爾曹ハ我儕の證を受す 十二 若われ地の事を言に爾曹信ぜずば況て天の事を言んに何で信するこを爲んや 十三 天より降り天に在る人の子の外に升し者なし 十四 モーセ野に蛇を擧し如く人の子も擧らるべし 十五 凡て之を信する者に亡ること無し 永 生を受しめんが爲なり 十六 それ神ハ其生たまへる 獨子を賜はごに世の人を愛し給へり此ハ凡て彼を信する者に亡るを無して 永 生を受しめんが爲なり 十七 神の其子を世に遣し給へるハ世を審判んとに非ず彼に

由て世を救んが爲なり十八 彼を信する者ハ審判れず信せざる者ハ既に審判れたり蓋神の生
たまへる獨子の名を信せざるに因十九 罪の定る所以ハ光世に臨し一人その行の惡に因
て光を愛せず反て暗を愛すれば也二十 凡て惡をなす者ハ光を惡み其行を責られざらん
が爲に光に就らず二 眞理を行ふ者ハ其行の顯れんが爲に光に就る蓋神に遊て行へば
也〇二三 此後イエス弟子ユダヤの地に至り偕に彼處に留りてバプテスマを施す二三ヨハ
子も亦サリムに近きアイノムに在てバプテスマを施す彼處ハ水おほきが故なり人々來り
てバプテスマを受たり二四 此時ヨハ子ハ未だ獄に入られざりき二五 ヨハ子の弟子ユダヤ
人ハ潔事に就て争辨ありけるが二六 彼等ヨハ子に來りて曰けるハラビ視ム爾と偕にヨル
ダンの外に在て爾が證せし者バプテスマを施すに皆われに來れり二七 ヨハ子答て曰け
るハ人は天より賜ふに非ざれば受ること能ざる也二八 我ハキリストに非ず惟その先に遣さ
れし者なりと言し事を證する者ハ爾曹なり二九 新婦をもてる者ハ新郎なり新郎の友たうて
其聲を聞ハ之に縁て喜ぶ多し我ハ此喜ぶ満ることを得たり三十 彼ハ必ず盛んになり
我ハ必ず衰ふべし三一 天上より來る者ハ萬物の上におり地より出る者ハ地に屬その言さ
ころも地の事なり天より來る者ハ萬物の上におり地より出る者ハ地に屬その言さ
さ爲に其證を受る者なし三三 其證を受し者ハ印をもて神の眞なる事を證す三四 神の遣
し者ハ神の言を語る蓋神これに靈を賜ひて限量をければ也三五 父ハ子を愛して萬物を其
手に授たり三六 子を信する者ハ窮なき生命をえ子に従ハざる者ハ生命を見んことを得じ且

神の怒その上に留らん

王ものれの弟子を收ること又バプテスマを施せることヨハ子よりも多しとパリサ
イの人の聞しを知然と其實ハイエス自らバプテスマを施せるに非ず弟子これを行るなり
三 其時ユダヤを去て復かりラヤに往四 サマリヤを経ずして行こと能ず 五 遂にサマリヤの
カルミ云る邑に至れり此邑ハヤコブの子ヨセフに予し地に近し六 此にヤコブの井ありイ
エス行途の疲倦にて其井の傍に坐せり時晝の十二時ごろなり七 一人のサマリヤの婦
水を汲んきて來りければイエスその婦に向て我に飲せよと曰八 蓋弟子たる食物を買ん
ために邑へ往て在ざりし故なり九 サマリヤの婦ハひけるは爾ハユダヤ人にして何ぞサマリ
アの婦なる我に飲んことを求るや此ハユダヤ人とサマリヤの人とは交際を爲ざれば也 十 イエ
ス答て曰けるハ爾もし神の賜を我に飲せよといふ者の誰あるを知らば爾われに求めん然
ば活水を爾に予ふべし十一 婦 イエスに曰けるハ主よ汲器をく井も亦深し爾何處より
汲て其活水を有るか 十二 この井ハ我儕の先祖ヤコブの予し所なり彼も其子も亦畜まで
も皆これを飲たり爾ハ彼よりも勝れし者ならん乎 十三 イエス答て曰けるハ凡て此水を飲
者ハまた渴ん十四 然と我がたふる水を飲者ハ永遠かわく事なし且わが予ふる水ハ其中に
て泉となり湧出て永 生に至るべし十五 婦ハひけるハ主よ我が渴くことなく亦この處に
水を汲に來らぬ爲その水を我に予へよ 十六 イエス曰けるハ爾ゆきて夫を呼來れ 十七 婦ハこた
へて曰けるハ我に夫なしイエス曰けるハ夫なしと言るハ理なり十八 蓋なんぢ曩に五人の

夫ありて今ある者ハ爾の夫に非ず爾の言シハ眞なり十九 婦いひけるハ主よ我なんぢを預言者ぞ知り二十 我儕の列祖ハ此山にて拜シテ爾曹ハ拜すべき所ハエルサレムなりと曰二一 イエス曰けるハ婦よ我を信ぜよ唯に此山にのみ非ず亦エルサレム而已にも非ずして爾曹父を拜すべき時きたらん二三 爾曹の拜する者を爾曹ハ知す我儕の拜する者を我儕ハ知そハ救ハエダヤ人より出るガ故なり二三 眞の拜する者靈を以て父を拜する時きたらん今その時になれり夫父ハ是の如く拜する者を要め給ふ二四 神ハ靈なれば拜する者もまた靈と眞をもて之を拜すべき也三五 婦いひけるハキリストと稱るメツシヤの來らん事を知れ來らん時 凡の事を我儕に告んニ六 イエス曰けるハ爾と語る所の我ハ其なり二七 時に弟子きたりて彼の婦と語れるを奇みけれと其何を求るや又なに故これと語れるハ問る者も無り二八 婦その水瓶を遺して邑にゆき人々に曰けるハ二九 我すべて行し事を我に告し人を來りて觀よ此ハキリストならず乎三十 是に於て人々邑を出てイエスの所に來る三一 その間に弟子かれに請てラビ食し給へと曰けれ二三 イエス彼等に曰けるハ我に爾曹の知ざる食物あり二三 弟子たがひに曰けるハ食物を彼に饋し者ハ誰なる乎三四 イエス彼等に曰けるハ我を遣し者ハ其の旨に隨ひ其工を成畢る是わが糧なり三五 なんぢら獲時 なるにハ猶四ヶ月ありと云すや我なんぢらに告ん目を擧て觀よハや田ハ熟て獲時 になれり三六 彼等の者ハ其工錢を受て永生に至るべき寶を積む斯て播者と獲者と共に喜ばん三七 彼の播これハ獲と云るハ之に就て眞あり三八 我なんぢらの勞せざりし所を獲せんとして爾曹を遣

せり他の人々勞せしにより爾曹ハ其勞したる果を受たり三九 かの婦わが行し凡の事を彼われに告しと證せし言に因て其邑のサマリア人ハよくイエスを信ぜり四十 是に於てサマリアの人イエスの所に來りて偕に留り給ハん事を求しがバイエス此に二日留れり四一 彼の言に因て信ぜし者前よりも多かりき四二 かれら婦に曰けるハ今なんぢの言し事に因て信するに非ず我儕みづから聞て此ハ誠に世の救主と知たれば也四三 二日過ぎてイエス此を去ガリラヤに往り四四 蓋かれ自ら預言者ハ本土にて尊ぶる事なしと言しに因 四五 ガリラヤに至りし時ガリラヤの人々彼を接たり蓋さきに節筵の時イエスのエルサレムにて行ひし凡の事を彼等もその節筵に往て之を見たれば也四六 イエス復ガリラヤのカナに至る此ハ蓋に水を酒に爲し處なり時に王の大君その子病に係てカペナウンに在ければ四七 イエスのエダヤよりガリラヤに來れる事をきき即ちイエスの所に往てカペナウンに下り其子を醫し給ハんことを請りそハ瀕死なりければ也四八 イエス彼に曰けるハ爾曹休徵と異能を見ずば信ぜじ四九 彼曰けるハ主よ我子の死ざる先に下り給へ五〇 イエス曰けるハ往なんぢの子ハ生るなり其人イエスの曰し言を信じて去ぬ五一 下る時その僕等かれに遇て告けるハ爾の子ハ生るなり五二 彼その愈はじめし時を彼等に問ければ答て昨日の晝の一時に熱さめたりと曰五三 父ハイエスの 爾ガ子ハ生る也と言たまひし時と其時の同きことを知て已そ其全家こまかく皆信ぜり五四 この第二の奇 跡ハイエスエダヤよりガリラヤに至て行るなり

第五節 厥後エダヤ人の筋筵ありければイエスエルサレムに上れりニエルサレムの羊門の邊にヘブルの方言にてベテスマさいふ池あり此池に五の廊あり三その中に病者、跛者、跛者また衰たる者なご多く臥て水の動を待り四そは天の使時々池に下て水を動すとあり水の動るのち先ちて池に入し者何の病によらず愈たり五三十八年病たる者一人かしこに在オイエス彼が臥るを見て其病の久を知これに曰ける愈んことを欲ふや七病る者たへける主よ水の動るさき我を扶て池に入る人なし我いらんとする時他の人くだりて我より先に入オイエス彼に曰ける起よ床を取取て行め九その人立刻に愈すなち床を取取て行めり此日の安息日なりき十エダヤ人いえし者に曰ける今日安息日なれば爾床を取取ハ宜からず十一彼等に答ける我を愈し者われに床を取取て行めり十二かれら問ける爾に床を取取て行めり言し人誰なるぞ乎十三愈し者その誰なるを知らり蓋しこに多の人をりし故イエス避たれば也十四厥後イエス殿に其人に遇いひける視よ爾すで愈たり復罪を犯こと勿れ恐る前に勝る災禍なんちに罹ん十五其人ゆきてエダヤ人に己を愈し者ハイエスなりと告十六是に於てエダヤ人イエスを窘迫て殺さんと謀る蓋かれが此事を行しハ安息日なりければ也十七イエス彼等に答ける我父ハ今に至るまで働き給ふ我もまた働くなり十八此に因てエダヤ人いよくイエスを殺さんと謀るそは安息日を犯すのみならず神を己が父といひ己を神と齊すればなり十九是故にイエス彼等に答て曰ける誠に實に爾曹に告ん子ハ父の行ふ事を見て行

ふの外何事をも行ふこと能す蓋すべて父の行ふ事子も亦行へばなり二十父ハ子を愛し凡て己の行ふ所の事を彼に示す爾曹をして奇ましめん爲にかの事等より更に大なる事を彼に示さん二一その父の死し者を甦らせて生しむるが如く子も己の意に従ひて人を生しむべし二三それ父ハ誰をも鞠す審判ハ凡て子に委たり二三是すべての人をして父を敬ふ如く子をも敬はしめんが爲なり子を敬はざる者ハ之を遺し父を敬はず二四誠に實に爾曹に告ん我言をきく我を遺し者信する者ハ永生を有かつ審判に至らず死より生に遷れり二五誠に實に爾曹に告ん死し者神の子の聲を聞き來らん今その時になれり之を聞者ハ生べし二六その父ハ自ら生を有り其如く子にも賜て自ら生を有たせたり二七また人の子あるに因て之に審判するの權威を賜へり二八之を奇き爲こと勿そは墓に在者みな其聲を聞いて出るさき來んとすれば也二九善事を行し者ハ生を得に 甦り 惡事を行し者ハ審判を得るに 甦るべし三十われ何事をも自ら行ふと能す聞さるるに 避ひて審判す我審判ハ公平そハ我わが意を行ふとを求す我を遺さる父の意を行ふことを求めばなり三十一もし我事を我みづから證せば我證ハ眞ならず三二別に我事を證する者あり我その我事を證する證の眞なるを知三三あんちら露に人をヨハ子に遺しに彼眞理の爲に證を作せ三十四然ぞわれ人の證を受す此事を言ハ爾曹の救れしが爲なり三五ヨハ子は燃て光れる燈なり爾曹このみて暫く其光を喜べり三六我ハヨハ子より大なる 證あり蓋父の我に賜て成遂しむる事すなばち我行ふ所の事ハ是父の我を遺ししことを證すればなり三七且われ

を遣し父も我もここに證せり爾曹いまだ其聲を聞ず未だ其形を見ず三八その道の爾曹の心に存ざりき蓋なんぢら其遣し者信せざるに因て知る也三九なんぢら聖書に永生ありき意て之を探索この聖書の我について證する者なり四十爾曹わが所に生を得んがため來るを欲す四一われ人の榮を受す四二われ爾曹を知らんぢら其心に神を愛するの愛あらざる也四三我の吾父の名に榮て來しに爾曹われを接すし他の人もの名に榮て來る爾曹これを接し四四爾曹互に人の榮を受て神より出る榮を求ざる者なるに何で能信するここを得んや四五爾曹を父に訴る者我を意ふ勿れ爾曹を訴るもの一人あり即ち爾曹が恃まるところのモーセなり四六若モーセを信せば我を信すべし蓋モーセ我事を書たればなり四七若モーセの書し事信せず何で我言しことを信せんや

此後イエスガリラヤの湖すなはちテベリアの湖の前岸へ濟しに二許多の人々これに隨ふ蓋彼が病し者に行し休徵を見しが故なり三イエス山に上り弟子と偕に其處に坐せり四時エダヤ人の踰越の節に遷し五イエス目を擧て多の人の來れるを見てピリボに曰けるは何處よりパンを市て彼等に食しむ可か六自ら其爲んとする事を知ざ彼を試んが爲に如此いへる也七ピリボ答ける銀二百のパンも人ごとに少づ予てなほ足ざるべし八弟子の一人即ちシモンペテロの兄弟アンデレイイエスに曰けるは九此に一人の童子あり蓋麥のパン五と小魚二とを有り然しこの許多の人に如何すべきぞ十イエス曰けるは人々を坐せよ其處に多の草あり約五千五百人ば坐ぬ十一イエスパンをとり祝謝

て弟子に予へ弟子これを坐し人に予ふ又此の如にして小魚を人々の欲に隨ひて彼等に與たり十二みな飽たる後イエス弟子に曰けるは少も廢はざるやうに其餘の屑を拾集めよ十三彼等が食せし彼五の餘遺の屑を拾集ければ十二の筐に盈り十四人々イエスの行し奇跡を見て此の誠に世に臨るべき預言者なりと曰十五是に於てイエス彼等が來り己を執て王に爲んとするを知らず獨にて之を避ふたゞび山に入たり十六日の暮るころ弟子海に下りて十七舟に登カペナウンに向て海を濟る既に暮れどもイエス彼等に就す十八狂風ふくに因て漸に海あれいだせり十九一里十町ばかり漕出せる時イエスの海を行み舟に近くを見て弟子たち懼たり二十イエス曰けるは我なり懼る勿れ二一是に於て弟子喜びて彼をうけ舟に登れば直に其往んとする所の地に着ぬ〇二三明日かなたの海岸に立し人々昨日弟子の登し舟の外に舟なく且イエスは弟子と偕に舟に登り弟子のみ往るを知二三此時テベリアより外の舟きたり主の祈りて人々にパンを食しよ所の近に著り二四人々イエスの此に在り弟子も亦在ざるを見て彼等も舟に登りイエスを尋ん爲にカペナウンに至れり二五潮の海岸にて彼に遇曰けるは何時ここに來り給ひし乎二六イエス答て曰けるは誠に實に爾曹に告ぐ爾曹の我を尋るは休徵を見し故に非たゞパンを食して飽たるが故なり二七なんぢら壞る糧の爲に勞かずして永生に至る糧すなはち人の子の予る糧の爲に勞くべし蓋父の神に印して證すれば也二八是に因て人々イエスに曰けるは我儕如何なる事を行す神の工に爲べき乎二九イエス答て彼等に曰けるは

神の遣しし者を信するハ即ち其工なり三十 彼等いひけるハ我儕をして爾を信せしむる爲に
 何の休徴を爲して我儕に示るや何の工を行ふや三一 我儕の先祖野にてマナを食へり録して
 天よりパンを彼等に賜へて食しむる有が如し三二 イエス曰けるハ誠に實に爾曹に告ん天
 よりパンを爾曹に賜し者ハモーセに非ず今わが父ハ天より眞のパンをもて爾曹に賜ふ 三三
 神のパンハ天より降りて生命を世に賜るもの也三四 彼等いひけるハ主ハ恒に其パンを我儕
 に予ふ 三五 イエス曰けるハ我ハ生命のパンなり我に就る者ハ飢す我を信する者ハ恒に渴こ
 さなし 三六 然る我なんぢらガ我を見ても信せざる事を爾曹に告たりき 三七 凡て父の我に賜
 し者ハ我に就らん我に就る者ハ我かならず之を棄す 三八 わが天より降り降りしハ己の意の任を行
 りん爲に非ず我を遣しし者の意のまゝを行らん爲なり 三九 凡て父の我に賜し者なわれ一を
 も失はず 末日に之を甦らすハ即ち我を遣しし父の意なり 四十 凡そ子を見て之を信する者ハ
 永 生を得われ復これ末の日に甦らすべし是れを遣しし者の意なればなり 四一
 是に於てユダヤ人等イエスの我ハ天より降り降りし言しこきにつき 四二 譏いひける
 ハ彼ガ父母ハ我儕の識さるるならずや即ち彼ハヨセフの子イエスに非ずや然るに何ぞ我ハ
 天より降り降りし言や 四三 イエス 答て曰けるハ爾曹たがひに譏こき勿れ 四四 我を遣しし
 父もし引されば人よく我に就るなし我に就し人ハ末日に我これを甦らすべし 四五 預言
 者の書に人みな教を神に愛ん録されたり是故に凡て父より聽て學し者ハ我に就る 四六 然
 る父を見し者ハなし惟神より來る者のみ之を見たり 四七 誠に實に我なんぢらに告ん我を

信する者ハ永 生あり 四八 我ハ生命のパンなり 四九 爾曹の先祖ハ野にてマナを食し
 る死り 五十 凡て食者をして死ざらしむる者ハ天より降り降りるパンあり 五一 我ハ天より降り
 生るパンなり若人此パンを食ハば窮なく生べし我あたふるパンハ我肉なり世の生命の爲
 に我これを賜へん 五二 爰にユダヤ人たがひに争ひ曰けるハ此人いッ其肉を我儕に賜て
 食ハしむる事を得ん乎 五三 イエス曰けるハ誠に實に爾曹に告ん若し人の子の肉を食す其
 血を飲ざれば爾曹に生命なし 五四 わが肉を食わば血を飲者ハ永 生あり 我末の日に
 之を甦らすべし 五五 夫わが肉ハ誠の食物また我血ハ誠の飲物なり 五六 わが肉を食ハば我血
 を飲者ハ我に在り我も亦これに居 五七 生る父われを遣す父に由て我生る如く我を食ふ者も
 我に由て生べし 五八 此天より降り降りるパンなり爾曹の先祖ガ食たれど尙死しマナの如きも
 のに非ず此パンを食ふ者ハ窮なく生べし 五九 此等の事ハイエスカペナウンの 會堂にて教
 を爲るまき言し所なり 六十 弟子等のうち多の人これを聞て曰けるハ此は甚しき言なり誰
 か能これを聽んや 六一 弟子の此言について譏をイエス 自ら知て彼等に曰けるは 此言
 に因て礎く乎 六二 もし人の子の故の處に 升を見れば如何 六三 生命を賜る者ハ眞なり肉ハ益
 なく我なんぢらに曰し言ハ眞なり生命あり 六四 然る爾曹の中に信せざる者あり夫イエスの
 如何いへるハ信せざる者ハ誰ものれを賣す者ハ誰さいふ事を元始より知ばなり 六五 イエス
 また曰けるハ是故に我さまに我父あたへざれば人よく我に就るなしと言しなり 六六 此後そ
 の弟子もほく返往てイエスと偕に行かざりき 六七 之に因てイエス十二の弟子に曰けるハ

爾曹も亦去んじ意ふや六八シモンペテロ答ける主よ我儕ハ誰に往んや永生の言
 を有る者ハ爾なり六九又われら信じて知なんぢハ活る神の子キリストなり七十イエス彼等
 に答けるは我なんぢら十二人を簡しに非すや然と其中の一人は悪魔なり七一此ハシモン
 の子イスカリオテのユダを指て言るなり彼ハ十二の一人にしてイエスを賣さんとする者な
 り

斯事の後イエスガリラヤを經行リユダヤの中を巡ることを欲ざりき蓋ユダヤ人
 れを殺さん謀れば也二倍ユダヤ人の構慮の節ちかつけり三是に於てイエスの兄弟
 かに曰けるハ爾の行ふ所の事を弟子等に見せんが爲此を去てユダヤに往蓋己を顯
 さんとして隠に事をなす者あらず爾これらの事を行ハ己を世に顯せよ五是の兄弟も
 なほ彼を信ぜざるが故なり六イエス彼等に曰けるハ我時いまだ至す爾曹の時ハ恒に備はれ
 り七世ハ爾曹を惡し能す我を惡そハ彼等が行ふ所の惡し我證すればなり八爾曹この
 節に上れ我時いまだ至らざれば我いまだ此節に上らじ九如此いひてガリラヤに留れり十兄
 弟の往し後イエスも昭然ならずして隠に節に上る十一節の時ユダヤ人イエスを尋て曰け
 るハ彼は何處に在や十二衆多の中に於て彼につき各様のとを言爭へり或人ハ彼を善人なり
 さいひ或人ハ否民を惑す者なりと曰十三然ともユダヤ人を懼るに因て明に彼が事をいふ人
 なし十四節筵の半ころイエス殿に上りて教誨ければ十五ユダヤ人これを奇み曰けるハ此
 人の未だ學ばず如何して書を識や十六イエス彼等に答て曰けるハ我教する所の我教に非

す我を遣しし者の教なり十七人もし我を遣しし者の旨に従ハと此教の神より出る又己
 に由て言なるかを知べし十八己に由て言者己の榮を求るなり己を遣しし者の榮を求
 る者ハ眞なり其衷に不義なし十九モーセ爾曹に律法を與しに非すや然と爾曹の中に之を
 守る者なし爾曹なにゆゑ我を殺ん謀るや二十衆人答へて曰けるハ爾鬼に憑たり誰か
 爾を殺すことを謀らん乎二一イエス答て彼等に曰けるハ我さきに一事を行しに爾曹み
 な奇とせり二二モーセ爾曹に割禮を授し其己より出しに非して先祖より出し者なる
 故なり之に因て爾曹割禮を安息日に行ふ二三人もしモーセの律法を破ざらんがため安
 息日に割禮を受る時ハ何ぞ我安息日に人の全身を愈しし事を怒るや二四外貌によりて審
 判する勿れ義審判をもて審判せよ二五此時エルサレムの或人曰けるハ此ハ人々の殺ん
 謀る者に非すや二六今ハ明にいふ而して之を尤る者なし有司等ハ彼を誠にキリスト
 なりぞ知ならん乎二七然と我儕ハ此人の何處より來しを知もしキリストの來らん時ハ誰も
 其何處より來るを知者なからん二八此時イエス殿にて教をりしが大聲に叫ひけるハ爾曹
 われを知らず我いづこより來るを知されど我ハ己に由て來しに非す我を遣しし者ハ眞なる
 者にて爾曹の知ざる所あり二九我ハ彼を知そハ我ハ彼より出彼ハ我を遣しし者されば也
 三十是に於て彼等イエスを執へん謀れり然と其時いまだ至ざるが故に措手する者あかり
 き三民の中あはくの人ハこれを信じ曰けるハキリストの來らん時その行ころの休徴この
 人より多らん乎三三パリサイの人民等のイエスに就て如此ひそかに語あふを聞すなハ

ち祭司の長等さパリサイの人と彼を執んきて下吏を遣せり三是に於てイエス曰ける我
 なほ片時なんぢらと儲に在り而して後われを遣し者往ん三四なんぢら我を尋るるも遇
 べからず我を尋る所へ爾曹きたること能ざるべし三五エダヤ人相互に曰ける我儕の遇さ
 らん爲に彼何處へ往んとする乎ギリシヤに散し者往てギリシヤの人を教んとする乎
 三六彼が語て爾曹われを尋るるも遇べからず又わが在所へ爾曹來ること能ざる可き曰
 し言何ぞや〇三七節筵の末の大日にイエス立て呼り曰ける人もし渴ば我に來て飲
 三九我を信する者の聖書に録し如く其腹より活水の如に流出べし三九此如いへる
 彼を信する者の受んとする靈を指るなり蓋イエス未だ榮を受ざるに因て靈いまだ降され
 ばなり四十民の中にて多の人この言を聞て此誠に彼預言者なりと曰四一或ハ斯ハキリス
 トありと曰あるひハキリストハガリラヤより出べけんや四二聖書にキリストハダビデの裔
 にてダビデの住し郷ベテレムより出んと録しに非ずやと曰四三是に於て民も彼に縁
 て争ひ別たり四四その中に彼を執んとする者も有けれと措手せし者なかりき四五下吏も
 祭司の長さパリサイの人等の所に返けれと彼等下使に曰ける何ぞ彼を曳來らざる乎四六
 下吏たへて曰ける未だ斯人の如く言し人あらず四七パリサイの人いひける爾曹も亦
 惑されし乎四八有司またパリサイの人の中に彼を信する者あらんや四九法律を識ざる此
 衆の人ハ罰すべき者なり五十その中の一人にて夜イエスに就しニコテモと云る者かれら
 に曰けるハ五一其人に聽す其行を知ざる先に之を審判ハ我儕の律法ならん乎五二彼等こ

たへて曰けるハ爾も亦ガリラヤより出し者なるか考見よ預言者ハガリラヤより出ること
 なし五三是に於て各人家に歸れり

第八章

イエス橄欖山に往り二昧爽また聖殿に入けるが民みな彼に來ければ坐て
 彼等を教ふ三爰に姦淫を爲るるとき執られし婦ありけるが學者さパリサイの人これをイエス
 の所に曳來り群集の中に置いひけるハ四師よ此婦ハ姦淫を爲る時そのまゝ執られし者
 なり五此の如き者を石にて撃殺すべしとモーセ律法の中に命じたり汝ハ如何に言や六如此
 いへるハイエスを試て訟の由を引出さん欲るなりイエス身を屈め指にて地に畫り
 七彼等が切に問によりイエス起て之に曰けるハ爾曹のうち罪なき者まづ彼を石にて撃べし
 と曰八また身を屈て地に畫り九彼等これを聞て其良心に責られ老者ははじめ少者ま
 で一々に出往たどイエス一人のころ婦の集の中に立り十イエス起て婦に曰けるハ婦
 爾を訟し者ハ何處へ往しや爾の罪を定る者なき乎十一婦いひけるハ主よ誰もなしイエ
 ス彼に曰けるハ我も爾の罪を定す往て再び罪を犯す勿れ〇十二イエスまた人々に語て曰
 けるハ我ハ世の光なり我に從ふ者ハ暗中を行す生の光を信なり十三是に於てパリ
 サイの人いひけるハ爾ハ自ら己の證をなせり爾の證ハ眞ならず十四イエス答て曰
 けるハ我みづから己の證するも我證ハ眞なり蓋われ何處より來り何處へ往を知ば
 なり爾曹わが何處より來り何處へ往を知ざるなり十五爾曹ハ肉に循て人を審判く我ハ人を
 審判かず十六我もし審判ば我審判ハ眞なり蓋われ獨あるに非ず我を遣し父と同一に在

たり 十七 二人の證の眞なりと爾曹の律法に録されたり 十八 わが證をする者、我なり我を
 遣し、父も亦わが證を爲なり 十九 彼等いひける、爾の父の何處に在やイエス答けるは爾
 曹の我を識す亦わが父をも識ざるなり 若われを識たるなら、我父をも識たるならん 二十
 エス此等のことを殿のうち、賽銭の箱を置く處にて語けれ、彼の時、いまだ至されば、誰も手
 出す者なかりき 二十一 エス復いひける、我ゆかん、爾曹の我を尋べし、爾曹のれの罪に死ん
 我ゆく所へ、爾曹きたること能ざるなり 二三 之に由てエダヤ人いひける、我ゆく所へ、爾曹
 きたること能すと言ひ、彼は自殺せんとする乎 二三 エス彼等に曰ける、爾曹の下より出
 われ、上より出なんぢら、此世より出われ、此世より出ず 二四 是故に爾曹の己の罪に死
 ん、我いひしなり、爾曹も、我の彼なるを信ぜず、己の罪に死ん 二五 彼等いひける、爾曹の誰
 なるや、イエス曰ける、我の實に我なんぢらに告る所の者なり 二六 我なんぢらに就て語る可
 こと、審判く可こと、多端あり、我を遣し、者、眞なり、彼に聞し事を、我世に告 二七 此の父を指
 て言るなれど、彼等の知ざりき 二八 是故にイエス彼等に曰ける、爾曹の子を擧し、のち、我の
 彼なるを、知また、我みづから、何事も、行す、惟わが父の教に、從ひて、此等の事を、言るを、知べし
 二九 我を遣し、者、我と、同に、あり、父の我を、獨遣たま、す、蓋われ、恒に、彼の心に、適ふ事を、行へば
 あり 三十 エス此事を、言るとき、多の人、かれを、信ぜり 三一 エス己を、信ぜし、エダヤ人に、曰け
 る、爾曹も、し、我道に、居ば、誠に、我弟子なり 三二 眞理を、識ん、眞理、爾曹に、自由を得、さす
 べし 三三 彼等、こたへける、我儕、アブラハムの裔なり、未だ、人の、奴隷と爲し、ことなし、爾曹に

自由を得、さすべしと、爾の言し、如何なる事ぞ 三四 エス彼等に曰ける、誠に、實に、爾曹に
 告ん、凡て、惡を行ふ者、惡の、奴隷なり 三五 奴隷、恒に、家に、居す、子、恒に、居 三六 是故に、子も、し
 爾曹に、自由を、賜なば、爾曹、誠に、自由を得べし 三七 我なんぢら、アブラハムの裔あるを、知
 されども、我を、殺んと、謀る、蓋わが道なんぢらの、裏に、在されば、也 三八 我の、我父と、偕に、在て、見し
 ことを、言さん、ぢら、爾曹の、父と、偕に、在て、見し、ことを、行ふ 三九 彼等、こたへて、イエスに、曰け
 る、我儕の、父、アブラハムなり、イエス曰ける、爾曹も、し、アブラハムの子ならば、アブラハム
 の、行をも、こなふべし 四十 然るに、今、なんぢら、神に、聞し、眞理を、告る、我を、殺さん、謀る、是、ア
 ブラハムの、行に、非ず 四一 爾曹、爾曹の、父の、行をも、こなふ、也、かれら、曰ける、我儕、奸淫に、由て
 生れ、す、只、一人の、父あり、即ち、神なり 四二 エス、彼等に、曰ける、神も、し、爾曹の、父あらば、爾曹、わ
 れを、愛すべし、我の、神より、出て、來れば、なり、夫われ、己に、由て、來るに、非ず、神われを、遣し、給
 へる、なり 四三 爾曹、なんぞ、我いふ、言を、知ざるや、蓋わが、道を、聽、ことを、得ざれば、也 四四 爾曹、己
 が、父ある、惡魔より、出、また、其父の、慾を、行ふ、ことを、欲む、彼は、始より、人を、殺す者なり、又、眞理に、居
 す、蓋、かれの、哀に、眞理を、ければ、也、かれが、証を、言さき、己より、出して、言なり、蓋、かれの、証
 者、また、証者、の、父、あれば、也 四五 われ、眞理を、言に、因て、爾曹、われを、信ぜず 四六 爾曹の、うち、誰
 か、我を、罪に、定る者ある乎、われ、爾曹に、眞理を、語るに、何故、われを、信ぜざる乎 四七 神より、出し、者
 神の、言を、聽なんぢらの、聞ざる、神より、出ざるに、因て、なり 四八 エダヤ人、こたへて、曰ける、
 爾ハ、サマリヤの人にて、鬼に、憑たる者なり、と、我儕が、言る、宜あら、す乎 四九 エス、答て、曰け

る我の鬼に憑たる者に非ず我の吾父を尊び爾曹の我を輕んずる也五十我の自己の榮を求めず之を求む審判する所の者なり五一われ誠に實に爾曹に告ん人もし我道を守らざる者なく死を見ざるべし五二ユダヤ人かれに曰ける今われら爾が鬼に憑たる者なるを知らずアブラハム既に死また預言者も死然るに爾いふ人もし我道を守らば窮なく死じざる五三爾の我儕の先祖アブラハムよりも優れる者ならん乎アブラハム既に死預言者たちも死り爾みづからを誰と爲す五四イエス答ける我もし自ら榮をなさば我榮の虚し我を榮る者我父すなはち爾曹の我神と稱する所の者なり三五爾曹の彼を識す我の彼を識る我もし彼を識すと言ふ爾曹の如き証者と爲ん然るに我の彼を識すまた其言を守る者五十六爾曹の先祖アブラハム我日を見んことを喜び且これを見て樂めり五十七ユダヤ人かれに曰ける爾いまだ五十にも及ざるにアブラハムを見しや五十八イエス彼等に曰ける誠実に爾曹に告ん我のアブラハムの有ざりし先より在者なり五十九是に於て衆人かれを撃んとて石を取りイエス隠て其中を過り殿を出行り

第六節 イエス行きき生來なる譬を見しが二その弟子かれに問て曰けるハラビ此人の譬に生し誰の罪なるや己に由り又一親に由り三イエス答ける此人の罪に非ず亦その二親の罪にも非ず彼に由て神の作爲の顯れんため也四晝の間我がならず我を遣し者を行をなす可なり夜きたらん其とき誰も行をなすこと能はず五われ世に在時ハ世の光なり六此事を言て地に唾し唾にて土を和その泥を譬者の目に塗七彼に曰けるハシロアムの

池に往て洗へ彼すなりち往て洗ひ目見んことを得て歸れりシロアム之を謂ハ遣されし者この義なり八隣の人々あふび素より彼の乞食なりしを見し者等いひけるは此の坐て物を乞し人ならず乎九或人かれに曰ある人ハ似たる也といふ彼いひける我の彼なり十彼等いひけるハ爾の目ハ如何して啓たるや十一答て曰けるハイエスといふ人土を和わが目に塗て云シロアムの池に往て洗ひ我ゆきて洗ければ目見んことを得たり十二人々かれに曰けるハ彼ハ何處に在や答て知らず十三彼等この譬なりし者をパリサイの人の所に携詣れり十四土を和てイエス彼が目を啓し日ハ安息日なりき十五パリサイの人も彼に問けるハ爾の目ハ如何して啓たるや答けるハ彼泥を我目に置われ其を洗て見んことを得たり十六或パリサイの人いひけるハ此人安息日を守ざるが故に神より出しに非ず或人いひけるは罪人いかで斯る奇跡を行ふことを得んや是に於て彼等あらそひ別たり十七また譬者に曰けるハ爾の目を啓しにより爾かれの事を何と言や答けるハ彼ハ預言者なり十八ユダヤ人かれの譬者なりしに見得やう爲しことを其二親を呼來るまでハ信ぜず即ち二親を呼來りて十九之に問けるハ此人ハ譬者にて生しと言ふことハ爾曹の子なるか今いかにして見んことを得たる乎二十二親かれらに答けるハ此ハ我子なること生來の譬なることを知二然るに今如何して目明に爲しか我儕これを知らず亦その目を啓し誰なる乎を知らず彼ハ年長なり彼に問よ彼みづから言べし三二親の如此いひしユダヤ人を懼しに因りハイエスをキリストと言明す者あらば會堂より出すべしユダヤ人たがひに議定たれば也三三二親の彼ハ年

長なり彼に問よと言し、此故なり二四、警なりし者を復よびて曰ける、榮を神に歸せよ。我儕の彼人の罪人なるを知、二五、かれ答ける、罪人なるや否われ之を知す我の警者なりしが、今日明になれる此、一事を知、二六、彼等また曰ける、彼、爾に何を行しや如何して爾の目を啓しや、二七、答ける、我すでに爾曹に言しに、爾曹き、す何故ふたごび聞んとするか、爾曹も其弟子に爲んと欲ふや、二八、かれら詎り曰ける、爾、其人の弟子われら、モーセの弟子あり、二九、神のモーセに語し言、我儕しれり然、此人の何處より來れる乎を我儕しらす、三十、其人こたへける、此、奇事なり彼すでに我目を啓しに、其何處より來れるを爾曹しらす、曰、三一、神の罪人に聽す然、神を敬ひて其旨に遵ふ者には聽たまふ、我儕、知、三世の元始より以來、うまれつきなる警者の目を啓し人あるを聞す、三三、もし此人神より出ずば、何事なも行待ざるべし、三四、彼等こたへて曰ける、爾、盡く罪孽に生し者なるに、反て我儕を教る、か遂に彼を逐出せり、三五、彼等も逐出した、こを聞、イエス、尋て之に遇ひける、爾神の子を信する乎、三六、答て曰ける、主よ、彼として我信すべき者、誰なるや、三七、イエス曰ける、爾すでに彼をみる、今なんぢと言、者、それなり、三八、主よ、我信す、曰て彼を拜せり、三九、イエス曰ける、我審判せん爲に世に臨る、即ち見ざる者をしてみえ見る者を、反て警と爲しむ、四十、イエスと偕に居し、パリサイの人、この言を聞て彼に曰ける、我儕も警なる乎、四一、イエス彼等に曰ける、爾曹もし警ならば、罪なかるべし、然と令われら見と言しに、因て爾曹の罪、存れり。

第十章

誠に實に爾曹に告ん、羊牢に入に門よりせずして、他より踰る者、竊賊なり、強盜なり、二門より入者、其羊の牧者あり、三門守、彼の爲に啓き、羊、その聲を聽かれ、己の羊の名を呼て之を引出す、四、彼その羊を引出すとき、先に行なり、羊、其の聲を聽て、之に従ふ、五、羊、別の、人に従はず、反て、避そ、別の、人の聲を識され、六、イエス彼等に、此、譬を言、彼等、その語れる所、いかなる意、か、を知らざり、七、是故に、イエス復、かれらに曰ける、誠に實に、爾曹に告ん、我、即ち、羊の門なり、凡て、我より先に來し者、竊賊なり、強盜なり、羊、その聲を聽ざり、九、我、門なり、若人、われより入り、救れ、且出入をなして、草を得べし、十、竊賊の來る、盜ん、殺さん、し、滅さん、とするの、他なし、我きたる、羊をして、生を得、かつ、豊ならしめん、爲なり、十一、我、善牧者なり、善牧者、羊の爲に、命を捐す、十二、牧者に、あらす、己が、羊を有す、只、や、さ、は、れて、羊を守る者、狼の來るを見れば、羊を棄て、に、狼、羊を奪て、之を散す、十三、雇工の迷る、僱れし者、なれば、其羊を顧ざるに、因て、なり、十四、我、善牧者にて、己の羊を識、又、己の羊に識る、十五、父、われを識、こ、こく、我も、父を識、われ、羊の爲に、命を捐ん、十六、我、此牢に、あらざる、別の羊を、有り、彼等をも、引來らん、彼等、わが聲を聽ん、遂に、一の郡、一の牧者、さなるべし、十七、わが父、われを愛す、蓋われ、再び、命を得ん、が、爲に、命を捐る、が、故なり、十八、我より、之を奪ふ者なし、我、みづから、之を捐るなり、我、これ、捐るの、權能あり、亦、よく、之を得の、權能あり、我、父より、我、この命令を受たり、十九、偕、この言に、因て、復、エ、ダ、ヤ、人、あら、そ、ひ、別、たり、二十、其中なる、多の、人、い、ひ、ける、鬼に、憑て、狂ふ者なるに、何ぞ、彼に、聽、や、

三二 又或人いひけるは是鬼に憑れし者の言に非ず鬼の警者の目を啓ることを能せん乎
 三三 冬のころ脩殿の時三イエス殿のソロモンの廊を行きけるに二四 ユダヤ人の
 れを環圍みて曰けるは我儕を幾時まで疑はするや爾もしキリストならば明かに我儕に告
 一五 イエス答けるは我なんぢらに告しむも爾曹信ぜず父の名に託て我が行ふ事わ
 れに就て證するなり二六 然る爾曹信ぜず此の爾曹に言し如く我羊に非ざれば也二七
 我羊の我聲を聽われの彼等を識かれら我に従ひ二八 われ彼等に永生を賜ふ彼等
 いつまでも亡びず亦これを我手より奪ふ者なし二九 我に彼等を賜し我父の萬有より
 も大なり又わが父の手より之を奪うる者なし三〇 我父の一人なり三一 是に於てユダヤ
 人石をさりて復たれを撃んとせり三二 イエス彼等に答けるは我父より受て我をばくの善
 事を爾曹に示しに其うち何の事によりて我を石にて撃んとする乎三三 ユダヤ人こたへて
 曰けるは石にて撃んとするの善事の爲に非ず爾たは裏賣ことをいひ且なんぢ人なるに己
 を神となすに因てなり三四 イエス答けるは爾曹の律法に我いふ爾曹の神なりと録されし
 に非ずや三五 聖書の毀る可らず若神の命を奉し者神を稱しにハ三六 父の聖別ちて世
 に遣し者われ神の子なりと稱ばさて何ぞ之を裏賣ことをいふと曰べけん乎三七 もし
 われわが父の事を行すば我を信すること勿れ三八 若これをを行ば我を信ぜずとも其事を信ぜよ
 蓋父の我にあり我の父に在ることを爾曹しりて信せんが爲なり三九 彼等また執入さしたり
 しがイエスその手を脱て去り四十 斯て復ヨルダンの外なるヨハ子のバプテスマを施

しる所に往て彼處に居けるに四一 多の人かれに至り曰けるはヨハ子の休徴を行す然も
 も此人につきてヨハ子のいひし言のみな眞なり四二 是に於て許多の人ハこにて彼を信
 ぜり

茲に病者ありラザロと云てベタニヤの人ありベタニヤハアリアと其姉マルタ
 の住る村なりニマリヤの墓に主に香膏をぬり己の頭の髪をもて主の足を拭し人に
 て此病るラザロは彼が兄弟なり三是故にその姉妹イエスの所に主の愛する者病りと言
 遣せり四 イエスこれを聞て曰けるは此の死る病に非ず神の榮の爲なり神の子をして之
 に因て榮を得しめんが爲なり五 夫マルタと其妹もよびラザロハイエスの愛する所の
 者なり六 是故にイエスその病るを聞て此處に二日とままり七 其のち弟子に曰けるは我儕
 またユダヤに往べし八 弟子いひけるはラビユダヤ人の近來も石をもて爾を撃んさせしに
 復かしこに往たまふ乎九 イエス答けるは一日の中に十二時あるに非ずや人もし日間ある
 光の照るべきなき蓋この世の光を見に因てなり十 また人もし夜あるかば躓くべし蓋
 光その人に無が故なり十一 イエス如此いひて後弟子に曰けるは我儕の友ラザロ寢たり我
 れを醒さん爲に往べし十二 弟子いひけるは主よ彼もし寢しならば愈ん十三 イエスの彼の死
 しを語るあれは弟子等の寢て臥ることを言るあらん意り十四 是故にイエス明かに
 彼等に告て曰けるはラザロの死り十五 爾曹をして信せしむる爲に我かしこに在ざりしを喜
 ぶ然といま彼處に往べし十六 デドモと稱するトマス他の弟子等に曰けるは我儕も亦ゆきて

彼さ偕に死へし十七 イエス至てラザロが既に墓に葬れて四日なるを知り十八 ベタニヤのエルサレムに近し其距ること 約そ廿七丁あり十九 多のユダヤ人マルタとマリヤを其兄弟の事に因て慰めんさて既に彼等の所に來りなれり二十 マルタハイエス來給へりき聞て之を出迎へマリヤハなほ室に坐せり二十一 マルタイエスに曰けるハ主よ此に在せしならん我兄弟ハ死ざりしものを三三 然ながら假令今にても爾が神に求る所のものハ神なんちに賜ふさ知三三 イエス曰けるハ爾の兄弟ハ甦るべし三四 マルタイエスに曰けるハ彼が未日の甦るべき時に甦らん事を知なり三五 イエス彼に曰けるハ我ハ復生なり生命なり我を信する者ハ死ることも生べし三六 凡て生て我を信する者ハ永遠も死ることもなし爾これを信するや三七 彼イエスに曰けるハ主よ然り我あんぢハ世に臨るべきキリスト神の子ありと信す三八 如此いひ意て潛に其妹マリヤをよび呼きたりて爾を呼たまへり三九 マリア之をきき急ぎ起てイエスの所に往り三九 イエス未だ村に入らず仍マルタの迎し所になれり三九 マリアを慰めて偕に室に在しユダヤ人マリヤが急ぎ起出るを見て彼の墓に往て哭ならん三九 曰つ彼に隨へり三九 マリアアイエスの所に來り彼を見て其足下に伏いひけるハ主よ若こに在せしならん我兄弟ハ死ざりしものを三三 イエスマリアの哭き彼を備に來しユダヤ人の泣を見て心を慟しめ身ふるひて三四 曰けるハ爾曹何處に彼を置しや彼等いひけるハ主よ來て觀たまへ三五 イエス涙を流たまへり三六 是に於てユダヤ人いひけるハ見よ如何ばかり彼を愛する者ぞ三七 その中ある人曰ける

ハ賢者の目を啓たる此人にして彼を死ざらしむること能ざりし乎三八 イエスまた心を働かして墓に至る墓は洞にて其口の所に石を置り三九 イエス曰けるハ石を去ふ死し者の兄弟 マルタ曰けるハ主よ彼ハはや臭し死てより已に四日を経たり四十 イエス彼に曰けるハ爾もし信ぜば神の榮を見べしと我なんぢに言しに非ずや四一 遂に其石を死し者を置たる所より移去たりイエス天を仰ぎて曰けるハ父よ已に我に聽り我これを爾に謝す四二 我なんぢが恒に我に聽きこきを知しかるに我ハ言は傍に立る人をして爾の我を遣しよこきを信ぜしめんさて也四三 如此いひて大聲に叫ひひけるハラザロよ出よ四四 死者布にて手足を縛れ面ハ手布にて裹れて出イエス彼等に曰けるハ彼を釋て行しめよ四五 マリア偕に來しユダヤ人イエスの行し事を見て多く彼を信ぜり四六 然れども其中にマリヤの一人に往てイエスの行し事を告し者あり四七 是に於て祭司の長等とパリサイの人と議員を召集めて曰けるハ我儕如何すべき乎この人多の奇跡を行なり四八 もし彼を此まゝに棄置せば人みな彼を信ぜん然らばロマの人きたりて我儕の地をも奪べし四九 其中の一人にて此處の祭司の長あるカヤパと云る者彼等に曰けるハ爾曹何をも知す五十 又民の爲に一人死て擧國ほろびざるは我儕の益たる事をも思ざる也五一 此言ハ己より出しに非ず此處の祭司の長なるによりイエスの斯民の爲に死ることを預言せるあり五二 特に斯民の爲のみあらす散たる神の子民等をも一に集んが爲なり五三 偕この日よりして彼等イエスを殺さん共議に議る五四 是故にイエス此より顯にユダヤ人の中を行かず其處を去て野に近き

所なるエフライムといふ邑に往て弟子と共に留れり五五エダヤ人の逾越の節ちかつきければ人々己を潔んが爲に逾越の節の前に郷間よりエルサレムに上り五六イエスを尋れ殿に立て相互に曰ける如何に意や彼は節筵に來ざる乎五七祭司の長等とパリサイの人と已に令を出して若イエスの所在をしる人あらば告べしと云こは彼を執んとする也

第十三節 逾越の節の六日前イエスベタニヤに至る此處は即ち死て甦りしラザロの在所なり

是に於て或人々この處にてイエスに筵席を設くマルタ給仕を爲りラザロもイエスと偕に坐せる者のうちの一人あり三マリヤの眞正のナルダある價たかき香膏一斤を携來てイエスの足に塗また己が頭髮にて其足を拭へり膏のにはひ徧く室内に満り四その弟子の一人なるイスカリオテのユダ即ちイエスを賣さんとする者言ける五此香膏を何ぞ銀三百に售て貧者に施さざる乎六彼が如此いへるは貧者を顧みず非ず竊者にて且金匱を帶その中に入たる物を奪ふ者なれば也七イエス曰けるは彼に與る勿わが葬の日の爲に之を貯へたり八貧者は常に爾曹と偕に在る我は常に爾曹と偕に在る九多のユダヤ人イエスが此に在るを知て來る特にイエスの爲のみに非ず亦その死より甦らしし所のザラロをも見んと欲るあり十祭司の長等ラザロをも殺さん謀る十一蓋ラザロの故に因て多のユダヤ人ゆきてイエスを信するがゆる也十二明日もほくの人々節筵に來りイエスのエルサレムに來らんとするを聞十三櫻櫚の葉を取りきて彼

を迎ホザナと主の名に託て來るイスラエルの王は福ありと呼れり十四イエス驢馬の子を得て之に乗十五録してシオンの女も懼るる勿れ視よ爾の王は驢馬の子に乗て來ることあるが如し十六弟子たち初は此事を曉ざりしがイエス榮を受し後に彼等此事の彼について録され且その事を人々彼に行ひたりしを憶起せり十七イエスのラザロを墓より呼出して甦らしし時かれと偕に居し者ども證を爲り十八この休徴を行しことを聞しに因て人々彼を迎たるなり十九是に於てパリサイの人たがひに曰けるは爾曹が謀る所の益なきを知らずや見よ世は皆かれに従へり二十禮拜のため節筵に上れる者の中にギリシヤの人ありニ彼等カリラヤのベテサイアの人なるピリポに來り求て曰けるは君よ我情イエスに見えんことを欲ふ二三ピリポ來てアンデレに告アンデレ亦ピリポと偕にイエスに告二三イエス彼等に答へて曰けるは人の子榮を受べき時いたれり二四誠に實に爾曹に告ん一粒の麥もし地に落ちて死すば唯一にて存んもし死ば多の實を結ぶべし二五その生命を惜む者は之を喪ひ其生命を惜ざる者は之を存て永生に至るべし二六人もし我に事んさせば我に従ふべし我に事る者は我を所に在ん人もし我に事れば我父は之を貴ぶべし二七今わが心憂悼めり何を言んや父よ此時より我を救たまへと言んか否これが爲に我の時に至れるなり二八願くは父よ爾の名の榮を顯せ此とき天より聲ありて云われ其榮を既に顯す再これを顯すべし二九傍に立る人々これを聞て雷なれりと曰ある人は天の使者かれに語れる也三〇曰り三十一イエス答て曰ける

此聲の我ために非ず爾曹の爲なり三三斯世のいま審判せらる斯世の主のいま逐出さるべし三三我もし地より擧げれば萬民を引て我に就せん三三如此イエスの言る其如何なる状にて死んぞするを示せる也三四人々かれに答て曰ける我儕律法にてキリストの窮なく存者なりと聞しに爾人の子かならず擧れんと言何ぞや此人の子と誰なる乎三三イエス彼等に曰けるいなほ片時のあひだ光なんぢらと偕にあり光ある間に於て暗に追及れざるやう爲よ暗に行く者の其行べき方を知す三六なんぢら光の子と爲べきために光のある間に光を信ぜよイエス此を言擧り彼等を避て隠たり〇三七イエス彼等の前に如此おほくの休徴を行たれども尙かれを信ぜざりき三八此の預言者イザヤがいひし言に我儕の告し言を信ぜし者の誰ぞや主の手誰に顯れし乎と有に應へり三九イザヤ復ていふ彼等目にて見心にて悟り改めて醫るることを得ざらんが爲に彼その目を暗し其心を頑梗せり此故に彼等信すること能す四〇イザヤの彼の榮を見しにより彼に就て如此の語れるなり四二然ご有司等の中に多く彼を信ぜし者も有しがパリサイの人を畏て明に信する言ざりき其會堂より驅られんことを恐るに因四三これ彼等の榮より人の榮を喜ぶるなり〇四四イエス呼り曰ける我を信する者の我を信するに非ず我を遣しし者を信するなり四五又われを見者の我を遣しし者を見たり四六我の光にして世に臨り凡て我を信する者をして暗に居らしめん爲なり四七人もし我が言を聞て守らざるも之を審判す我來し世を審判かんために非ず世を救んため也四八我を

棄わが言を納ざる者を審判者あり即ち我いひと言をはりの日これを審判すべし四九蓋われ己より言に非ず我を遣しし父わが言べきこと我がたる可こと命を給へる也五十その命を給ふ所の即ち永生なるを我しる是故に我いふ所の父の告給ふまことに言るなり

第三十三節 踰越の節の前にイエス此世を去て父に歸るべき時いたれるをしり世に在し己の民を既に愛し終に至るまで之を愛せり二時に彼等晩飯の席につく惡魔のわかれてイエスを賣んとする事をシモンの子イスカリヤテのユダといふ者の心に發さしめたり三三イエス己の手に父の萬物を賜しことごとく神より來り神に歸ることごとくを知四四晩飯の席を起て上衣をぬぎ手巾を取て腰に束五而して盤に水をいれ弟子の足を濯その束たる手巾にて拭はじめ六遂にシモンペテロに及ぶペテロ彼に曰ける主よ爾わが足を濯ふかセイエス答て曰ける我が爲に水を爾いま知す後これを知べし八ペテロ彼に曰ける爾斷て我足を濯べからずイエス答ける若われ爾を濯すば爾の我と干渉なし九シモンペテロ彼に曰ける主よ止に我足のみならず手と首をも濯たまへ十イエス曰ける濯たる者の足のほか濯ふに及す然して全く潔し爾曹の潔し然ごも盡くは潔者に非ず十一此のイエス己を賣んとする者の誰なるを知ゆるに盡くは潔者に非ず十二彼等の足を濯し後その上衣を取また坐彼等に曰ける我なんぢらに行し事を知り十三爾曹われを師と呼また主と呼なんぢらの言をこころの宜われの誠に是なり十四我の爾曹の師また主なるに尙なんぢらの足を

濯ふ爾曹も亦たがひに足を濯ふべし 十五 我なんぢらに例を示せり此の我なんぢらに行じ如く爾曹にも行しめんが爲なり 十六 われ誠に實に爾曹に告ん僕其主より大ならず又使者への之を遣す者より大ならず 十七 爾曹もし之を知て此の如く行ば福なり 十八 我いひし所の爾曹を凡て指るに非ず我の我選し者をしる然れども聖書に我と偕に食する者われに背て踵を擧しと録されしに應せん爲なり 十九 その事の至らん時なんぢら我を信じてキリストとせん爲に其事の至ざる今より之を爾曹に告 二十 誠に實に爾曹に告ん我遣す者を接るの我を接るなり我を接るの我を遣しし者を接るなり 二一 イエス此事を言て心に憂へ證して曰ける誠に實に爾曹に告ん一人なんぢらの中に我を賣者あり 二三 弟子たち互に面を觀あひせ誰を指て言るなる乎と疑ふ 二四 イエスの愛する一人の弟子イエスの懷に倚てありしが 二四 シモンペテロ此の誰を指て言るなる乎を問しめん 首をもて示せり 二五 イエスの懷に倚て在し者イエスに曰ける主よ誰なるか 二六 イエス答ける我一撮の食物に物を濡て予る人の其なりとて遂に一撮の食物に物を濡てシモンの子イスカリヤテのユダに予ふ 二七 彼が一撮の物を受し其時サタン彼に入り是に於てイエス彼に曰ける爾が爲んとする事の速かに爲せ 二八 彼に何故に如此いひしかを同席に在者どもの中たる者あらざらんか 亦貧者に施さしむるならんか 意り 三十 偕われ一撮の食物を受て直に出たり時既に夜なりき 三一 彼の出し後イエス曰ける今人の子榮をうく神また彼に因て榮を受るなり 三二 神もし彼に因て榮を受る時神も亦みづからの榮の中に彼を榮しむ直に彼を榮しめん 三三 小子よ我なほ片時なんぢらと偕にあり爾曹われを尋ん我ゆく所に爾曹に至ること能じ前に之をユダヤ人にいふ今また之を爾曹に告 三四 われ新誠を爾曹に予ふ即ち爾曹相愛すべしこの是なり我なんぢらに愛する如く爾曹も相愛すべし 三五 爾曹もし相愛せば之に因て人々爾曹の我弟子なることを知べし 三六 シモンペテロ彼に曰ける主いづこへ往給ふや イエス彼に答へける我往きころへ爾いま從ふこと能す後われに従はん 三七 ペテロ彼に曰ける主よ何故に今なんぢに従ふこと能ざるか 我爾の爲に我命を損ん 三八 イエス彼に答ける爾命を我ために捐るや誠に實に爾に告ん 鶏なからざる前に爾三たびわれを識すと言ん

第十四章

なんぢら心に憂ることを勿れ神を信じ亦われを信すべし 二 わが父の家に第一宅おほし然らず我預て爾曹に之を告べきなり我なんぢらの爲に所を備に往 三 もし往て我なんぢらの爲に所を備は又きたりて爾曹を我に納べし我なる所に爾曹をも居しめんさて也 四 爾曹わが往所を知らず其途を知 五 トマス曰ける主よ我儕なんぢの往所を知らず何にして其途を知んや 六 イエス彼に曰ける我の途なり眞なり生命なり人もし我に由ざれば父の所に往きこと能ち 七 若なんぢら我を識ば我父をも識べし 今より爾曹かれを識なり 已に爾曹かれを見たり 八 ピリが彼に曰ける主よ我儕に父を示し給へ然ば足り 九 イエス彼に曰ける 九ピリが我かく久く爾曹と偕に在しに未だ我を識ざるか 我を見し者父を見しなり 何ぞ父を